

18

103

検視証一斑全

060913-000-0

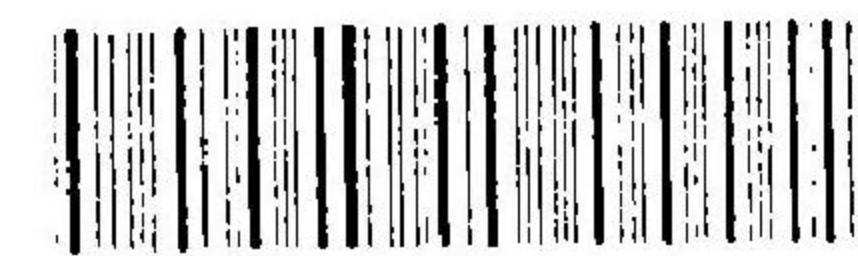
18-103

検視証一斑

佐藤 亮信 / 編

M22

CBN-0011



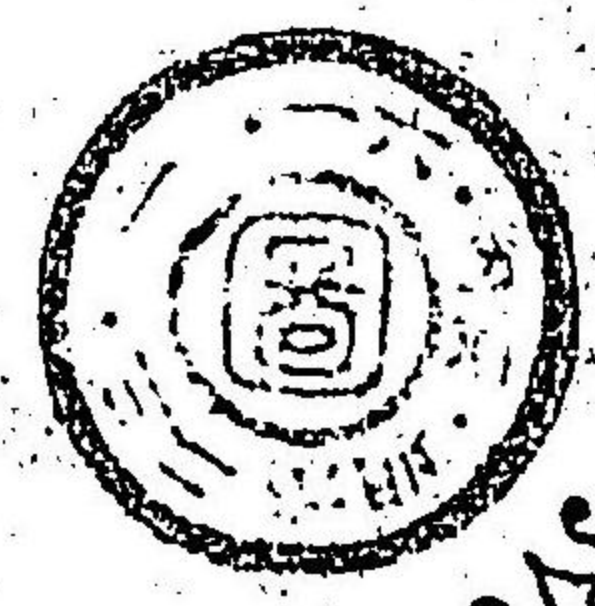
18-11  
APR 1841  
23



魏親證一斑全

佐藤亮信編述

佐藤氏藏



緒言

余嘗テ職ヲ警察ニ奉スルノ初メ一日檢視ノ命ヲ帶ヒ死者ノ所在ニ臨檢スルヤ立會醫師  
其死因ヲ説明シ且ツ告ケテ曰ク世人救急ノ法ヲ知ラサルカ爲メ一朝死ニ瀕スル者アル  
ニ當リテハ生死瞬息ヲ爭フノ間恐慌狼狽ニ空過シ終ニ眞死ニ陥ルニ及ンテ空シク死躰  
ヲ擁シテ狂喚悲慟ノ涙ニ咽フノミ之レ余ノ屢々實見スル所今此ノ死者ヲ診按スルニ實  
ニ前見ノ觀ナキヲ得ス嗟乎豈ニ人類ノ本分トシテ親屬故舊ノ情誼トシテ萬憾ノ念追悼  
ノ情血淚數行ノ能ク堪ユル所ナランヤ然リト雖モ常人ノ之ヲ知ラサルカ爲メ事ニ臨テ  
遂巡遽懼スル其心情幾分カ恕セサルヘカラスト雖モ苟モ當該ノ職掌トシテ其危機ニ會  
シ茫然自失敢テ爲ス所ナキノミナラス尋テ檢視ヲ遂ルニ方リ其死因ヲ確認スル能ハス  
シテ一ニ其見ヲ醫師ニ托スルカ如キハ豈ニ輒テ警察ノ職任ヲ完フシタリト謂フヲ得ン  
ヤ況ンヤ死者九泉ニ長ク恨ヲ吞ミ生者目前ニ轉々歎歎スルニ於テチヤト余當時以テ然  
リト爲シ日夜之ニ關スル先規古例ヲ精査スト雖モ未タ以テ一モ満足ヲ與フルモノナク  
悄然疑懼此ニ數月偶々訓授ニ補セラレ巡査教習所ニ轉スルニ及ヒ始テ數種ノ書籍ヲ緝

閱スルノ便ヲ得テ心私カニ得ル所アルヲ覺ユ其後出テ、警察ノ實務ニ當ルヤ兎故ノ飛  
 報ニ接スル毎ニ醫員施術ノ幾分ヲ補助シ且其死因ニ付往々學習ノ見ヲ確實ナラシメタ  
 リ因テ實見ノ一班ニ醫說上ノ簡便ナル事例ヲ拔萃シ加ルニ司法警察ニ關スル應用上ノ  
 指令内訓及諸大家ノ註解ヲ參酌シテ一部ノ冊子トナシ以テ曠職ノ責ニ備フル日久シ矣  
 頃日警視ニ奉職スル舊知某偶々余ノ寓ヲ叩キ間談數時語警察ノ問題ニ渉ル某曰ク足下  
 群馬ニ在職スル四年其間警官練習所ニ選拔セラレ練習ノ業成テ歸縣スルヤ巡查教授ニ  
 從事シ尙ホ且實務ニ熟掌スト今ヤ即チ其身ヲ實業社會ニ委シ屹々トシテ敢テ他意ナキ  
 モノ、如シ嘗テ下僚ヲ水火ノ間ニ指呼シテ能ク其奔命ニ奇機ヲ制シタル昔時當務ノ感  
 ハ今果シテ如何ト余直チニ一綴ヲ抽取シ之ヲ示シテ曰ク非才淺劣ノ余豈惜哉兄ヲシテ  
 空シク徒爲ノ悔ヲ取ラシメンヲ吁、往時ヲ追回スレハ茫茫漠々有ルカ如ク無キカ如ク  
 恰モ萬點ノ星光ヲ行雲斷續ノ間ニ一瞥シタルニ異ナラス而シテ腦裏強テ之ヲ叩ケハ心  
 魂隱然トシテ眼底ニ髣髴スルモノハ驕炎熾クカ如キノ日雪風肌ヲ劈クノ夕狂奔力盡キ  
 テ繼クニ夢走シタル境遇ニアラサレハ兎刀ノ下刀圍ノ間能ク一呼ノ氣ヲ激シテ萬死ニ

一生ヲ得タル危觀ノミ今ヤ之レカ紀念ノ一斑トシテ見ルヘキモノハ僅カニ此手記ノミ  
 兄夫レ一見ノ勞ヲ吝ムナクンハ由テ以テ其實況ヲ想見セラレヨト其後來リ告ケテ曰ク  
 足下カ豫テ與フル所ノ紀念錄大ニ執務ノ一助トナリ之ヲ二三ノ僚士ニ指示シタルニ各  
 自一見シテ他ニ傳唱シ爲メニ鉛槧ニ托シテ其惠ヲ頒タノコトヲ請フ者拾數名ニ至ル足  
 下ノ意如何ト余其好意ヲ謝シ更ニ謂ツテ曰ク裁判醫學ノ議論紛然タル今日ニ當リ區々  
 シル事例ヲ以テ妄リニ其是非ヲ斷定シ加フルニ困難ナル司法警察ノ問題ニ對シ吾輩門  
 戶ノ見ヲ以テ疎漏錯雜ナル摸型ヲ作爲シ爲メニ兄等ヲ誤ルニ至リテハ余其責ヲ辭スル  
 ヲ得メ豈ニ恐レサルヘケンヤト某可カスシテ曰ク足下ノ憂ハ俗ニ所謂取越苦勞ノミ何  
 トナレハ此ニ拘泥シテ執務ニ錯誤ヲ生スルト否ト取捨參酌宜シキヲ得テ當務ノ萬一  
 ヲ裨補スルト否トハ吾人同盟者ノ見識如何ニ存スルニアラスヤ然ルニ區々タル細故ニ  
 懸念シテ吾人ノ本意ヲ空フセントスル抑モ將タ何ノ意ソト余辭スルニ由ナク終ニ其好  
 意ニ報シテ姑ラク此書ノ死生ヲトセントス看官諸君幸ニ此意ヲ諒セラレヨ

明治二十二年十一月下浣

編者 識

檢視證一斑目次

第一章 總論 七

第二章 救急論 十三

第一節 假死監查法 十五

第二節 患者救急法 十六

第一、創傷救助第二、打撲骨折傷救助第三、火傷電傷救助第四、凍傷救助第五、負傷者運搬法第六、昏倒救助第七、絞縊救助第八、溺死救助第九、中毒救助第十、人工呼吸術第十一、患者取扱報告書書例

第三章 眞死監查法 三十

第一節 死屍ノ形狀監查第二、死因監查

第一節 檢視手續 三十九

第二節 毆死監查法 四十一

第三節 殺傷死監查法 四十四

第四節 絞死監查法 四十五

第五節 縊死監查法 四十七

第六節 溺死監查法 四十九

第七節 焚死湯瀝死監查法 五十一

第八節 毒死狗死蟻毒死監查法 五十二

第九節 諸種ノ死微監查法 五十三

第四章 檢證論

第一節 通則 六十八

第二節 現行犯ノ檢證 七十九

第三節 非現行犯ノ檢證 八十一

第四節 書式記載例 八十五

第一、告訴調書第二、訊問調書第三、送致書第四、竊盜犯人逮捕告發書第五、檢證調書第六、臨檢調書第七、違警罪告發狀及訓解第八、逮捕告發調書第九、檢證調書第十、全上第十一、犯人搜索調書第十二、囑託家宅搜索調書第十三、差押物件目錄第十四、囑託訊問調書第十五、証人訊問調書第十六、証人訊問調書

第五節 銃砲彈藥製造罪ノ檢證 百十八

第六節 往來通信妨害罪ノ檢證 百十九

第七節 家宅侵入罪ノ檢證 百二十一

第八節 封印破毀罪ノ檢證 百二十一

第九節 貨幣度量衡官私印偽造變造罪ノ檢證 百二十二

第十節 健康罪ノ檢證 百二十三

第十一節 賭博罪ノ檢證 百二十三

第十二節 第一、告發狀書例第二、物件差押調書第三、訊問調書第四、證據品押收調書 百二十九

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓發掘罪ノ檢證 百二十九

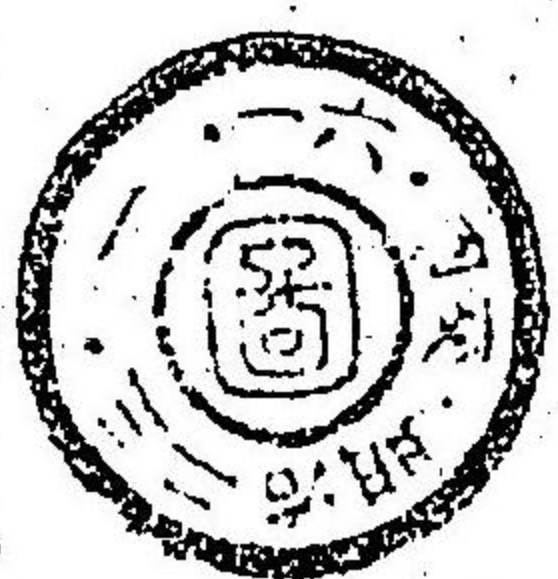
No 184 / 23

檢視證一斑

第一章



總論



佐藤亮信編述

泰西日進月歩ノ文明皓々乎トシテ東耀セシヨリ此ニ二十有余年此ノ僅々タル星霜ハ我邦社會ニ對シテ改良ト稱スル一種ノ問題ヲ提出シ上、施政ノ針路ヨリ下、服食ノ具ニ至ルニ都テ之カ指呼ノ聲トナラサルハナシ而シテ其勢力ノ稍ヤ強盛ナルノ機ニ乘シ民權自由ノ辨ハ之レカ先鋒トナリ權利義務ノ說ハ之レカ殿兵トナリ而シテ富國強兵殖産興業ノ術彙ニ之レカ傳令トナリ兵器トナリテ各々開明ト稱スル旗章ヲ躑カヘシテ吾人ノ腦裏ニ突進スル共ニ人智ノ進歩風俗ノ變化モ頓ニ舊態ヲ一新シ終ヒニ新日本又ハ新天地ト稱スル貴號ヲ自博シ吾人ヲシテ轉々感歎ノ至リニ堪エサラシム然リト雖此一步ヲ退ヒテ社會ノ反面ヲ觀察スルニ人智ノ進歩ハ日ニ輕佻浮薄ニ化シ去リ風俗ノ變化ハ以テ形體的摸倣ノ心醉トナリ頻繁ナル生存場裏ニ幾層ノ紛冗ヲ加ヘ其極終ニ人ヲシテ敢テ憂フヘカラサルコトヲ憂ヘ敢テ羨ムヘカラサルコトヲ羨ミ而シテ耻ツヘキ

七

第十三節	兇殺罪ノ檢證	百三十
第十四節	兇傷罪ノ檢證	百三十八
第十五節	自殺傷罪ノ檢證	百四十
第十六節	強姦罪ノ檢證	百四十一
第十七節	強盜罪ノ檢證	百六十一
第一、告發調書第二、檢證調書第三、檢按書第四、被傷者調書第五、証人訊問調書第六、被告人訊問調書第七、証人訊問調書第八、所持品目錄第九、贓品押収調書第十、搜查復命書及其訓解第十一、監視違犯告發狀第十二、意見書		百六十二
第十八節	竊盜罪ノ檢證	百六十五
第十九節	火災罪ノ檢證	百七十
第二十節	決水罪ノ檢證	百七十一
第二十一節	船舶覆沒罪ノ檢證	百七十一
第二十二節	家屋器物及ヒ動植物毀壞罪ノ檢證	百七十三
附錄	常用辭解	

目錄終

六

コトヲ耻サルノ邪習ヲ馴染シ其弊ノ彌蔓スル所道德ノ軌範國習ノ好尚ハ以テ風紀ヲ維持シ德義ヲ監守スルノ眞價ヲ減少シ於是乎已ノ境遇ヲ以テ漫然世ノ盛衰ヲ説ク者アリ人ヲ視ルノ明ナリシテ妄意ニ毀譽ヲ談スルモノアリ徒ラニ世ノ浮利ヲ逐フ者アリ權ヲ弄シテ驕ニ流ル者アリ其富メルヤ人ヲ視ルコト塵芥ノ如ク貧ヤ人ニ狎ル、コト瘦狗ニ似タリ故ニ勤勉躬行ノ潔士ハ動モスレハ固陋ト擯斥セラレ敦厚素朴ノ清民ハ却テ頑鈍無智ト笑ハル忠良ハ直言シテ誹毀ノ冤ヲ蒙リ達士ハ名ヲ正シテ狂者ト目セラル是ヲ以テ衆名ハ陰奸權詐ニ基キ勢利ハ慳貪汚行ニ生スルモノト解シ塵ヲ拜シテ私利ヲ營ミ人ヲ誑シテ奇幸ヲ制スル狐巧ノ智狸欺ノ才相踵テ社會ノ表面ニ現出シ亦タ能ク世ノ優遇ヲ受クルニ至ル

人アリ吾人ヲ難シテ曰ク凡ソ時勢ノ推移人情風俗ノ變化ハ天爲自然ナリ豈ニ人力ヲ以テ其盛衰ヲ左右スヘキモノナラシヤ然ルニ之ヲ左右シ且左右セントスルモノハ理勢ニ通達セサル妄想者ノミ故ニ方今ノ大勢ヲ目シテ以テ衰弊多端ト爲シ一ニ其資ヲ洋物的輸入ニ歸セントスル者ハ乃チ此妄想者ノ説ニ過キサルノミ何トナレハ民權自由ノ辨ハ

吾人ノ本分ヲ惑亂セシカ權利義務ノ説ハ吾人ノ德義ヲ蕩奪セシカ富國ノ策強兵ノ術殖産興業ノ論ハ果シテ吾々社會ニ對シテ如何ナル惡影響ヲ波及セシソ未タ以テ其兇蹟ノ見ルヘキモノアルニアラスヤ否ナ見ルナキノミナラス却テ人々各自チシテ多年枉屈シタル精神ヲ伸暢シタルノ恩アルニアラスヤ然ルニ是レヲ以テ直ニ其弊ナリト放言スルハ即チ守舊家ノ口吻ナラサレハ頑陋子カ妄談ノミト余之ニ對ヘテ曰ク余輩不敏ナリト雖也豈ニ洋物排斥ニ無用ノ辨ヲ勞シテ以テ我邦ノ弱點ヲ他ニ標章スル者ナランヤ惟ダ吾人ガ常ニ愛フル所ノモノハ彼我ノ由來ヲ明知セズ亦富強ノ程度ヲ較定セズ妄意ニ外觀ヲ逞フシテ以テ彼レト頡頏セントスルヲ抑モ夫ノ西人ノ如ク嘗テ生存競爭場裏ニ於テ幾許カ處世ノ眞味ヲ歷嘗シテ優勝劣敗乃チ之レ眞理ト穿テ爾腦髓ニハ勢利ノ念ハ以テ遺傳トナリ凌弱ノ術ハ以テ習慣トナリ一轉シテ勤勉力行トナリ忍耐持重トナリ其精氣化シテ諸種ノ發明トナリ利用トナリ而シテ今日ノ實功ヲ收メタル彼ガ盛況ヲ認メテ以テ偶然視シ其説ヲ聞クノ容易ナルヨリ一朝ニシテ之ニ比肩セントス宜ナル哉其利ニ伴フ弊ニ堪ニザルヲ然ルニ難者之レ是ヲ思ハスニテ却テ吾人ノ疑ヲ解クニ形體的心願

ノ過ニアラズ亦進化ノ原則ヲ脱出シタルニアラス乃チ天爲自然ナリト辨スルニ至リテハ其惑益々甚シキニ驚カサルヲ得ス嗚呼愛フヘクンハ眞ニ憂フヘシ羨ムヘクンハ眞ニ羨ムヘシ何ソ區々タル外慕ニ神志ヲ勞シテ其真相ヲ洞察スルコトヲ勉メサルソ若シ否ラストスハ何故ニ高妙深微ノ神術奇策ヲ認メテ以テ空理ヲ談スルノ觀ヲ呈出セシソ吾人ハ之レニ對スル眞誠ノ希望ト氣力トノ薄弱ナルニ泣クト共ニ言フベクシテ行フベカラストノ腐言ヲシテ益々社會ニ勢力ヲ張ラントスルノ實況ヲ顧ミテ轉々長歎大息ノ至リニ堪ニス

今夫レ此煩擾紛雜ナル社會ヲ處スルニ敢テ酷ニ流レズ亦暴ニ失セズ能ク時宜ノ中ヲ得テ其變化ヲ制シ以テ活動社會ノ秩序ヲ整理シ一ハ之ガ指道ノ標準トナリ一ハ之ガ反影ノ地位ニ立ツ其指導ノ標準トナリテハ斯民ヲシテ其行ノ所ニ安カラシメ其反影ノ地位ニ立ツテハ能ク之レガ本色ヲ眞寫シテ秋毫モ曇ルコトナク以テ各自ノ本分ヲ反省セシメ邦家ヲ盤石ノ安キニ置クノ大任ハ果シテ誰レカ之レニ當リ亦之レヲ能クセシカ必ラスヤ威嚴ト觀察トノ實力ヲ備ヘ師ニシテ傳ヲ兼テタル警察官其人ニアラスシテ將タ誰ソ

乎此重大ナル責任ヲ負荷シテ此艱難ナル衝路ニ當リ而シテ此危勢ヲ安固ナラシメントスル警察官其人ハ何如ナル天眼ト神通力トヲ以テ其目的ヲ達セントスルカ之ヲ再言セハ如何ナル方法ニ依テ其本分ヲ完フセントスルカ必ラスヤ大匠ノ規矩準繩ニ由テ以テ其材ヲ器ニシ其巧ヲ爲スカ如ク能ク法律規則ヲ會得シ且ツ運用ノ妙ヲ得タル天眼神通ノ力ニ由ラスンハアルベカラサルヲ

然ルニ法律規則ノ繁多ナル之ヲ了會スルノ困難ナルヨリ往々奔命ニ寸暇ナキヲ口實トシテ常ニ之レカ講習ヲ忽セニス而シテ一朝困難ナル問題ニ遭遇スルヤ動モオレハ規定ノ範圍ヲ脱出シ人其不當ヲ詰チレハ漠然臨機ノ處分ト答ヘ錯誤蔽フ能ハサルニ至リテハ時機ヲ制シタル權釋ト云ヒ時弊ヲ濟フノ利解ト稱シ終ニ理論ト實際トニ強テ區劃ヲ設ケントス余ハ常ニ憂フ眞ニ此クノ如クンハ假令法律規則ニ熟達スルモ決シテ此重大ノ責任ヲ完フスル能ハサランヲ

抑モ人トシテ人タルノ本分ヲ完フセントスルモノハ乃チ其人タルノ道ヲ知ルニアリ而シテ人タルノ道ハ常ニ人タルヘキ誠慮ニ存セリ此故ニ人トシテ人タルノ本分ヲ完フセ



ントセハ則チ此誠慮ヲ以テ其道ヲ求メサルヘカラズ之レト等シク世ノ師傳タリ父母タルノ本分ニ於ケルモ亦タ只タ此ノ誠慮ノミ故ニ是ヲ以テ一朝其道ヲ得ルヤ身ヲ殺シテ以テ其分ヲ完フスル固ヨリ敢テ難シトセス況ンヤ其他チヤ然リ而シテ今日ノ世ニ方リ能ク此ノ誠慮ヲ以テ其道ヲ求メ猶ホ且ツ身命ヲ抛ツテ其本分ヲ完フスルモノヲ歴觀スルニ警察官其人ニ於テ殊ニ著シキヲ見ル故ニ吾人ハ其人ヲ敬慕スルト共ニ猶ホ其余力ヲ利用シテ社會全般ノ誠慮ヲ發揮セラレンコトヲ

富國ノ策宜シク講スヘシ強兵ノ術宜シク談スヘシ民權自由ノ理權利義務ノ說相唱道シテ以テ之ヲ伸暢スヘシ殖産宜シク興スヘシ興業宜ク盛ナラシムヘシ蓋シ此誠慮ノ人々各自ノ腦裏ニ充實シテ苟クモ言ニ發スルモノハ其ノ何タルニ拘ハラズ之ヲ實行セザルヲ以テ恥トナシ充分之レニ對スル獨立獨行ノ勇氣ト希望トノ門戸ヲ開キタル時ニ然ラズンハ基礎ナキ家屋ヲ構造スルガ如シ何ヲ以テカ改良ノ全功ヲ必スヘケンヤ宜ナル哉文明ノ事業ヲ羨望シテ妄意ニ彼ニ擬セントスノハ恰モ空中ニ樓閣ヲ經營シテ其奇觀ニ誇ラントスルニ異ラサルチ嗚呼歐米今日ノ盛況ハ果シテ那邊ニ胚胎セシン乃チ此ノ誠

慮ニ發出シタル眞誠ノ智識ト勇氣ト希望トノ賜モノニアラスヤ然ラハ乃チ是等ノ基礎ヲ養成セントスル責任者ハ果シテ如何世ノ先覺者ト稱スルモノアリ耳目ト稱スルモノアリ又ハ教育家宗教家ト稱スルモノアリト雖モ就中正義ト躬行トヲ以テ一身千萬ノ恩威ヲ荷フ警察官ノ強盛ナル感化力ニ若カサルヲ故ニ吾人ハ常ニ此重望ヲ警官其人ニ屬スルト共ニ能ク法律規則ノ眞理ヲ穿テ猶ホ且ツ時ト所トノ兩眼鏡ヲ掛テ以テ活動場裏ノ本色ヲ神照シ上ハ以テ造化ノ功勞ヲ裨補シ下ハ以テ人心ノ正邪ヲ督シ外ハ他テ一國ノ風紀ヲ代表シ内ハ以テ師傳タル德義ヲ至善ニ完フセラレンコトヲ希望スルモノナリ

### 第二章 救急論

生アル者此ニ死アリ死豈人類ニ於テ何チカ之チ異マン然リト雖モ死ハ人類生存ノ本旨ニアラス故ニ病魔四圍ノ飢人ト雖モ尙ホ生養ノ道ヲ求メテ已マス蓋シ天爲ノミ求メテ而シテ然ルニアラス既ニ然リ是ヲ以テ人ノ一朝非命ニ斃レ若クハ危難ヲ蒙ルヤ其ノ知ルト否ト亦其兇漢匪徒タルト否トヲ問ハス等シク見テ以テ慘憺不幸ノ情ニ勝エサルハ死ノ天爲ニ外ナラス然レモ一死泰山ヨリ重キ者アリ亦鴻毛ヨリ輕キ者アリ惡漢兇チ過

フシテ爲メニ此等ノ奇禍ニ罹ルカ如キハ其情尙ホ忍フヘシ其雄壯強健ノ身ヲ以テ兼テ有爲ノ素質ヲ懷キナカラ一朝感情ノ支配スル所トナリ或ハ過失ノ爲ニ其ノ死ニ陥リ若クハ怨恨利慾ノ爲メニ一命ヲ犠牲ニ供スルニ至リテハ其情ノ憫ムヘク其死ノ惜ムベク豈ニ人類ノ本分トシテ酸鼻ニ勝エサルノミナランヤ況ンヤ生存社會ニ對シテ幾許ノ裨益ヲ附與スル器材ヲ空フスルニ於テチヤ此故ニ人ノ危機ヲ踏ミ死ニ瀕スルヲ見ルヤ其人ノ何タルナ間ハス先ツ相呼ンテ之レカ救助ニ焦慮スルハ固ヨリ以テ偶然ノ事ニアラス然リト雖モ心機已ニ衰ヘ呼吸窒息スルニ至リテハ之レヲ救助スルニ其術ニ依ルニアラスンハ起生回生ノ効得テ期スヘカラス之レ救急法ノ欠クヘカラサル所以ナリ然リ而シテ氣息已ニ絶エ眞死ノ徵候顯然タルニ至リテハ世ノ所謂神醫ト雖モ如何トモスカラス況ンヤ其他チヤ是ヲ以テ一朝兇變ニ臨ミ救急ノ術ヲ施サントセハ先ツ患者ノ悶絶窒息果シテ眞死ニ陥リタルヤ否ヤヲ診按セサルヘカラス之レ救急法ニ先ツテ眞死假死ノ鑑別ヲ爲ササルヘカラサル所以ナリ

(附記) 編者嘗テ職ニ在ルノ日競馬興行取締ニ出張スルコト殆ント貳十回其間危險

ノ實況ヲ目撃スルコト三々今尙ホ記憶ニ存スル一事ヲ擧クレハ乃チ逸馬競駢中過ク奔蹄ヲシラシ顛仆シタルカ爲メニ乗手馬背ノ下ニ墜落シ全身劇壓ノ爲メ一時悶絶セシニ付救急トシテ其場ニ臨メハ乃チ群騷潮涌喧駭恰モ狂スルカ如ク熱鬧ノ狀悲叫ノ聲相和シテ殆ント眩暈セントス是ニ於テカ狂喚疾呼ノ衆ヲ排シ直チニ繩ヲ數間四面ニ張り以テ無用ノ傍觀者ヲ阻止シ且ツ部下チシテ其侵入ヲ督セシメ患者ノ親屬故舊僅ニ四名チ會シ式ニ依リ人工呼吸術ヲ施シ氣息漸ク恢復セシチ以テ面上ニ冷水ヲ灌注シ且ツ寶丹ヲ含マシメ運搬ノ正規ニ依リ患者ヲ戸板ニ載セ之ヲ最寄醫家ニ送致シ施療セシメタルニ生命ニ差支ナキ旨診按セリ而シテ羅災後ノ時間ヲ反視セハ未タ二十分時ヲ經過セヌ其後十數日ヲ經テ全快ノ報ニ接セリ以上實地取扱ヒタルノ救急ヲ參考トシテ此ニ附記ス

### 第一節 假死監査法

第一條 假死トハ精神知覺運動ノ三機ハ勿論呼吸血行體温等ノ有無殆ント決シ難ク外觀上恰モ死者ノ如キチ云フ其徵候ヲ檢査スルニハ左ノ數項ニ準據スヘシ

(甲) 明鏡若クハ劍ノ中身及ビ鞘等ヲ以テ口鼻ノ間ニ密接シ之レニ暈翳ヲ生スルトハ呼吸機能未ダ絶塞セサルノ徴トス或ハ羽毛ノ如キ輕体物ヲ鼻前ニ致シテ動搖クモ亦同シ

(乙) 満水ノ小杯ヲ心臟部ニ靜置シ水面動搖スルハ心臟機能ノ作用未ダ絶止セサルノ証トス或ハ細針ヲ以テ皮膚ヲ穿刺シ血點ヲ生スルヤ否ヤヲ檢スルモ亦タ可ナリ  
(丙) 皮膚ノ反應即チ皮膚ヲ強擦スルカ或ハ刺戟藥ヲ塗布シテ其部分充血シテ赤色ヲ顯呈スル片其他電氣施術等種々アリト雖モ先ツ以上ノ檢査ヲ施シテ其反應アルハ假死ノ徴候ナルヲ以テ本章第二節以下ニ掲グル救急法ヲ施スヘシ

### 第二節 患者救急法

#### 第一 創傷救助

第二條 創傷ハ其金創打創銃創ニ抱ハラス先ツ創所ヲ檢シ衣帶等ノ之ヲ掩フモノアラハ宜シク之ヲ解弛スヘシ若シ創内ニ竹木屑片等異物ノ容易ニ除去スルヲ得ヘキモノハ注意シテ之ヲ除キ清水ニテ洗滌スヘシ然レモ爲メニ時間ヲ徒費シ又妄リニ身体創

所ヲ動サマルトニ注意スヘシ

第三條 凡ソ創傷ハ出血ヲ止ムルノ手當ヲ以テ第一トス殊ニ血色鮮紅ニシテ噴出スルモノハ危險ナルカ故ニ瞬時モ猶豫スル事ナク即時止血ノ法ヲ施スヘシ其法ハ指ヲ出血スル創内ニ挿入シテ脈管ノ切口ヲ押壓シ或ハ創ノ周圍ヲ強壓スルモノニシテ即チ之ヲ直壓法ト云フ此法ハ最モ簡易ニシテ久シキニ堪エ得ルハ其効確實ナリトス又創口ヲ隔テ、遠ク創所ノ上部ニ於テ其脈管ノ通路ヲ拇指或ハ諸指ニテ強壓シテ血ヲ止ムルノ法アリ之ヲ間壓法ト云フ此法ハ四肢ノ創傷ニシテ出血甚シキ者ニ緊要トス即チ速カニ左手ヲ以テ先ツ直壓法ヲ行ヒ血ヲ失ハサラシメ而シテ右手ヲ以テ間壓法ヲ施スヘシ右手ノ間壓其當ヲ得ルハ左手ノ直壓ヲ放ツモ創口ヨリ出血スルコトナ生チ以テ徐々ニ左手ヲ離シ更ニ右手ノ勞ヲ助クヘシ若シ二人ニテ救護スルトキハ一人ハ速カニ直壓法ヲ施シ一人ハ間壓法ヲ行フヲ以テ最モ良シトス

第四條 間壓法ニ種々ノ止血器ヲ用ユルノ法アリ然レモ其器ノ備ナキハ布巾ニ木片或ハ土砂等ヲ包テ小枕子ト爲シ之ヲ前條ノ間壓法ヲ施スト同一ノ部ニ當テ其上ヨリ

手拭、細帶等ニテ緊縛スヘシ或ハ單ニ手拭布片等ノ中央部ヲ結ヒ其結ヒ目ヲ脈管上ニ當テ小枕子ノ代リト爲シ其兩端ヲ以テ緊縛スルモ可ナリ又創ノ部位ニ依リテハ布片ヲ疊ミ直チニ創口ヲ掩ヒ其部ヲ身体ノ他部ニ密接シ手拭紐帶等ヲ以テ共ニ緊縛スルコトアリ又鼻中肋間腔内等ノ如キ深部ノ出血ニシテ以上ノ止血法ヲ施シ難キ片ニハ海綿、糸、糸珠、布片、綿花ノ類ヲ固ク創内ニ究填シテ血ヲ止ムベシ凡ソ出血止ムト雖モ漫リニ細帶止血具ヲ去ルヘカラス再ビ出血ノ虞アレハナリ

第五條 出血全ク止ムカ或ハ未ダ止マサルモ些少ナラバ布片ヲ二三ニ疊テ直チニ創口ニ貼シ手拭布巾等ヲ以テ適宜ニ細縛スヘシ創傷四肢ニ在リテ骨傷ヲ兼スルモノハ可成的患肢ノ位置ヲ正クシ副木ヲ其外側ニ當テ滑脱動搖セサル様注意シテ細縛スベシ但シ副木ニハ竹木片、鐵葉片、板、厚紙、其他ノ物ヲ以テ臨時之ニ應用シ又身体諸部ニ乾着セシ血ハ叮嚀ニ拭ヒ去ルヘシ

第二 打撲傷骨折傷救助

第六條 打撲ニ由テ生スル腫起疼痛ハ皮膚損壞ノ有無ニ關セス冷水ヲ布片ニ侵シ直チ

ニ之ヲ貼シテ細縛スヘシ四肢ノ打撲ハ冷水ヲ盛リタル桶中ニ患部ヲ浸漬スレハ最も妙ナリ又打撲ノ胸腹部ニシテ時間ヲ經タル後ヲ刺スカ如キ劇痛ヲ發シ甚シク惡寒スルモノハ重症ノ徵ナリ極メテ安靜ニシテ且ツ患部ヲ冷ヤスヲ緊要トス

第七條 吐血甚シキ者ハ速ニ頸胸ヲ檢束セル衣襟ヲ弛メ身体ヲ安靜ニシ綿散糸若クハ綿花紙片等ヲ深ク鼻中ニ挿入シ或ハ冷水ヲ以テ前頭及ヒ頂部ヲ冷スヘシ且ツ患者ノ頭部ヲ前ニ屈セシメサルヲ要ス若シ出血止マサレハ酢或ハ少許ノ明礬<sup>ミョウバン</sup>ハフシノ粉ヲ冷水ニ和シ患者ニ強ク之ヲ嗅入セシメ且ツ男子ハ陰囊婦人ハ両乳房ヲ水ニテ冷スヘシ

第八條 打撲ニ由テ氣絶昏倒スレハ救護者一人ハ先ツ患者ヲ扶起シテ自ラ患者ノ背ニ跪居シ患者ノ背部ヲ自身ノ腕上ニ支持シ右手ヲ以テ軀幹ヲ抱キ左手ヲ以テ頭部ヲ保持シ一人ハ速カニ冷水ヲ以テ面上及ヒ胸部ニ散布シ或ハ高聲ニ喚呼シテ之ヲ醒覺セシムヘシ

第九條 骨折傷ハ患部ノ位置ヲ正シク可成苦的痛ナキ様安靜ニ保護スルヲ以テ專一ト

ス即チ上肢ニ在リテハ患肢ヲ伸シ軀幹ニ接シテ共ニ繃帶シ或ハ曲ゲテ胸腹上ニ安置シ健手ヲ以テ自ラ支持セシム下肢ノ折傷ハ副木ノ代リトシ布片ヲ以テ共ニ敷處ヲ繃帶スヘシ又創傷ヲ兼ヌル者ハ創傷部ニ示スカ如ク之ヲ處置シ打撲アラバ水ヲ以テ其部ヲ冷スヘシ

第三 火傷電傷救助

第十條 傷度ノ如何ニ關セス阿列布油若クハ胡麻油等ニ蘸シタル布片ヲ以テ直チニ傷部ヲ掩ヒ輕ク繃帶スヘシ指趾ノ火傷ニシテ表皮ノ脫離セルモノハ指ト指トノ間ニ油ヲ塗リ布片ヲ插ミテ指ノ互ヒニ癒着スルヲ防クヘシ又直チニ患部ヲ冷水中ニ浸入スルモ可ナリ水泡ヲ生スルモノハ之ヲ破開シテ水液ヲ洩ラスモ決シテ其表皮ヲ剝取スヘカラス

第十一條 輕度ノ火傷ト雖モ其部廣大ナルモハ身軀極冷呼吸困難等ノ諸險症ヲ發スルモノナリ宜ク酒類氣附藥等ヲ與フヘシ又電擊ノ爲メニ氣絶スルモノハ昏倒部(第八條)ニ示ス如ク處置スヘシ

第四 凍傷救助

第十二條 凍傷輕キモノハ指趾若クハ鼻耳其重キ者ハ全手全脚之ニ罹リテ強硬トナリ脆クシテ碎折シ易キニ至ル故ニ之ヲ把持スル最モ注意セサルヘカラス其ノ甚シキハ全身凍死シテ假死ニ陥ル者ナリ

第十三條 凍傷者ハ決シテ急遽ニ之ヲ温ムヘカラス先ツ火氣ナキ室内ニ移シ凍部又ハ全身ヲ雪ニテ摩擦シ若シ雪ナケレハ冷水ヲ布片ニ浸シテ之ヲ代フ而シテ體温微々復スルニ至レハ徐カニ身軀ヲ温護シ温茶ニ酒類ヲ加ヘテ頻リニ之ヲ與フヘシ又凍部漸ク解クルニ至レハ其部劇痛ヲ發ス然ルトキノ再ヒ雪ヲ以テ痛所ヲ冷メラ良トス

第五 負傷者運搬法

第十四條 凡ソ負傷者ヲ運搬スルニハ擔架人力車籠籠釣臺戸板階子等便宜之ヲ應用スシ而フシテ傷部ハ少シク高フシテ摩擦衝動セシムヘカラス又時々其顔貌ニモ注意スヘシ

第十五條 又徒手ニテ患者ヲ運搬スルモ一人ニテ之ヲ運フニハ背ニ負フヘシ二人ニテ

運フニハ相對立シテ握リタル一手ヲ以テ患者ノ兩股下ヲ受ケ相握リタル他手ハ其背部ヲ支ヘ以テ患者ヲシテ半臥狀ヲ爲サシメ其右手ハ右者ノ右肩ヲ把持シ左手ハ左者ノ左肩ヲ把持セシム或ハ甲ノ右手自己ノ左腕ノ中央ヲ握リ其左手ハ乙ノ右腕ノ中央ヲ握リ乙ハ其右手ヲ以テ甲ノ右腕ノ中央ヲ握リ以テ患者ノ坐臥ニ供シ而フシテ乙ノ左手ハ甲ノ右肩ヲ把持シ以テ患者ノ背部ヲ保護スヘシ

第六 昏倒救助

第十六條 俄然精神昏愼シテ卒倒スル者ニハ直チニ單一ノ救急法ヲ施シ以テ患者ヲシテ速カニ醒覺セシメ或ハ堪エ易カラシムヘシ而シテ昏倒ヲ致スノ病ハ數般ニシテ處置モ亦從テ小異アリ故ニ以下其大要ヲ示ス

第十七條 卒中ハ人事不省トナリ卒倒シテ呼吸ニ聲ヲ發シ口白沫ヲ流シ顔面紫色或ハ蒼白色ニ變シ全身或ハ半身麻痺等ノ諸症ヲ發ス此症ニハ直チニ身軀ヲ束縛セル衣帶ヲ解放シ患者ヲシテ半坐狀ニ臥セシメ布片ニ水ヲ浸シ頻リニ頭部ヲ冷ヤスヘシ

第十八條 氣絶ハ打撲其他身軀ノ劇動神氣ノ疲勞非常ノ精神感動若クハ吐血、高熱等ニ原因シ眩暈嘔逆顔色蒼白ニ變シ冷汗ヲ流シ昏倒シテ呼吸幽微トナリ甚シキハ一時生機ヲ失フル如キニ至ル此症ニ於テモ亦束縛セル衣帶ヲ解キ直チニ患者ヲ扶起シ其亡血ニ因ル者ハ平臥セシメ枕ヲ置カサルヲ良トス而シテ空氣ノ流通ヲ善クシ面上及ヒ胸部ニ冷水ヲ撒射シ胸脇ヲ摩擦シ足心ニ艾灸ヲ點シ或ハ紙捻リヲ深ク鼻中ニ入レ或ハ熱酢ヲ嗅カシメ患者若シ嚔下シ得レバ冷水酒類氣附藥等ヲ飲マシムヘシ

第十九條 醉倒者ハ先ツ衣帶ヲ解放シ頭部ヲ高フシテ室内ニ安臥セシメ布片ヲ水ニ蘸シテ頭部ヲ冷ヤシ酒尙ホ胃中ニ停滯スト認ムレハ羽毛ヲ深ク口内ニ入レテ咽喉ヲ擦リ以テ嘔吐ヲ促スベシ重症ニ於テハ耳後ニ水蛭各八九條ヲ放テ射血シ全身ヲ摩擦シ足ノ後面ニ芥子泥ヲ貼シ濃茶ヲ與ヘ若シ窒息セントスルハ速カニ人工呼吸術ヲ施スヘシ

第二十條 癲癇ハ其發作ノ際ハ患者ヲ安臥セシメ木片或ハ紙片ヲ上下ノ齒間ニ挿入シ以テ舌ノ咬傷ヲ防シヘシ但シ誤テ咽喉ニ陷ラサル様注意スルヲ要ス既ニ醒覺スルニ

反シテ飲液ヲ與フルニハ猶ホ木椀或ハ匙ノ類ヲ以テシ決シテ硝子類陶器等ヲ用ユヘ  
カラス嚙碎シテ口唇ヲ傷ツクルノ虞アレハナリ

第二十一條 日射病ハ炎熱ノ時暑ヲ胃シテ力役スル者ニ多シトス其証タルヤ大渴飲ヲ  
欲シ頭熱灼クガ如ク顔面赤色ヲ發シテ呼吸促進シ甚シキハ步行躊躇トシテ遂ニ昏倒  
スルニ至ル先ツ衣帶ヲ弛メ頭部ヲ高フシテ安臥セシメ空氣ノ流通ヲ善クシ水ヲ以テ  
頭部ト胸部ヲ冷シ且ツ少許ノ水ヲ口内ニ注クヘシ但シ發汗スル者ハ胸部ニ澀水スヘ  
カラス此症ニハ總テ氣附藥ヲ禁ス

第七 絞縊救助

第二十二條 絞縊ハ迅速ニ其紐索ヲ斷チ而シテ直チニ衣帶ヲ脱シ稍ヤ頭部及ヒ胸部ヲ  
高フシテ布團若クハ藁薦等ノ上ニ安臥セシメ空氣ノ流通ヲ善クシ冷水ヲ布巾ニ蘸シ  
テ頭額ヲ冷ヤシ刷毛、毛巾、乾キタル雜巾ノ類ヲ以テ脚ノ後面足蹠及ヒ手掌ヲ間斷  
ナシ摩擦シ兼テ人工呼吸術ヲ施スヘシ且頸部ノ脈管怒張シテ顔面紫赤色ニ變セル者  
ハ耳後ニ各八九條ノ水蛭ヲ貼シテ射血スヘシ縊者幸ニ蘇生シ飲液ヲ通スルニ至レハ

少シク水、茶、酒類等ヲ飲マシムヘシ但シ最初紐索ヲ斷ツキハ縊者ヲ抱持シテ頓仆セシ  
メサル様注意スヘシ

第八 溺死救助

第二十三條 溺者ヲ水中ヨリ援ヒ上クレハ直チニ其衣服ヲ脱シテ裸体トナシ口鼻ヲ檢  
シテ泥石泡砂等ノ穢物アラハ之ヲ除去シ右方ヲ下ニシ側臥シメ稍ヤ頭部ヲ擡起シテ  
水ノ流出ニ便ナラシメ且ツ足部ヲ高フシ腹部ヲ按摩シテ吐水ヲ促スヘシ若シ溺者ヲ  
戸板ノ上ニ載セルキハ之ヲ爲スニ最モ便易ナリトス此クノ如ク所置スルハ二三十分  
ニ過クヘカラス

第二十四條 既ニ水ヲ吐出スレハ布毛若クハ温和ノ衣ヲ以テ身軀ヲ被包シ蓆上或ハ  
藁上ニ安臥セシメ稍ヤ頭部及ヒ胸部ヲ高フシ速カニ人工呼吸術ヲ施シ兼テ衣上ヨリ  
間斷ナク四肢ヲ摩擦スヘシ

第二十五條 溺者自ラ呼吸セントスルノ狀アラハ人工呼吸術ヲ休止シ硝砂精若クハ熱  
酢ヲ嗅カシムルヲ最モ妙トス而シテ呼吸回復スレハ更ニ暖メタル毛巾、綿花、若クハ

温石、湯タンボ等ヲ以テ脚及ヒ腹部分温メ尙ホ四肢ヲ摩擦スヘシ若シ嘔氣ヲ催セバ  
羽毛ニテ咽喉ヲ擦リ以テ速カニ其吐ヲ促スヘシ又能ク吸飲スルヲ得ルニ至レハ少量  
ノ茶酒類氣附藥等ヲ與フヘシ

第九 中毒救助

第二十六條 硫酸硝酸鹽酸ノ如キ硫酸ノ中毒ニハ直チニ石鹼水灰汁又ハ白堊鹽上等ヲ  
水若クハ乳汁ニ攪和シ頻々多量ニ之ヲ與フヘシ

第二十七條 生石灰剝篤亞私遭逢ノ如キ亞兒加里中毒ニハ油類酢類若クハ酸味アル菓  
實ノ液汁ヲ大量ニ飲マシムヘシ

第二十八條 木茸ノ中毒ニハ直チニ大量ノ飲液ヲ與ヘ羽毛ヲ以テ咽喉ヲ擦リ或ハ指ヲ  
深ク口内ニ入レ頻々嘔吐ヲ促スヘシ

第二十九條 鳥獸魚介ノ中毒ニモ亦嘔吐ヲ促シ適宜ニ水ヲ飲マシメ而シテ後食飲ヲ與  
フヘシ

第二十條 石炭ノ焚燒汚穢ノ溝竇圍圍等ヨリ發生スル瓦斯燈明瓦斯及ヒ炭酸瓦斯等ハ

習有毒ナリ若シ之ヲ吸入シテ假死ニ陥ルルハ直チニ開潤ノ空氣中ニ移シ速カニ其衣

服ヲ脱シテ人工呼吸術ヲ施スベシ之ニ由テ微々活機ヲ呈スルニ至レハ直チニ酸水ヲ  
服セシメ且ツ之ヲ布巾ニ蘸シテ全身ヲ拭ヒ而シテ後患者ヲ靜上ニ安臥セシムヘシ

第十 人工呼吸術

第三十一條 人工呼吸術トハ救者ノ力ヲ以テ假死者ノ呼吸器ヲ縮張セシメ自然呼吸ノ

作用ニ擬シテ以テ之カ回生ヲ圖ルノ術ヲ云フ即チ左ニ三種ノ法ヲ示ス便ニ從テ之ヲ  
行フヘシ蓋シ施術八九分時乃至三四十分時ニシテ回生スルヲ常トスレトモ第三節ニ  
掲グル如キ眞ノ死徵ヲ現スルニ非サレハ假令數時間ニ至ルモ決シテ休止スヘカラス

(イ) 上肢ヲ動カヌ法ハ毛布衣服等ヲ卷束シ患者ヲシテ仰臥セシメテ之ヲ其背下

ニ置キ頭部ヲ背部ヨリ稍ヤ低フシ一ノ救者ハ患者ノ口ヲ開キ或ハ布巾ヲ以テ舌  
ヲ捲キテ前方ニ引キ出シ他ノ救者ハ患者ノ兩肘ヲ握リ患者ノ頭側ニ沿フテ輕  
ク上後方ニ引キ揚ケ又輕ク患者ノ胸側ニ壓下スヘシ此クノ如ク一分時間凡ソ十  
五回反復上下スルヲ要ス



(ロ) 二人ニテ胸腹ヲ動カス法ハ二人ノ救者仰臥セシメタハ患者ノ兩側ニ跪キ  
 其右ニ在ル者ハ兩手ヲ擴<sup>カシテ</sup>ケ左手ハ患者ノ右胸ノ前側部ヲ押ヘ右手ハ患者ノ上  
 腹ノ右半部ヲ押フ其左ニ在ル者ハ同ク兩手ヲ擴ケ右手ハ患者ノ左胸ノ前側部ヲ  
 押ヘ左手ハ患者ノ上腹ノ左半部ヲ押フ而シテ左右一齊ニ強キ壓力ヲ雙手ニ加ヘ  
 次テ其壓ヲ止ムヘシ但シ反復ノ度數ハ上法ニ同シ

(ハ) 一人ニテ胸部ヲ動カス法ハ患者ヲシテ仰臥セシメ背下ニ物ヲ置クコト前方  
 ノ如クシテ患者ノ下肢ハ少シク腹ノ方ヘ屈曲セシメ兩手ヲ上腹或ハ臍部ニ  
 置キ強キ壓力ヲ兩手ニ加ヘ腹内臟腑ヲ胸ノ方ニ推シ舉アクルカ如クスルトキハ  
 一種ノ音ヲ發シテ空氣ノ口鼻ヨリ出ツルヲ認ムヘシ若シ空氣出テサレハ更ニ兩  
 手ヲ患者ノ兩肋部ニ遷シテ前ノ如ク試ムヘシ既ニ空氣出ツルノ音ヲ聞カハ直チ  
 ニ兩手ノ壓ヲ止ムヘシ但シ此ノ如ク一壓一止反復スルノ度數ハ上ニ同シ

第三十二條 前條ノ方法ニ依リ假死者蘇生シタルト否トニ係ハラ即時所轄署長ニ其趣  
 ヲ申報スルハ左ノ書例ヲ照準スヘシ

但シ書例ハ競馬負傷者ノ前轍ヲ逐ヒ此ニ其事由ヲ掲ク

申報書

何府何郡何町何番地  
 何縣區何村何番地  
 士族 平民 何職

氏名 年齢

右者本日競馬執行ノ爲メ當所ニ出馬致候處午後何時第何回目競進中奔馬過テ驟  
 蹄シ(劇倒シ)爲メニ墜落ノ際馬背ノ下ニ強壓セラレ(奔蹄ヲ以テ列返サレ)一時悶  
 絶仕リ(何々ノ部負傷ニ)付出血甚シシ(依テ何々ノ手當爲致候(救助致候)(劇落ノ  
 際胸部ヲ強突シ吐血甚シク)終ニ絶命致候(猶ホ其他ノ實況及ヒ取扱タル事實ヲ  
 詳記シ)依テ此段及申報候也

何郡何町村出張先ニ於テ

何警察(分)署在勤

巡查氏名印

明治何年何月何日

何警察(分)署長

警部(補)氏名殿

### 第三節 眞死監査法

第三十三條 眞死トハ生活機能乃チ呼吸、脈搏、心動等全ク廢絶シテ毫モ外襲ニ抗抵スルノ力ナク漸次身體腐爛スルモノヲ云フ但シ其特徴ハ左ノ如シ

- 一 全身蒼白色ヲ呈シ皮膚ノ反應力絶止ス
- 二 肺及ヒ心機能廢絶シテ血行全ク絶止ス
- 三 眼窩陷没シテ眼球光澤ヲ失ヒ眼瞼半閉シテ半指半屈ス
- 四 筋肉ノ弛緩及ヒ全身體温冷却

但シ皮膚殊ニ脂肪ハ温ノ不導熱ナルカ故ニ死後直チニ失温スルモノニアラスシテ却テ一旦體温増進スルヲ常トス又氣温及ヒ死熱ノ位置ニ依テ失温ニ遲速アルモノナリ即チ温包シタル死体ハ永ク温ヲ保持スルモ家外ニ放棄シタル死体及ヒ水中ノ屍骸ハ速カニ失温スルモノナリ以上ノ監査ニ於テ假死ノ徵候ナキハ眞死ト決定シテ可ナリ

#### 第一 死屍ノ形狀監査

第三十四條 死屍ヲ發見セシ場所ニ於テ其人死因セシヤ否ヤ及ヒ其死因ヲ確認セントセハ先ツ死體ノ位置、死體ノ形狀、及ヒ死體ノ存在スル地面ト周圍物件ノ位置等ニ依リ其自殺ト他殺トヲ監査スヘシ

但シ死屍ノ形狀檢査左ノ如シ

##### 一 男女ノ監査

男女ノ形狀ハ一見シテ直チニ之ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ流車ノ壓死諸種機關ノ破裂及ヒ火藥爆發等ニ依リテ身體粉砕スル者若クハ死體腐爛ノ爲メ實際判然セサルコトアリ此クノ如キハ頭髮齒牙骨格等ヲ檢査シテ之ヲ鑑別スヘシ亦耻骨部陰毛繁生ノ形狀ニ依リ其區分ノ標準ト爲ストヲ得ヘキモノアリ乃チ婦女ノ陰毛ハ弓形ニ生茂シ男子ハ臍部ニ直向シテ生茂スレハナリ

##### 二 年齢ノ監査

年齢ハ顔面ノ皺皮光澤頭髮ノ黑白及ヒ齒牙等ノ模様ニヨリ其老若ヲ推測シ得ヘシト雖モ尙ホ幾年乃至幾年位ト認識スルヲ以テ可トス

三 死跡ノ肥瘦長短ノ監査

死體ノ長短ハ一見シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシト雖モ其肥瘦ニ至リテハ胸膈腰圍ノ廣狹ヲ度リテ之カ斷定ヲ下サ、ルヘカラス何トナレハ腹部ノ風氣膨脹ヲ以テ肥滿ト爲シ或ハ孕婦ヲ以テ腹水ト誤認スルノ虞アレハナリ

四 死亡時期ノ監査

死後時日ヲ經過スルニ從ヒ種々所見ヲ異ニス故ニ其所見ニ依テ死亡何時間若クハ何日間ヲ經過セシヤチ思定スルニアリ最モ死體ハ大抵十時乃至十二時ヲ經過セザレハ強直ヲ來タス者ニアラス故ニ其強直ノ如何ニ依テ經過ノ時間ヲ略定シテ爾ナリ亦眼球鬆寬、筋肉扁平皮膚變色等ヲ發顯スルモノハ二三日ヲ經過シタルノ証ニシテ肚腹青色ヲ呈スルモノハ腐敗ノ徵ト知ルベシ

五 致命ノ原由監査

致命の原由監査ノ第一ハ自然ノ疾病ニアルカ將タ犯罪的ノ所爲ニアルカヲ識別スルニアリ而シテ其監査法ハ死體ノ色澤即チ尋常ノ死色蒼白色汚穢、帶綠白色、赤疽、

帶赤、褐色、炭色、腐敗色及ヒ死斑ノ色ヲ檢シ死斑角膜變化及ヒ毛髮ノ疎密硬軟卷縮スルヤ否ヤ並ニ其多少又九竅ノ形況(鼻口兩耳兩眼肛門陰腔)等ヲ檢シ異物ノ竝入スルヤ否ヤチ見ルヘシ次キニ咽喉ヲ檢シテ腐蝕藥等ヲ用ヒタルノ徵ナキヤ否ヤ又ハ指印ノ形狀等ニ注目シ且ツ舌ノ形狀ヲ檢シテ自ラ咬傷シタル徵ナキヤ否ヤ將タ強酸誤用等ニ因ルノ徵ナキヤ否ヤ婦人ニアリテハ陰部損傷處女膜又ハ精液ノ有無ニ付腔内ヲ檢シ精液ノ存留シ或ハ陰部ニ損傷アルキハ強姦ノ後其罪蹟ヲ掩ハツカ爲メ殺害シタルニアラサルヤ否ヤ其他頭頸部檢査ハ絞死縊死扼死等ニ於テ殊ニ必要ナリトス其他諸般ノ異常即チ疾病ノ痕跡例之ハ腫瘍、畸形、機關欠損等ノ所見アルキハ大イニ鑑定ノ援助トナルモノナリ最モ癩痕ノ淺薄ナルモノハ漸次變化スルノミナラス遂ニ全ク消失スルヲアリ又深キモノハ生涯遺存ス且ツ膚創モ眞皮ノ新陳代謝ニ隨ヒ漸々其ノ色素吸收セラレテ消失スルモノナリ第二外傷暴力ニ由テ死シタルモノナレハ死體ノ各部即チ頭部、軀幹、四肢等ニ圓形、赤色若クハ帶褐赤色或ハ汚穢赤色ノ斑點ヲ見ルコトアリ或ハ外表暴力ノ痕跡ヲ印セサルモ肝脾ノ破裂

等ニ於テ死亡スルヲアルヲ以テ能ク内外部ニ注意監査スヘシ第三現然創傷ノ外表  
 ニアルキハ先ツ其創傷ノ生前死後何レノモノナルヤ否ヤ及ヒ致命的ノモノナルヤ  
 否ヤヲ監査セサルヘカラス何トナレハ生前ニ創傷ヲ受ケタルモノト死後ニ受ケタ  
 ルモノトハ檢視上明ラカニ之レカ區別ヲ立テサルヘカラスレハナリ而シテ死後ノ  
 創傷トハ即チ死體運搬ノ際途上ニ於テ墜落シタルカ爲メ或ハ粗暴ノ取扱ヨリ皮膚  
 ナ剝去シ若クハ壓迫牽引ノ爲メニ臓器ノ轉位損害等ヲ受クルコトアレハナリ又溺死  
 ノ如キハ岩石ニ衝突シ若クハ死體搜索ノ際竿棹ノ先トヲ以テ損傷スルコトアリ其ノ  
 他水中ニ在ツテハ魚類ノ爲メ原野ニ在ツテハ獸類ノ爲メニ咬傷ヲ蒙ルコトアレハ  
 ナリ

右鑑別ノ法ハ第一創傷ノ反應ヲ檢スルニアリ乃チ生前ノ外傷ナレハ發炎出血化膿  
 及ヒ創縁ノ腫起若クハ結痕肉芽等ノ反應ヲ見ルモ死後ノ外傷ハ決シテ之レヲ見ル  
 コナシ且ツ創部ノ凝血皮下滲血等モ亦生前ニ受ケタル外傷ノ徴ナリ何トナレハ此  
 反應症ハ生前ノ創傷ニ之ヲ顯スルモ死後附シタル創傷ニハ之ヲ呈スルコトナケレハ

ナリ最モ死期ニ臨ミテ受ケタル創傷ハ其反應著シカラスト雖モ幾許カ其徴ヲ呈セ  
 リ是故ニ死期愈々遠ケレハ從テ其反應愈々著明ナリ又之レヲ檢査スル簡便ノ方法  
 ハ其ノ傷上ニ數滴ノ水ヲ點シ若シ其ノ水止マリテ流下セサレハ乃チ生前ノ現傷ナ

死後創傷セラル、者ハ皮肉舊ノ如ク血滲癒セス及尖ノ盡タル所血流ナク白クシテ  
 痕上ヲ摩擦スルモ肉内ヨリ鮮血ノ出ツルコトナシ亦大傷ト雖モ反應ナキハ死後  
 的創傷ト斷定シテ可ナリ

第二 變死ノ原因監査

策三十五條 凡ソ人ノ自死ヲ企テ又ハ殺害セラレ非命ニ斃ル、ノ原因ハ種々アルヘシ  
 ト雖モ檢視上生前ノ情況ヲ察知スルハ死因ヲ確認スルニ於テ最モ必要ナリトス依テ  
 其重ナル原因ヲ左ニ掲ク

- 一 本人生前ニ於ケル生活ノ摸樣即チ貧困ナリシカ又ハ裕福ナリシカ
- 二 人物ハ質朴ナリシカ狡猾ナリシカ又ハ他人ヨリ怨恨等ヲ受クヘキ舉動アリシヤ

否一

三 父母妻子兄弟姊妹伯叔父母ノ有無及ヒ其和不和並ニ其死ニ陥リタル原由ト思料スヘキ事故

四 精神病ノ有無及ヒ血統

(編者曰ク血統中癲癇病ノ如キハ水ヲ見テ發スルモノアリ火ヲ見テ發スルモノアリ其ノ水ヲ見テ癲癇ヲ發シ二尺未滿ノ淺瀬ニ於テ溺死シタル婦女アルコトヲ聞ケリ故ニ之ニ類似シタル疑問ノ生スルキハ先ツ血統ニ關スル癲癇病等ヲ取調フルモ死因監査ノ一手段ト知ルヘシ)

五 犯罪的ノ情况

第三十六條 一死ニシテ死因ト見做スヘキモノ數多アルト假令ハ溺死ト窒息及ヒ中毒症狀ヲ兼有スルカ又ハ頭部切傷ト銃創或ハ絞死ト頭部大創等ヲ有スル場合ニ於テ孰レカ果シテ致命ノ本因ナルカヲ承認シ且ツ創形ニ依リ其ノ兇器ノ何タルヲ鑑別セントセハ先ツ以下ノ一例ヲ參照スヘシ(例之一屍ニシテ腹部ト胸部ニ創傷ヲ被リ兩創共

ニ甚シク出血ス今其屍ヲ檢スルニ腹部ノ創傷ハ稍ヤ小ニシテ三角形ヲ呈シ心臟ノ創ハ稍ヤ小ニシテ横徑ハ縱徑ヨリモ大ナリ之レニ因テ考フレハ即チ腹部ノ創ハ鎗ノ如キ三角柱形ニシテ心臟ノ創ハ小刀ヲ以テ刺シタルモノナリ而シテ其ノ死因ヲ考察スルニ腹部ノ創ニアラスシテ心臟部ニアルカ如シ)

第二十七條 死屍アル地ノ近傍及ヒ其ノ景況ヲ精細ニ檢査スルヲ要シ且ツ死者若シ手ニ兇器ヲ持スルヤ否ヤ若シ兇器ヲ持スレハ左右孰レニ在ルヤヲ檢セサルヘカラス何トナレハ死後手ニ器物ヲ保持セシムルモ之レヲ緊握スルモノニアラス故ニ之レヲ緊握スルハ生則ヨリ保持シタルノ微ナリ然レモ瀕死ノ際兇器ヲ放棄スルモノ少ナシトセス亦左手ニ兇器ヲ保持スルヲ以テ自殺ニアラスト云フヘカラス往々左手ノ使用ヲ得意トスル者アレハナリ又死體ノ近傍ニ兇器ノ有無ヲ以テ自殺若クハ殺害ノ証ト爲スニ足ラス何トナレハ自殺ニ在テモ死後兇器ヲ奪取セラレ殺害ニ在テモ死後自殺ヲ摸擬センカ爲メ故意ニ兇器ヲ放棄スルコトアリ又自殺者瀕死苦悶ノ際兇器ヲ抛擲シ他所ニ至テ絶命スルコトアリ然レモ死體ノ近傍ニ兇器ヲ遺留スルキハ先ツ之ニ因テ一定

ノ想像ヲ下スコトヲ得ヘシ例之ハ死體ノ創ハ銃創ニシテ側ニ銃器アリ且ツ自殺ニア  
ラスシテ殺害タルコト判然タリ而シテ其銃ニ姓名或ハ他ニ特徴ノ認知スヘキ者アルハ  
ハ其犯罪者ヲ知ル甚タ容易ナリ

第三十八條 創傷ノ位置及ヒ深淺モ亦自他殺ノ鑑定ニ必要ナルコトアリ蓋シ創傷ノ位置  
ハ自殺殺害何レニ關セス皆重要部ヲ目懸ル者ニシテ通常頭部胸部腹部頸部ノ要所ニ在  
レハ就中自殺者ハ主トシ頸部ニ在リ(往昔我邦ノ切腹ハ例外ナレハ之レニ在テモ亦  
終ニハ頸部ヲ切ルヲ常トス)而シテ自殺者ニシテ頸部ノ外數ヶ所ニ創ヲ負フコトアリ  
之レ最初頸部ヲ刺シタルモ其目的ヲ果サス依テ他所ヲ試ルモ力充分ナラス狼狽ト苦  
悶トニ由リ精神錯亂シ數ヶ所ニ負傷セシモノナリ故ニ創傷數多ナルヲ以テ自殺ニア  
ラスト云フヘカラス又自殺創傷ハ多ク身體ノ左側ニアリト雖モ若シ左手ノ利キタル  
者ハ之ニ反スヘシ又創ノ深淺ニ就テハ自殺傷ハ淺クシテ殺害傷ハ深シト云フ者アリ  
之レ毎常必スシモ然ルニアラス自殺創ト雖モ大膽ナル者或ハ精神激昂スルモ力ハ力ヲ  
極メテ深ク切刺スルヲ得ヘシ又殺害創モ犯者ノ精神確然タラサレハ却テ淺キコトアル

ヘシ例之ハ男女互ヒニ情死ヲ約シ男子ハ先ツ女子ノ頭部ヲ切り後チ自ラ再頭部ヲ殺  
テ死シタリ然ルニ忽チ之ヲ發見シテ其筋ニ告ク警察官醫士馳セテ之ヲ檢視スルニ豈  
ニ圖ラン男子ハ全ク絶命シタルモ女子ノ創傷淺クシテ且ツ貴要ヲ外レ全ク蘇生スル  
ヲ得タリ之レ即チ自殺創深クシテ他殺創ノ却テ淺キコトアル其一例ナリ

### 第三章 檢視論

凡ソ變死ニ係ル死體ヲ檢視スルハ其人死去ノ原因犯罪ニ係ルヤ否ヤヲ知ルコトアリ何ト  
ナレハ其死去犯罪ニ原因セサルモノハ警察官吏行政上ノ手續ヲ以テ其處分ヲ決行スル  
ヲ得ヘシト雖モ若シ其死去犯罪ニ原因スルノ疑アルモノハ豫審判事又ハ檢事ニ於テ其  
罪蹟ヲ檢證シテ一ハ犯人逮捕及其審問ノ用ニ供シ以テ公訴權ヲ支持シ一ハ刑罰權ノ濫  
弊ヲ防キ以テ無辜冤狂ニ屈スルノ悔ナカラシム蓋社會ノ秩序ヲ維持シ公ノ利益ヲ保護  
スル司法官タルモノ、本分トシテ固ヨリ以テ然ラサルヲ得サレハナリ (本論中檢事ヲ以  
テシハ全官モ豫審ニ關シ檢證處分ヲ爲  
ス時ハ行政官ノ資格ニアラサレハナリ) 然リト雖モ警察官ハ常ニ斯民ノ舉止ニ直接ス  
ルヲ以テ事毎ニ之レカ門戸タルヲ免レヌ此ノ故ニ兇故ノ現場ニ臨ムヤ先ツ其死去ノ因

由自殺ナリヤ否ヤチ觀察シ其他殺ノ疑アルモノト雖モ殺害ノ事實ト誤殺及ヒ罪贖掩蔽等ノ模様ヲ斷定シ其自殺ニ於ケルモ自企ト過失トヲ混合セサル様注意深察シ其他殺ニ係ルモノト思料スルモハ之ヲ豫審判事檢事ニ報告スルノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス（治罪法第二百五條ノ規定ニ依リ司法警察官トシテ）之レ警察官タルモノ、檢視ニ關スル概豫審處分ヲ假行スル場合ハ此ノ限リニアラス）略ノ本務トス然リ而シテ其事實ヲ判斷シ死因ヲ確認セントセハ須ラク以下數節ノ監査法ヲ參照セサルヘカラス

（附記） 凡死亡ノ種類ハ之ヲ大別ノ三トス一、器械的暴力例之ハ墮落撞突土石崩壞家屋倒崩巨木覆倒諸多機關ノ車輪馬車鉄道等ノ壓死猛劇ノ打撲及ヒ爆發死其他貴要部ノ銃創等ニシテ急劇ニ生活保存ニ必要ナル機關ヲ損傷スルヨリ來ル所ノ死亡之レナリニ神經麻痺之ヲ例スルニ腦震蕩及ヒ腦心肺ノ卒中等ニ於ケル如ク神經ノ麻痺ヨリ來ル所ノ死亡之レナリ三、貴要部機關ノ炎症之ヲ例スルニ腦脊隨胸膜肝膈腹膜等ノ發炎シテ死亡スルモノ及ヒ火傷等之レナリ而シテ貴要部負傷ノ檢査ニ付其創傷ノ地位ヲ別テ七トス一、頭部二、顔面三、頸圍四、胸部五、腹部六、生殖器七、四肢ノ創傷

トス而シテ其形狀ハ其器ノ如何ニ依リ一定セスト雖モ概テ身體突出スル部分ニ多シトス而シテ創傷ノ一ヲ切創ト云ヒ一ヲ割創ト云フ切創トハ刀劍ノ類ニテ切りタルモノニシテ割創トハ斧鉞等ヲ以テ斷チタルモノヲ云フ亦タ挫傷トハ底角ノ鈍キ物ヲ以テ打撲シ又ハ衝突シテ發スルモノヲ云フ以上ヲ總稱シテ毆傷又ハ撞傷ト云フ然リ而シテ此等ノ實際ハ重ニ宴席等ニ於テ德利皿小鉢又ハ枕下駄石瓦竹板等ヲ以テ歐打シタル類ニ多シトス且ツ挫傷中外部ノ皮膚筋肉等ヲ破ルモノヲ毀傷ト云ヒ内部ノ肝臟脾臟心臟膀胱等ノ臟器ヲ破裂スルモノヲ震蕩ト云フ而シテ是等ノ負傷ハ重ニ牛馬ニ踏マレ又ハ高所ヨリ墜落シタル場合ニ生スルモノトス

### 第一節 檢視手續

參照（太）第十四號明治十三年五月廿五日達

明治十二年第十二號左ノ通り改正候條此旨相違候事  
官廳内並ニ官有ノ工場及船艦等ニテ變死ニ係ル者及重傷ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ニ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ナリシ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

第一條 凡ソ警察官吏ニ於テ變死ノ届出ヲ領スル時ハ先ツ其模様ヲ聞糺シ事實細語ヲキモノト認ムル時ハ報告者ニ對シ死體及ヒ兇具等ノアル地所ヲ變更シ又ハ見証人ノ散逸セサル様注意スヘキ旨ヲ告知スヘシ

但シ時機ニ依リ巡查ヲ派出セシメ取締ヲ爲サシムコトヲ得

第二條 前條ノ届出ニ依リ臨檢シタル時ハ親戚(死者ノ父ト兄弟夫妻伯叔等ノ類)村吏醫員發見人及ヒ(人目ハ適宜ニ任スト雖モ可成ニ)事犯ノ情況ヲ知得シタリト認ムルモノヲ會同シ檢視ヲ爲スヘシ

但シ單身ニシテ親屬ナキモノハ隨佑知人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

第三條 檢視官現場ニ臨ンテハ務メテ雜沓ヲ防キ先ツ發見人ヲ訊問シ然ル後死者ニ及フヘシ

第四條 檢視ノ際兇行ノ事蹟(乃チ犯罪ニ係ル事實及ヒ兇器遺留)ヲ發見シタル時ハ檢

証ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ前項ノ場合ニ於テ被害人未タ絶息セス又ハ醫員ニ於テ余命保シ難シト診斷スル時ハ先ツ本人ニ就テ其實況ヲ尋問シ然ル後其他ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 屍ハ仰面頂心ヨリ起リ合面十指甲縫ニ至ルマテ逐一檢視スヘキハ勿論殊ニ際耳竅鼻口糞門産戸喉内ニ注意シ以テ死因ヲ確ムヘシ

第六條 檢視官死者ノ檢査ヲ終リタル時ハ檢視調書ヲ作り之ヲ立會人ニ讀聞セ相違ナキ旨承認スル時ハ各自ヲシテ署名捺印セシムヘシ

又親屬關係人ニ對シテ變死始末書ヲ差出サシムヘシ尤モ時宜ニ依リ尋問シテ其景況ヲ録取シタル時ハ讀聞セシ上各自ニ署名捺印セシムヘシ亦其申立同一ノモノハ一紙連署スルモ妨ケナシ

前項ノ場合ニ於テ立會人署名捺印ヲ肯セス又ハ自書スルコト能ハサルモハ其事由ヲ附記スヘシ

決死ノ遺書等アル時ハ其筆跡ヲ檢シ相違ナキモノト認トムルモノハ寫書ヲ徵シ本書



ハ其親屬ニ下附スヘシ

第七條 死者及ヒ其場所ヲ熟檢シタル後ハ醫員ヲシテ式ニ依リ檢按書ヲ呈出セシム

若シ檢按ニ際シ致命ノ原由確知シ難タシト申立ルキハ明治十年二月第廿二號公布ニ依リ其事由ヲ報告シ許可ヲ得テ其部ヲ解剖スルコトヲ得

(參照)變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スルキニ於テ解剖セサレハ其致命ノ原由確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事(檢事ナキ地ハ地方長官)ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

### 第二節 毆死監査

第八條 凡ソ毆死ノ死ハ口眼開キ髮亂レ衣服整ハス肚腹脹レス両手散シ或ハ溺襖衣ヲ汚スニアリ而シテ其兇器ノ種類ニ依テ其創形一定セス故ニ棍棒等ニテ歐打シタル傷痕ハ長ク九キ時ハ手拳等ノ跡ニシテ其傷痕ハ都テ青赤紫黒ノ色ヲ呈ス若シ死上痕跡ヲ見サルキハ能ク其腎囊(視ルヘシ何トナレハ人大醉大飽シタルキ争門等ニテ暴怒

スレハ氣絶シテ腎子腹下ニ縮入スルモノナリ且ツ傷痕腫起シテ檢査上其疵ヲ認メ難キ時ニ温醋ヲ澆キテ其上ヲ掩ヒ暫ク之ヲ温染セシムルキハ其痕跡判然スヘシ

### 第三節 殺傷死監査法

第九條 凡ソ被殺傷ノ屍ハ口眼開キ両手少シシ握ル亦自殺ニ係ル屍ハ眼口閉合シ手拳彎曲縮ス其自ラ咽喉或ハ肚腹ヲ割キタルモノハ其創頭深クシテ未ハ淺シ蓋シ初メハ刃ヲ突立ツル力強キカ故ニ創頭深シ漸ク未ニ至リテハ其力衰弱スルニヨリ從テ創モ亦淺シ

生前殺傷セラレ、者ハ刃ヲ受クル處皮骨緊縮シテ四畔ニ血痕アリ若シ支解セラレ、者ハ皮肉稠和シテ皮縮リ骨露ハル

首ヲ截斷スル者生前ニ係レハ項下ノ皮肉緊縮シ骨凸出シ兩肩聳立ス死後ナレハ此狀ナシ

肢躰處々ニ散在スルカ如キハ先ツ之ヲ拾聚シ其創口血点ヲ呈セサレハ死後ニ折解スタルモノナリ

口ヲ用ヒテ指ヲ咬下スル者ハ齒上ニ毒アリテ命ヲ致スコトアリ必ス創口齊シカラスシテ膿水淹浸シ皮肉壞爛ス銃創ニテ死スル者ハ彈丸ノ入口小ニシテ創皮縁内ニ向ケ貫出口大ニシテ皮膚外ニ開キテ壞爛セリ若シ肚腹ニ中リ貫出ノ跡ヲ見サレハ其創口腐爛スヘシ之ヲ洗滌シテ檢スレハ九子アルヘシ其自企ニ係ル者ハ銃砲ヲ面前ニ構ヘルヲ以テ彈丸ノ入口前面ニシテ且ツ身體ノ下部ニアリ而シテ貫出口ハ入口ヨリ重モニ上部ニアリトス

短刀等ニテ自死ヲ圖リタル痕跡ハ咽喉部ト否トニ論ナク大抵身軀ノ左部ニシテ他死ニ係ルモノハ右部ナリトス  
(二人全時ニ一人ノモノヲ發砲シテ一丸中リ爲メニ此創大ニシテ皮膚外ニ開キタル傷者ヲ探ラシトセハ入口少ニシテ皮膚内ニ向ケ出口ハヲ以テ其証トスルコトヲ得)

### 第四節 絞死查法

第十條 絞死ニ付テハ自他殺死ヲ區別シ且ツ扼死ト混合セサル様注意スヘシ

(甲) 自ラ絞死セル屍ハ兩眼閉合シ唇吻開キ齒ヲ露シ舌ヲ嚙出スコト二三分ニシテ固ク兩手ヲ握リ手裡ニ細ヲ握リタル迹アルヘシ

(乙) 自絞死ハ細ノ結ヒ目喉下ニアリテ項後ニ圍繞セル痕ヨリモ深シ其体黄色ニシテ極メテ枯瘦セリ

(丙) 他人ニ絞死サレタル屍ハ口眼開キ目子突上シ舌出テス手ノ指甲物ニ爬着<sup>ハツキ</sup>キタル形狀アリテ糞ヲ漏サス

(丁) 他人ニ絞殺サレタルハ其疵項上ニアリテ色黒ク前ヨリ後ニ圍繞シ一所ニ細ノ行交シタル所アリ項後ノ疵最モ深シ畢竟舌ヲ嚙出シ糞ヲ漏スハ自絞ノ証ナリ

(戊) 人ヲ絞シテ末々死セサル中直チニ釣懸シテ自縊ニ裝スルハ最モ辨知シ難シ宜シク次節ノ徵候ニ依リ檢考スヘシ

(己) 扼死トハ兩手ヲ以テ人ノ咽喉ヲ緊迫シテ呼吸ヲ止メ致死セシムルモノナリト云フ(然レモ編者ハ末々其實地ニ接セズ)

以上ノ判別中自殺ハ決心スルヲ以テ假令ハ苦悶ノ狀アルモ憤怒ノ色ナク他殺ニ罹ルモノハ顔色及瞳孔等ニ激怒ノ狀アルモノナリ

### 第五節 縊死監法

第十一條 自縊ノ屍ハ兩眼閉合シ唇黑色ニシテ齒ヲ露ハシ舌展ヒテ齒ニ及ヒ口中血ヲ含ミ口唇ノ兩角ニ涎沫ヲ出シ面色紫赤ニシテ兩手ノ拇指ヲ握リ十指甲色黒ク男子ハ陰莖痿セズ腎子下リ尿ヲ漏ラス最モ男子ニアリテハ精液ヲ婦女ニアリテハ月經ヲ漏ラスコアリ

(甲) 自縊ノ者喉下ノ疵其脚踏付ケハ淺ク落付カサレハ深シ其体肥レハ深ク瘦セレハ淺シ繩索堅ク細ケレハ深ク太ク粗ナレハ淺シ全幅ノ帛帛等ナレハ散スル者ナリ  
(乙) 病人ノ床上ニ在テ死テ企テ自縊スル者ハ眼合ヒ唇開キ齒舌ヲ咬ミ肉黄色ニシテ體瘦セ手握リ臂後ニ糞ヲ漏ラス左右ノ手ニ縊物ヲ把ルコアリ

(丙) 一旦自死セシ者ヲ解キ卸シ後ヲ復タ死スルキハ必ラス肚腹膨脹シ舌ヲ咬マス縊ノ出ルコナシ

(丁) 甲處ニ縊死スル屍ヲ乙處ニ移シテ懸ケタルキハ必ラス兩痕アリ原痕ハ紫赤色ニシテ血瘀アリ後ノ痕ハ只マ白色ノミ血瘀ナシ

(戊) 床褥上或ハ船艙内等ニテ屍横ニ懸ケレハ頭顱シ身倒マニ臥シ痕迹斜メニシテ腦

後髮際ニ至ラス

(己) 窓櫺或ハ樹木ノ類ヲ隔テ、絞殺シテ自縊ニ裝スル者ハ其繩痕交錯セズ多クハ手過シテ却テ極染ノ黒黯色アリ耳後髮際ニ至ラス

(庚) 殺害ノ後自縊ニ裝スル者ハ口眼開キ手散シ髮乱レ舌出テス陰莖痿シテ腎子上リ痕迹淺淡ニシテ血瘀ナシ

(辛) 火烙ヲ用ヒテ屍躰ニ痕ヲ成シ自縊ニ假粧スルモノハ其色紅或ハ焦赤ニシテ濕ヲ帶フ

以上ノ死屍ニ付テハ實地經驗シタル實蹟ヲ以テ檢視調書及ヒ檢按書ニ附記スルヲ以テ參照セハ其徵候ヲ知ルコト明カナルヘシ

### 第六節 溺死 監査法

第十二條 自ラ投溺スル者ハ口開キ眼閉チ腹膨脹シ手裡ニ雞寄リテ足底ノ皺ニ比スレハ其色白クシテ脹レ手脚甲縫ニ泥沙アリ

(丙) 溺死ノ屍ハ水中ニ在レハ暑熱ノ時ハ一二日寒冷ノ時ハ五六日ヲ經レハ男子ハ俯

シ女子ハ仰ヒテ水面ニ浮出スヘシ

(乙) 殺後水中ニ丟入シタルハ肉色黄ニシテ口眼閉合シ兩手拳縮セズ肚腹膨脹セズ口

鼻内ニ水沫ナク脚底皴白セス腫ル、トアリ手脚甲縫ニ泥沙ナシ総身堅硬ナリ

(丙) 溺死ノ屍ヲ檢スルニ未タ人ト争闘セズシテ頭面ニ刀傷等アル者須ラク之ヲ淘シ

テ水中ヲ看ルヘシ人初テ水ニ入ル片氣猶ホ未タ絶セス物ニ觸レテ中傷スレハ自  
ラ血痕アルコト猶ホ生時ノ刃創ノ如シ

(丁) 溺死ノ屍ニ創處ナクモ面色紫赤ニシテ口眼開キタルハ多ク人ニ倒提セラレ水ニ  
入リシモノナリ

(戊) 井ニ投スル者ニ水面必ラス泛泡アリ而シテ其脚ノ上下ニ因テ提逼推送ノ事ニ由  
ルト否トヲ推考スヘシ人ニ推送セラル、モノハ手開キ眼モ亦少シク開ケリ

(死後ハ第一呼吸室息スルヲ以テ水ヲ飲マス第二手裏口鼻等ニ  
吸入物ナシ以上ノ徴候ハ通常人ニシテ能ク見ルコトナリ)

### 第七節 死並焚湯潑死監査法

第十三條 燒死者ハ能ク其屍體ノ屋瓦茅灰等ノ壓覆スルト否トヲ檢スヘシ蓋シ屋宇燒

燬ニ因テ燒死スル者ハ其屍骸瓦茅ノ下ニアリ若シ上ニアレハ人ニ推送セラル、者ナ

リ

(甲) 老病者燒死スル時ハ屍體焦黑色ニシテ口眼開キ或ハ齒、唇ヲ咬ミ手膝拳曲シ皮  
肉ニ黄色ノ脂膏突起スルコトアリ

(乙) 人ニ燒殺セラレタル者ハ手屈拳シ兩足縮テ展ヒス耳目鼻口中ニ灰入りテ焦色ア  
リ殺後火中ニ投スルモノハ兩足展伸シテ耳目鼻口ニ灰入ルコト少シ何トナレハ呼  
吸絶息スレハナリ又水泡ヲ見ルコトナシ

(丙) 殺死ノ屍ヲ火中ニ投シ痕迹分明ナラサルモノハ米醋ヲ灌テ後ヲ檢スヘシ其血痕  
宛然トシテ分明ナルヘシ

(丁) 湯潑傷ヲ被ル者ハ皮膚皆爛シ皮開拆スル片ハ色白ク肉ニ着ク皮モ湯ヲ經レハ亦  
白シ且肉赤ク爛ル、傷重キモノハ死去ス

(戊) 關殿等ニテ推入セラレ湯潑傷ヲ被ル者ハ必ラス屍ニ損所アリテ其炮甚タ起ラズ  
シテ好肉ノ湯潑ヲ受クルト同シカラス若シ死後ニ罹ル者ハ肉色白クシテ爛ル

第八節

毒死狗傷死蝮毒死監査法

第十四條

毒死ノ屍ハ其證一ナラス或ハ唇破裂シテ舌爛<sup>シタ、タ</sup>ノ口肉紫色ニシテ両眼開キ浴<sup>シ</sup>身黑色ニシテ腫<sup>シヨウ、ナ</sup>脹<sup>シ</sup>シ或ハ目鼻口ヨリ紫黑色ノ血ヲ出スアリ指甲黑色ニシテ皮膚破<sup>レ</sup>レタルアリ又唇縮ミ眼睛壞裂シ舌上ニ小瘡ヲ生シテ破ル、アリ遍身ニ惡瘡ヲ生シ腹<sup>タビ</sup>腫<sup>シ</sup>レ糞門綻破<sup>タビ</sup>レ腎囊<sup>シ</sup>腫<sup>シ</sup>大ナル等皆中毒ノ証ナリ

(甲) 死後ニ毒藥ヲ屍口ニ灌入シテ毒死ヲ裝スル者ハ皮肉骨爪皆黄色ニシテ青黒ナリ

(乙) 食物及ヒ金石藥ノ毒ニ中テ死スル者ハ屍ニ赤腫ノ處アリ拳打ノ痕ノ如ク或ハ大ナル青黒痕ヲ成シ或ハ皮肉破裂シ舌ト糞門ト皆露ハレ或ハ鼻口中ニ血アリ指甲青色ニシテ肉縫少シク血出ツ

(丙) 人狂犬ニ咬傷セラル、キハ必ス腹硬張シ尿出ツ其毒ノ發スルキハ風邪ニ感スルノ狀ノ如ク風ヲ畏ル、フ甚タシク時ニ狗聲ヲ摸シ人及ヒ衣服等ヲ咬マント欲ス

若シ小腹膨脹シテ溺出テ難キハ其毒最モ厲シ初咬ハ猶ホ極フヘシ毒已ニ發スルモノハ治セス

(丁) 蝮毒死ノ者ハ創所ニ少シク齒損ノ黒痕アリテ四邊青腫シ黄水出ツ若シ其毒四肢ニ及フキハ遍身光腫シテ黑色ニ變ス(温酢ヲ以テ傷部ヲ浸漬スルキハ其毒ヲ取去ルヲ得ルト聞ケリ)

第九節 諸種ノ死徵監査法

第十五條 諸種ノ死徵ヲ分テ左ノ諸種トス一、車輪撻死二、馬踏死三、牛傷死四、壓死五、

悶死六、餓死七、醉飽死八、凍死九、中暑死十、驚死十一、卒中死十二、鍼灸死十三、墮胎

兒トス

一 車輪ニ撻着セラレテ直チニ死スル者ハ肉色微黄ニシテ口眼開キ手少シク拳ス

二 馬ニ踏レテ死スル者ハ肉色微黄ニシテ指散シ髮慢セス鼻口中ニ血アリ蹄ヲ受ク<sup>ル</sup>所黑色ナリ若シ貴要部ナレハ骨折レ腸臟出ツ

三 牛角ニテ傷ケラル、者ハ皮破レ赤色ニシテ脹起セス傷所多クハ小腹ノ邊ニアルヘシ

四 壓死ノ屍ハ舌出テ眼子突出シ耳目鼻口ヨリ血出テ両手少シク握リ沿身遊紫黯色ニシテ傷處ニ血腫赤腫アリ皮肉ノ破ル、所ハ其四畔腫起シ或ハ筋骨折損ス若シ死後ニ係ルキハ筋骨ハ折損スルモ舌出ツル等ノ狀ナシ且ツ硬物ニテ肋後ヲ瘞疔セラレテ死スル者ハ傷所紫赤ニシテ皮破ル、コトナシト雖トモ筋骨必ラス折損ス

五 悶絶死ニ種々アリ其ノ衣服或ハ濕紙等ニテ搭閉セラレ死亡スルモノハ舌破レ項肉硬ク腹乾腸ス又外物ニテ搭閉セシ者ハ眼睛出テ鼻中ニ鮮血ヲ流シ滿面赤黒色ノ血痕アリ肚門出テ便尿衣ヲ汚シ其飲酒シテ熟睡スルキヒンヤクニテ捲束シ倒ニセラルレハ片時ニシテ悶絶ス此ノ如キハ必ス屍ニ血出ル等ノ狀ナシト雖モ兩肋心胸ノ前堅ク腫ル、者ナリ

六 餓死ノ屍ハ肚腸腹低塌シアイトク渾身黒クシテ瘦セ堅硬ニシテ眼閉チ唇開キ齒緊切ニシテ四肢伸暢ス

七 醉飽死ノ屍ハ俱ニ傷痕ナク惟々肚腹膨脹シテ之ヲ打テハ響キアリ燒酎ニ酔テ死スル者ハ齒牙動搖シ屍軟弱ニシテ鼻口ノ間ニ血液流出ス其醉飽シテ高所ニ跳リ或ハ重物ヲ括ル等大ニカヲ用ユルキハ内損シテ死スルコトアリ其屍跡口鼻糞門ニ食物ヲ泄出ス或ハ血色ヲ帶フル糞ヲ漏スコトアリ

八 凍死ノ者ハ總身栗立シツクリツ面色痿黃ニシテ項縮リ齒牙硬クシテ兩手胸前ヲ撐ヘ口角涎沫ヲ流シ且ツ其屍ハ紫赤色ニシテ眼口開キ紫汗出テ唇微綻シ手拳セス

九 中暑死ノ屍ハ眼閉合シ舌出テス面色黃白ニシテ鼻孔及ヒ糞門ヨリ血液ノ流出スルコトアリ

十 驚怖シテ死スル者ハ目瞪シ口開キ兩手舒展シテ死後猶ホ怕怖ノ狀ヲ呈ス

十一 卒中死ノ屍ハ眼開キ晴白ク口閉チ齒牙緊切シ口眼喎斜ニシテ口ノ兩角ニ涎ヲ洩出シ手脚拳曲ス

十二 鍼灸死ノ屍ハ其穴道ニ當ルト否トチ勘檢シ以テ致死ノ原由ヲ明知スヘシ

十三 墮胎兒ハ死シテ後ニ出ツルハ胞衣ノ色紫黒ナリ分娩ノ後ニ在テ死スルモノハ其屍薄赤ニシ胞衣ノ色白シ

第十六條 前數節ノ檢査ニ於テ自企又ハ過失ニ依リ變死セシノト認ムルハ左ノ書例ニ準シ檢視調書若クハ明細書ヲ作ルベシ

檢視調書

明治何年何月何日何縣何郡區何町村何番地士族何某ハ何郡區何町村何番地平民何某方土藏物置(或ハ何々ノ山林原野神社堂宇橋梁何道路川澤等)ニ於テ(絞縊焚溺凍死中毒其他種々變死ノ名目ヲ附ス)變死ノ趣全町村何某(親屬何某)ヨリ届出ニ依リ本職檢視トシテ何月何日變死人所在地ナル何々ノ所ニ(何某方)ハ臨檢(出張)醫員何某ヲシテ檢按セシムル爲メ參會スヘキ旨ヲ報告シ町村長(若クハ代理者)何某醫員何某親屬何某發見人何某其他關係人何某等ヲ會合シ檢視スルニ左ノ如シ

一 死者ノ本籍身分住所職業

何縣何郡區何町村何番地居住士族何職何某(長次男伯叔父母兄弟姊妹祖父母子孫夫妻某或ハ住所姓名知レサル男女ト書スノ類)

二 死者ノ所在

水中ニアリシヲ流失センコト恐レ發見人何某繩ヲ以テ橋杭ニ結付ケ上ヨリ藪蓆ヲ以テ之ヲ掩ヒタリ(又ハ何某家屋坐敷中央ニ頭ヲ東ニシ布圍ノ上ニ仰臥セリ)ト書スルノ類

三 死者ノ年齡相貌身長肥瘦着衣等ノ模様

年齡三十恰好頭ハ斬髮(坊主)ニシテ顔丸キ方眼大ナル方鼻低キ方口小ナル方身長五尺二寸總身肥タル方左右ノ腕ニ痣ホシアリ背脊一面ニ九紋龍史進水門ヲ破ル圓ヲ刺繡セリ其他舊傷痕ナシ木綿小辨慶格子縞ノ單物ヲ着シ手綱紫ノ三尺帶ヲ締メ傍ニ煙蕪烟管アリ

四 死ノ模様

腹部ニ切疵一ヶ所アリ深六分縦一寸三分横二分右腕ニ突疵二ヶ所何レハ深五分幅八分ナリ而シテ咽喉ヨリ頂部ニ掛ケタル突疵一ヶ所深サ一寸堅二寸横五分其切先氣管ヲ切斷セリ又水死ナレハ(皮膚寒冷蒼白色トナリ鵝皮ノ如ク皺縮セリ總身鉛色ヲ帶ヒ顔面白色ヲ呈ス眼ハ半ヲ開キ瞳孔ハ散大シ口唇緊閉ス舌ハ腫大

血積シ又ハ嚙テ之ヲ分裂ス唇ハ眼孔ト共ニ粘泡ヲ湧出ス陰莖變縮シタリ肌膚ヲ  
剝脱シ指間砂石泥土及ヒ雜藻ヲ緊握ス口中鼻孔ニ泥草ヲ吸入セリ且ツ肺ハ膨大  
シテ萎縮セス且ツ柔軟トナリ水分其實質中ニ滲入シ爲メニ本來ノ彈力ヲ失ヒ指  
頭ヲ以テ壓スルニ毫モ反應ノ力ナシ而シテ指間ニ把握スル所ノ游泥ハ何川乃チ  
死者溺死ノ河水ニ多ク見ル所ナリ(以上ハ通常溺死ノ徵候ヲ書シタルヲ以テ能  
ク實地ニ就テハ之ヲ参照セラルヘシ)

五 遺留物件及ヒ書類

死者絶息ノ現場ニ於テ紙皮烟草人遺留セリ其中ヲ検査セシニ書類何通アリ内何  
通ハ自死ノ理由書ニシテ何通ハ父母妻子其他親屬知人ニ宛タル遺書ナリ(物品  
一切ナシ)且ツ其物品ヲ家人某ニ問フニ死者某ノ常ニ携帯スル者アリト陳述ス  
最モ親屬某ノ請ニ依リ寫書ヲ徵シテ本書ヲ交附シタリ又ハ死者自殺ニ使用シタ  
リト思料スル短刀(削刀銃砲毒藥)アリ何々ノ持ニテ長サ何寸其他何々ナリ而シ  
テ切先或鏢ハ元ヨリ何寸許ノ所ニ血痕アリ云々)(又溺死ニ付テハ橋際ニ下駄ヲ

脱捨アリ(自殺ニ就テハ堤上ノ雜草ヲ踏ミ倒シタル如キ形跡ヲ存シ爰ニ方尺余  
ノ血痕ヲ點瀉シタリ云々ト)其模様ニ付書スルノ類

六 死者ノ素行

近隣若シハ其知人某等ニ就テ本人ノ素行ヲ尋問セシニ平生酒ヲ嗜ミ且ツ何々ノ  
風評アリ依テ云々又ハ其身常ニ貧困ヲ過慮シ是マテ敗度何々ノ所業アリタル趣  
ナリ依テ云々(精神病或ハ臆病ノ爲メ一時精神腦亂シテ云々)ト記スルノ類

七 致命ノ原由

醫師ノ鑑定ニヨレハ何々ノ創傷ニテ致命セリト云フ其致命スヘキ場合ト否トヲ  
左ニ區別ス

仰面致命ノ創傷所

仰面 アホ頂心 アタマノ 両耳竅 ミ、ノ 偏左 アタマノ 咽喉 ノトノ 胸膛 ムナ 頤門 ナド  
ムケケ 頂心 マンナカ 両耳竅 ア、ナ 偏左 ヒ、タリ 咽喉 ア、ナ 胸膛 イダ 頤門 リ  
両乳 チ、 額頰 ナトリ 心下 ムナ 額角 ヒタ 両脇 ハラ 両太陽穴 マヘノ 臍腸 シタ 肚腸  
ホソノ 腎囊 婦人産門  
ツヘ 腎囊 女子陰門



仰而不致命處

兩眉 ヲ 兩眼 睛 ヲ ノ ヒ 肩 叢 ガ シ ラ 兩 脚 腕 ガ ヘ ト 兩 眼 胞 マ フ 兩 耳 ミ 兩 耳 輪 ミ マ  
兩 肩 甲 サ キ 兩 耳 垂 タ フ 兩 腋 脇 ノ ア ヒ タ 鼻 梁 ハ ナ バ シ ラ 兩 陰 臍 シ カ タ ノ 鼻 竅 ハ ナ ノ  
兩 脚 腕 ヒ カ ノ ウ チ 兩 手 腕 サ コ ウ ヒ 唇 吻 ヒ ル 兩 手 テ 上 下 齒 牙 口 舌 マ ハ バ オ ク バ  
兩 手 心 ハ ラ 額 額 上 ノ シ タ 十 指 テ ノ 結 喉 ノ ト 十 指 肚 ノ ハ ラ 十 指 甲 縫 ハ キ ハ  
兩 肋 ア バ 兩 脚 面 ア シ ノ 兩 股 ク ラ 兩 脚 趾 ク ル 莖 物 十 趾 ヲ シ ノ 兩 腿 モ 十 趾 甲  
ア シ ノ 兩 膝 ヒ 臚 肋 ツ チ ツ メ

合面致命所

合 面 フ シ 腦 後 ノ ア タ マ 兩 耳 根 ツ ケ チ 脊 背 カ セ ナ 兩 後 脇 ウ シ ロ ノ 脊 脊 セ ス 兩 腰 眼 ノ コ シ  
ボ

合面不致命所

髮 際 ミ ノ ハ ヘ キ ハ 面 膝 胸 ヒ サ ノ ヒ 項 頸 ク 兩 腿 肚 ム カ フ ス チ 兩 臂 臍 ウ テ ノ 兩 脚 趾  
ア シ ノ 兩 脚 跟 シ ト ク ヒ 兩 脚 心 ツ チ フ 兩 手 背 テ ノ 十 趾 十 指 趾 肚 十 指 甲 十 指 甲

縫 ア シ ノ ツ メ 兩 後 肋 ア ハ ラ 兩 臂 フ タ 穀 門 モ 兩 腿

入

自認

何 某 素 行 ニ ヨ レ ハ 盖 シ 何 キ ヲ リ 何 キ ナ 憂 慮 シ 何 キ シ タ ル モ ノ カ 且 ツ 醫 師 ノ 鑑 定  
ニ ヨ レ ハ 何 キ ノ 痲 疾 又 ハ 持 病 遺 傳 ハ 兎 角 何 キ ニ 陥 リ 易 シ ト 云 ヘ リ 依 テ 自 死 ヲ 企

圖 シ タ ル モ ノ ト 信 認 ス ト (書 ス ル ノ 類)

右 檢 視 畢 リ 直 チ ニ 此 調 書 (明 細 書) ナ 作 リ 立 會 人 ニ 讀 聞 セ タ ル ニ 其 相 違 ナ キ 旨 チ 承  
認 セ リ 依 テ 左 ニ 署 名 捺 印 ス

何 警 察 (分) 署 在 勤

明 治 何 年 何 月 何 日 警 部 (補) 巡 査 氏 名 印

立 會 人 氏 名 印

立 會 人 氏 名 印

第十七條 右 調 書 ノ 外 ニ 人 體 圖 ナ 書 キ 傷 痕 チ 朱 書 シ 傷 ノ 淺 深 大 小 等 ヲ 詳 記 シ 檢 視 書 ニ

添 付 ス ヘ シ

第十八條 醫師ノ鑒定書ニハ死者ノ屬籍住所職業氏名男女年齢及ヒ既往ノ實歴ヲ記シ  
テ以テ記録ノ一段ト爲シ檢査ノ狀況ヲ記シテ以テ二段ト爲シ檢査ニ依テ得タル結果  
ヲ記シテ以テ三段ト爲シ其實事ヲ詳述スヘシ今左ニ縊死ニ付其一例ヲ記ス

死體檢案書

何府何郡何町何番地 士族  
何縣何區何村 平民

氏名

年齢

右者明治何年何月何日變死ヲ遂ケタルニ依リ死體檢案ヲ被命何月何日何處ニ於テ檢査  
スルニ死者ノ年齢ハ何十年身長何尺何寸ニシテ全身ノ皮膚蒼白色ニシテ尙ホ紫斑ヲ呈  
シ顔面ハ黃色ヲ帶ヒ瞳孔強ク散大シ口少シク哆開シテ白沫ヲ涎出シ舌ハ嚙ミテ口鼻ノ  
間ニ突出シ口腔ニ異物ヲ含マヌ下顎ハ運動シ難ク容貌ハ都テ靜穩ナリ  
全身毫モ負傷ノ痕跡ナシ肚腹ハ稍ヤ膨脹シテ四肢ハ諸關節悉ク強直シ背部ニハ帶青紅  
色ノ死斑アリ胸ノ側面上兩腿膝及ヒ前膊ノ皮膚ニ乾燥セル血痕ヲ止メ兩手ノ拇指

ヲ内方ニ屈シ指諸悉ク屈曲シテ全ク強硬ナリ此外体中ニ於テ毫モ損傷ナク又防禦ニ原  
ツク痕跡ヲ認メス

頸ノ上部喉頭ノ上方ニ於テ一ノ橫走溝アリ頸ノ在側ニ始マリ喉頭ヲ越テ凡ソ一寸其右  
方ニ進メリ溝底ハ皮膚黃色ニシテ羊皮紙狀ニ乾燥ス此部ヨリ右耳ニ達スル部ハ索溝淺  
クシテ溝底ハ皮膚柔軟ナリ左方ノ索溝ハ後頭部ニ向テ延長スルモ肯テ皮膚ニ變化ナシ  
又此溝ハ左側ノ起始部ニ於テ其幅何分ナリ喉頭ノ左側ニ沿フテハ何分喉頭部ニ於テ何  
分其右側ニ沿フテハ何分ノ幅徑ヲ有ス

頭蓋皮膚ハ一般ニ貧血スルモ唯タ後頭部ノミ充血シ硬腦膜ノ靜脈鍊狀竇橫竇及  
大小腦ハ充血シ腦膜下腔室及ヒ頭蓋底ニハ多量ノ漿液ヲ含ミ腦質ハ硬固ナリ兩肺殊ニ  
左面ハ全面胸肋膜ト癒着シ左右胸膜腔内ニハ各三行ノ透明漿液ヲ含ミ左肺ノ上葉ハ甚  
タ充血シ右肺ノ下葉亦充血ス心囊ニハ全ク透明ノ漿液ヲ含ミ心臟ハ逆宜大ヲ有シテ脂  
肪ヲ被ムリ兩室及ヒ上房内ニハ多量ノ血液ヲ含ミ其左心ニ在ル者ハ凝固セリ胃ハ擴張  
セル管狀ヲナシテ大灣ニ一個ノ膨出セル部アリ内腔ニハ少量ノ粘液ヲ含ムノミ胆囊ハ

暗黒ナル胆汁ヲ充シ脾ハ少ニシテ血液ニ富ミ腎ハ甚々大ニシテ又血液ニ富ミ大靜脈ニハ暗黒ナル流動血ヲ含ミ腸及ヒ內生殖器官ニ於テハ毫モ變常ヲ認メス右徵候ニ依リ致命ノ原由ヲ推測スルニ某ハ其頸ヲ縊リ窒息ニ由テ致命セルモノトス之レ其頸部ニ於テ縊索ニ符合スル縊溝アレハナリ而シテ此溝ハ羊皮紙狀ノ性質ニ變スルヲ以テ生存中ニ生セサルヘカラサルモノトス(其他鑑定上ヨリ來ル結果ヲ爰ニ列舉ス)依テ何々シタルモノト鑑定スト書スヘシ

屬籍住所

年月日

醫師氏名印

(檢視官)

官氏名殿

第十九條 檢視官檢視ヲ結了セシキハ關係人ニ對シ死躰發見ノ理由及ヒ知り得ヘクンハ死者ノ決意ト過失ノ原由ヲ詳記セシメ始末書トシテ差出サシムルコトヲ得

若シ之ヲ差出サシムルキハ左ノ書例ヲ照準スヘシ

始末書

何府何郡何町何番地  
何縣何區何村何番地  
士族  
平民

何某

年齡

右者明治何年何月何日午前後何時頃自宅裏ノ井戸(沼池河堀)へ投身溺死候ニ付本日御檢視ニ相成其始末御尋問ニ依リ左ニ

右某儀何年來數年間腦病ヲ患ヒ是マテ屢々醫員ヲ替へ醫療ニ盡力候得共其効無之ノミナラス頃日ニ至リテハ病勢倍々加ハリ醫員ノ診斷ニモ容易ニ全快セサル趣申聞ケラレ爲メニ病藪ニ在リナカラ敢テ抄々シク服藥等モ致サス病苦ノミ歎息罷在候處昨夜何時頃突然起出テタル様子ニ付其際拙者用事ノ次第ヲ相尋候處圃ニ參ル趣ニ付何ノ氣モ附カス其意ニ任セ再ヒ眠ニ就キタマル際自宅裏ノ井戸ノ邊ニテ以外ノ水音致シタルニ目覺シ某ヲ呼立候處末々歸床セサル處ヨリ大ニ打驚キ燭ヲ点シテ井戸端ニ

至リ其邊見受クルニ穿物一足脱キ合テ有之ヨリ直ニ井中テ覗見セシニ水面動搖シテ且ツ泛泡噴涌ノ瀕リナルヨリ投身ト存シ家族ノ者ヲ急呼シ梯子ヲ卸シ救ヒ揚ケ種々救急ニ盡力候得共病弱ノ身ヲ以テ井底ニ墜落シ且ツ多分ニ水ヲ飲ミタルカ爲メカ終ニ蘇生致サス候最モ投身ノ際負傷セシニヤ頭部ニ何々ノ突疵有之候右ハ全ク多年ノ病苦ヲ煩惱シ到底不起ノ身ト覺悟シ自死ヲ迷ケタルモノト思料セラレ候依テ此ニ其始未申上候

右始末書ノ通聊相違無之候也

明治何年何月何日

右親屬

氏名印

檢視官

氏名印

警部(補)巡查氏名殿

第十九條 前數條ノ手續ヲ履ミ檢視ヲ結了シタルキハ其親屬ニ引渡シ埋葬セシムヘシト雖モ其本籍明瞭セサルカ又ハ他管轄ノ者ナルキハ仮埋葬ヲ爲シ村吏ヲシテ本籍照

會及ヒ揭示廣告等ノ手續ヲ爲サシムヘシ

但シ死躰ヲ引渡シタルキハ左ノ書例ニ準シ死躰請書ヲ徴スヘシ

死躰請書

族籍住所職業

氏名 年齢

右ハ明治何年何月何日午前午後何時何々ノ所ニ於テ(自縊投身又ハ過失ニ依リ)變死候所本日御檢視濟ノ上死躰御引渡相成正ニ御請仕候也

右親屬

氏名印

檢視官

官氏名殿

死躰請書

族籍住所職業氏名不知

何年位 男

六十七

右者年月日變死ニ付本日御檢視ノ所原籍不分明ニ付假埋葬トシテ御引渡相成正ニ御請仕候也

明治何年何月何日  
右何町長  
何某印  
檢視官氏名殿

第二十一條 凡ソ檢視ニ關スル一切ノ書類ハ字句改竄塗抹セサルヲ要シ若シ止ムヲ得ス改竄塗抹シタルモノハ之ニ認印シテ字体ヲ保存スヘシ  
亦タ總テノ書類ハ契印スルヲ以テ正確トス

但シ契印或ハ認印セスト雖モ敢テ書類ノ効力ニ強弱ノ差アルニアラス

### 第四章 檢證論

凡ソ吾人人類カ世事多端ナル此社會ニ群居シテ各自生養ノ本旨ヲ完フセントスルニハ其國ノ文野如何ヲ問ハス常ニ一定ノ法規ヲ設ケテ以テ活動場裏ノ秩序ヲ整理シ平和ヲ維持スルノ具ト爲サ、ルヘカラス殊ニ吾人ガ日常賴テ以テ生命財産ノ保護者ト爲シ權

利義務ノ主宰師ト仰ク所ノ嚴正ナル刑法ト之レヲ運用スル治罪法トノ如キニ至リテハ一瞬間ト雖モナカルヘカラサル重要ノモノトス從テ之レヲ制定スル立法官ノ苦心之レヲ支持スル司法官ノ慎密之レヲ監守スル警察官ノ勞苦モ亦幾層ノ重キヲ加フルト雖モ尙ホ榮漢黠徒ノ奇幸心ヲ絶ツ能ハス爲メニ其ノ責任ニ對スル法學者ノ橫議斯民ノ苦情ハ往々其四邊ヲ圍繞シテ喧々囂々ニ堪エサルノ觀ヲ呈スルヲ夫レ然リト雖モ吾人ハ今マ喋々ノ辨ヲ勞シテ敢テ立法ノ本原解釋ノ純理及ヒ執行ノ困難ヲ探求露列シテ以テ其惑ヲ解ント欲スルモノニアラス唯々此紛冗複雜ナル社會ニ屹立シテ能ク人心ノ向背ヲ整理シ且ツ其運命ヲ主宰スル警察官其人ハ如何ニシテ信用ヲ收メ權威ヲ保持シ以テ其本分ヲ完フセントスルカヲ人アリ吾人ノ惑ヲ解ヒテ曰ク信用ハ誠實ニ基キ權威ハ公正ニ出ツト能ク一言ニシテ盡セリト云フヘシ然リト雖モ之ヲ云フハ易ク之ヲ行フ事ハ難シ一朝當務ノ曉ニ至リテハ果シテ其言ノ如クナリヤ否ヤ蓋シ誠實ノ如キハ警察官ノ特有物ナルヲ以テ敢テ余輩ノ贅辨ヲ要セスト雖モ其權威ヲ保全セントスル公正ノ處分如何ニ至リテハ少シク鄙見ノ止ムヘカラサルモノアリ何トナレハ公平無私敢テ掩

心所ナキ警官ト雖モ若シ其職權ヲ執行スルニ際シ其當行ノ方法乃チ順序規定ヲ辨セズ  
 若クハ誤解スルニ至リテハ決シテ公正ト云フ能ハサレハナリ而シテ檢證處分ニ付持  
 其公正ヲ期セントセハ第一証憑ノ何物タルヲ知ルニアリ第二之ヲ集取スル順序規定  
 ナ知ルニアリ第三世ノ安寧ト犯跡消滅及ヒ犯人逃亡等ヲ防ク公益保護ノ急ナル例外ノ  
 規定ヲ以テ漫然執行官其人ニ便宜ト自由トヲ特許シタルモノト思考シ爲メニ治罪ノ手  
 續ヲ局外視セサルニアリ然ラスンハ兇漢ハ法網ノ表ヲ破リ執行官ハ其裏ヲ潛クルトノ  
 譏ハ決シテ免ル能ハサルヘシ且ツ亦平常ノ言行ニ至リテハ宜シク着實ニ宜シク慎重  
 且ツ義侠心ヲ以テ強チ排シ弱チ助クルノ思念アラスンハ何ニ依テカ民心ヲ支配シ其向  
 背ヲ定メンヤ嗚呼此社會ヲ經綸スル警察官其人ニシテ一朝罪否ヲ判定スル憑ヲ集取ス  
 ルニ若シ其規定順序ニ依違スルヲナクシテハ檢證ノ効力ハ以テ其名譽ヲ左右スルノ刺戟  
 藥タラントス豈ニ其レ此ニ留意セズシ可テナランヤ

(附記) 証憑ヲ別テ二種トス一チ無形ノ証憑ト云ヒ一チ有形ノ証憑ト云フ從テ之レカ  
 採取ノ手續方法モ亦タ一樣ナラス乃チ無形ノ証憑ハ被告人及ヒ證人等ノ訊問等ヨリ

之レヲ得ヘク檢證及ヒ物件差押等ノ如キ有形ノ証憑ハ犯所若シクハ家宅ニ臨檢セザ  
 レハ之レヲ得ル能ハス然リ而シテ今此二者ニ區別チ立ツル所以ノモノハ其効力ニ輕  
 重アルカ爲メニアラス証憑其物自然ヨリ生出シタルノミ蓋シ無形ノ証憑ハ犯罪ノ實  
 況ヲ推測スルニ益アリト雖モ之ヲ明示スルニ由タク亦タ有形ノ証憑ハ之レヲ明示ス  
 ルニ容易ナリト雖モ其實況ヲ穿ツニ難シ故コ此ノ二者相俟ツテ其ノ用ヲ完フスト云  
 フモ可ナリ是ヲ以テ証憑集取ニ當リテハ可成此ノ二者ヲ完備セシムル様注意セサル  
 ヘカラス

檢證處分トハ自ラ其事實ヲ證明スヘキ證言ヲ得ルノ處分ニアラスシテ自ラ其事實ヲ  
 證明スル能ハサル證憑ヲ集取シテ以テ其事實ヲ證明セントスルノ處分ナリ故ニ犯所  
 臨檢家宅搜索物件差押等ハ皆檢證ノ手續トス何トナレバ等ノ處分ハ何レモ證言ヲ得  
 ルノ手續ニアラスシテ犯所ノ摸樣物件ノ形狀ヲ取調ヘ書類物件ヲ差押ニ以テ事實ヲ  
 證明セストスルノ手續ナレハナリ

檢證ニ二種アリ其一ハ預審判事檢事ノ請求ニ依リ亦ハ其職權ヲ以テ犯所若シハ事實

ヲ發見スルニ必要ナリト思料スル家宅ニ臨檢スルモノニシテ其一ハ規行犯ノ場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルキハ檢事ノ請求アルト否トニ係ハラス犯所ニ臨檢シテ檢證スルモノナリ而シテ第二ノ場合ハ預審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ直チニ其公訴ヲ受取シタルモノトス其効ノ重大ナル他ニ比スヘキナシ而シテ此處分ハ獨リ預審判事ノミナラス檢事司法警察官モ仍ホ之ヲ爲スノ職權ヲ有ス而シテ其司法警察官ノ處分ニ限リ其處分預審ニアラスシテ預審中ノ手續ナリトス故ニ假ニシテ眞ナラス亦檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理スルノ効ナシト雖其事實ヲ證明スヘキ第一位ノモノナルニヨリ若シ司法警察官ニシテ重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ方リ其處分急速ヲ要スヘキモノニシテ犯所ニ臨檢シタルキハ百事ヲ閱キ先ツ犯罪ノ存否及ヒ本犯ノ誰ナルヤヲ證明スヘキ摸樣ヲ檢證スルトハ被告事件ノ存否及ヒ其刑法ニ觸ル、ヘキモノナルヤ否ヤ亦犯罪ノ方法結果本犯ノ誰ナルヤヲ證明スヘキ有形ノ摸樣ヲ檢證スルニアリ

第一節 通則

第一條 凡ソ罪蹟檢證ノ要旨ハ裁判上其審理ノ確証ヲ得ルニアリ故ニ臨檢ニ際シテハ

- 一、犯罪ノ性質 (例之ハ放火ト失火ト謀殺ト過失殺ト強盜ト詐僞取財ト) (一) 犯罪ノ原由 (例之ハ毆打者ノ致命ハ毆打致死アリヤ否ヤ怨恨ノ爲メニ毆打セラレタルヤ否ヤ罪蹟掩蔽ノ爲メナラスヤ否ヤ其他竊盜ニシテ贓物取還チ) (二) 犯罪ノ拒ム爲メニ人ヲ殺傷シ又ハ強盜ニ變シタルニアラスヤ否ヤ (三) 犯罪ノ方法 (例之ニ謀殺ニモ毒物殺アリ刀槍殺アリ亦タ竊盜) (四) 犯罪ノ結果 (乃チ毆打罪ニ付テハ毆打ノ爲メ癱疾及ヒ篤疾ニモ兇器携帯アリ鎖鑰破毀等アルカ如シ) (五) 犯罪ノ日時 (犯罪ノ日時ハ犯人ノ陳述等ヲ明ナラシメ又ハ何日問疾病休業等) (六) 犯人ノ氏名 (犯人ノ氏名ハ十中八九ニ至ルヤ等ノ事ナリ) (七) 若シ分明ナラサレハ人相辨格上特書シタル場合ニ於テハ罪ノ元素トナリ) (八) 犯人ノ氏名ハ明瞭セサル者ナリト又加重ノ理由トナル即チ夜中云々之ナリ) (九) 犯人ノ氏名ハ明瞭セサル者ナリト雖モ檢證上能ク之ヲ知得シ裁判ヲシテ其効ヲ有) (十) 若シ分明ナラサレハ人相辨格セシメ且ツ人違ナキヲ檢證セサルヘカラス) (十一) 若シ分明ナラサレハ人相辨格人相辨格ハ檢證上必要ノミナラス治罪法第百二十) (十二) 若シ分明ナラサレハ人相辨格五條ノ令狀ヲ發スルニハ是非共記セサルヲ得ス) (十三) 若シ分明ナラサレハ人相辨格大トナク審査シテ調書ヲ作ルヘシ

第二條 司法警察官臨檢ニ際シテハ治罪法第三編第三章ノ規定ニ依リ家宅搜索物件差

押犯人亦ハ証人ノ訊問及ヒ對質犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムルカ爲メ鑑定人ヲシテ其學術職業ニ仍リ鑑定ヲ爲サシムルヲ得ヘシ

但シ豫審判事ノ囑託シタル場合ノ外証人鑑定人等ニ對シ發スル呼出狀ハ都テ報知書ヲ用フヘシ

第三條 臨檢ノ際犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ由テ得タル物件其他事實發見ニ必要ナリト思料シタルモノハ何人ノ所有ヲ問ハス差押ユルヲ得

前項ノ外物件ノ出所又ハ模様ニ依リ被告人ノ人違ヲキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルコ足ルヘシト思料シタルモハ差押ヲ爲スヲ得ヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テハ其物件ノ目錄ヲ作り一ヶ毎ニ之ヲ封シ番號ヲ附ケ封印スヘシ且ツ其湮滅ノ虞アルモノハ特ニ密封シ又ハ適宜ノ器物ニ容レ原態原質ヲ變化セシメサル様注意スヘシ  
(死去ノ前ニ服用シタル食物飲料藥餌ノ殘余亦タ死骸ヲ解剖之ヲ壺中ニ藏メ又ハ胃腹ヲ裁シタルモハ胃腹ノ内ニアル固形軀流動物等ヲ取りタルモハ斷シ之ヲ藏ムルノ類之レナリ)  
物件差押ヲ爲シタルモハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其賸本ヲ交附スヘシ

差押ユタル物件ニシテ裁判所ニ送致スルニ及ハサルモノト思料シタル者ハ所有者又

ハ保管者ニ假渡ヲ爲シ其領收證書ヲ調書ニ添附スヘシ

事實發見ニ必要ナル物件ニシテ單ニ其模様ヲ記載シ置キ搜查ニ差支ナキモノハ差押ユルニ及ハス

山林原野其他ノ犯所ニ於テ物件差押ヲ爲スモハ巡查ヲシテ立會人ヲラシムヲ得

(亦犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ルモノニシテ差押ユヘカラサルモノアリ例之ハ雪中ノ犯人ノ逃ケタル足跡及ヒ血痕等ノ如キハ其踪跡ヲ審キ差押物件ノ處分ニ易フ)

第五條 檢証處分ヲ爲スニ付テハ被告人ノ家宅若シクハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ家宅ヲ搜索スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ必スシモ戶主ノ承諾ヲ俟ツニ及ハスト雖モ可成檢証前ニ其旨ヲ通知シ公力等ヲ用ヒサル様注意スヘシ

第六條 檢証ヲ爲ス場合ニ於テ被告人其處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシメントテ請求シタルモハ拘留ヲ受ケタル被告人ヲ除クノ外ハ差支ナカルベシ尤モ處分上必要トスルモハ拘留ヲ受ケタル被告人ト雖モ立會シムルヲ得ヘシ

(參照明治十五年六月十三日(司)丁第十三號達)



審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張ノ節ハ其地ノ警察官ニ護送引致方通  
知可致尤モ護送ニ属スル費用ハ渾テ警察費ヨリ支辨ノ筈ニ候條此旨相達候事

第七條 檢証處分中雜沓喧噪其他妨害ヲ爲ス者アルキハ之ヲ制止スヘシ亦何人ニ限ラ  
ス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルヲ禁ム若シ其禁ヲ犯ス者アルキハ之ヲ逐斥シ  
又ハ處分終ルマテ留置スルヲ得

第八條 檢証ハ其處分終ルマテ停止セサルヲ要シ若シ止ムヲ得サル事故アリテ之レ  
ヲ停止スルキハ証憑湮滅ヲ防止スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置カサル  
ヘカラス

但シ看守者ハ巡查戸長等ナシテ其任ニ當ラシムヘシト雖モ若シ差支アルキハ當該官  
ニ於テ正確ナリト信認シタル者ヲ以テ看守者ト爲スヘシ

第九條 司法警察官檢証着手中檢事又ハ豫審判官臨檢シタルキハ之レヲ豫審判事檢事  
ニ讓ルヘシ檢事亦ハ豫審判事ニ於テ其處分ノ全部又ハ幾部ヲ繼續センヲ求ムルト  
ハ之ヲ行フヘシ

第十條 凡ソ臨檢ノ際他ノ附帶ノ犯罪ヲ發見シタルキハ治罪法第九十六條ニ依リ犯罪  
ニ係ル物品ハ假ニ之ヲ押收シ其職務ヲ行フタル地ノ檢事ニ告發スヘシ

第十一條 檢証處分ヲ爲シタルキハ調書ヲ作り之ヲ立會人ニ讀聞セ其相違ヲキヤ否ヲ  
問ヒ署名捺印セシムヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルキハ其旨ヲ附記スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ立會人其陳述ニ付變更増減スヘキヲ申立タルキハ更ニ訊問ノ上  
其陳述ヲ錄取シ之ヲ讀ミ聞セ署名捺印セシムヘシ

(參照明治十四年(司)丙第十六號達)

治罪法中犯人証人等押印ノ規定ニ實印無之者ニ限り從來ノ慣例ニ依リ押印爲致候儀  
ト心得ヘシ

第十二條 檢証調書ニハ左ノ標準ニ依リ其事項ヲ區分記載スヘシ

- 一 被告人ノ氏名年齢身分職業住所若シ分明ナラサルキハ容貌體格音聲
- 二 檢証ヲ爲シタル場所
- 三 家宅内ニ於テ檢証ヲ爲シタルキハ戸主又ハ其同居ノ親屬若クハ町村長ノ立會ヲ

- 四 被告人民事原告人又ハ其代人ノ立會アリタルキハ其氏名
  - 五 犯罪ノ性質及ヒ方法
  - 六 犯罪ノ日時場所及ヒ結果
  - 七 被告人ノ人違ナキヲ証明スヘキ模様
  - 八 被告人ノ利益トナルヘキ模様
  - 九 差押エタル物件ノ品目及ヒ量數
  - 十 差押エタル物件ニ付被告人ノ辨解
  - 十一 証人ノ陳述及鑑定ヲ命シタルキハ其申立及其申立書アルキハ之ヲ添付スヘシ
  - 十二 檢証シタル時間
  - 十三 差押物件目錄ヲ作りタルキハ之ヲ添付シタル
- 第十三條 巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪ノ現行犯ヲ認め被告人ヲ捕獲シタル場合ニ於テ即時其犯跡ヲ檢証セザレハ証憑湮滅ノ虞アリト思料スルキハ檢証處分ヲ決行ス

ルヲ得スト雖モ其現況ヲ筆録シテ其罪蹟ヲ証明スルヲ得  
 前項ノ書類ハ証憑ノ効力ナシト雖モ裁判上事實參考ノ實効アルヲ以テ勉メテ精密ニ記載スヘシ其筆録スル暇ナキ場合ハ其原態ヲ保存シ口頭ヲ以テ犯蹟ヲ証明スルヲ得

第十四條 巡查持部内巡行ノ際檢證ヲ要スル犯罪事件ヲ認め亞テ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ得タルキハ之ヲ差押エ檢證處分ト共ニ司法警察官ニ移送スヘシ

### 第二節 現行犯ノ檢證

第十五條 司法警察官ハ檢事又ハ豫審判事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルカ又ハ檢事豫審判事ノ臨檢ヲ待ツノ必要ナシト認めルモノハ治罪法第二百五條ノ規定ニ依リ犯所ニ臨檢シテ豫審ニ屬スル處分ヲ假行スルヲ得

亦如何ナル場合ニ於テ即時被先人ヲ逮捕シタルキハ假リニ被告人ノ訊問及ヒ檢證處分ヲ執行スヘシ

第十六條 家宅内ニ於テ現ニ重罪輕罪ヲ犯シタルモノアルキハ何時ニテモ其現場ニ限  
リ立會人ナクシテ檢證處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

但犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ除クノ外立會人ナクシテ之ヲ差押ユルコトヲ得サルモノ  
トス

第十七條 臨檢ニ當リテハ被害者ヲシテ事實ヲ陳述セシメ見証人及其場ニ見在セル親  
戚隣佑雇人等ノ陳供ヲ聽キ調書ヲ作り署名捺印セシムヘシ

又行害人見在スレハ直ニ逮捕スヘシト雖モ逃走シタルキハ拘引狀亦ハ拘留狀ヲ發ス  
ヘシ

第十八條 警察官吏又ハ巡查其職務ヲ行フニ際シ非現行殺害ノ死屍アルコトヲ見聞シ  
即時檢證ヲ爲サ、レハ腐爛シテ致命ノ原由ヲ確認スヘカラサルニ至ルモノト思料シ  
タル片ハ檢證處分ヲ爲シ証憑書類ノミ檢事ニ送致スヘシ

第十九條 警察官吏又ハ巡查其職務ヲ行フニ際シ現行犯人ヲ逮捕シタル時ハ犯所ニ現  
存スル証憑物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ差押ユルコトヲ得

第二十條 前數條ノ場合ニ於テ蒐集シタル証憑書類物件ハ檢證調書ニ添ヘ送ルコトヲ

檢事ニ(本文被告人ヲ逮捕シタルキハ共ニ)送致スヘシ

但シ調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記シ犯所ノ模様ヲ畫キ殺傷ニ係ルモノ

ハ人体圖ヲ作り其場所ヲ明記シ之ヲ添付スヘシ

(右現場ノ模様ヲ寫スコトハ犯罪ノ豫備又ハ犯罪後ノ所爲ヲ知ルニアリ故ニ犯罪ノ  
種類ニ因リ一様ナラス然レモ犯所ニ就テハ現場ノ位置方角周圍及人家ノ距離ヲ寫  
スニアリ又タ犯罪ノ事物ニ就テハ建造物ノ位置及形狀破損ノ有無門戶牆壁鎖鑰ノ強  
弱又地面ノ凸凹道路ノ曲直樹木ノ有無及痕跡其他証據ノ實否ヲ知ルニ必要ナル時ハ  
之ヲ寫スヘシ運搬スヘカラスルモノハ寫スヘシ其形体模様ヲ知ルニ必要ナル時ハ之ヲ寫スヘシ)

### 第三節 非現行犯ノ檢證

第二十條 司法警察官ハ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ其職權亦ハ他ノ囑託ニ依リ  
証憑及事實參考トナルヘキ事物ヲ集取セントスルキハ治罪法第三編第三章第三節以

下証人被告人ノ訊問及ヒ臨檢ニ關スル處分ヲ決行スルヲ得

其豫審判事ヨリ囑託ヲ受ケタル事件ニ付テハ証人鑑定人ニ對シ宣誓セシメテ其陳述ヲ聽クヲ得ヘシ

亦此等ノ者ヲ呼出スニハ都テ公式ニ依ルヘシト雖モ其公式ヲ用ヒス報知亦ハ口達ヲ以テ呼出シタルキハ其呼出ニ應セサルモ之ヲ告發スルヲ得ス

亦タ公式ニ依ラスシテ呼出シタル証人鑑定人ニシテ異議ヲ申立テサル時ハ宣誓セシメテ其陳述ヲ聽クヲ得

其公式ニ依リ呼出シタル犯人鑑定人ニシテ其呼出ニ應セサルハ之ヲ管轄檢事ニ告發スヘシ又令狀ヲ以テ犯人ヲ引致シ及勾留狀ヲ發シタルキハ其正本ヲ檢証調書ニ添付スヘシ

(參照) 治罪法第六十條東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府長官ハ此限コアラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ一、警視警部二、憲兵將校下士三、區長郡長四、治安判事五、警部ノ在ラサル地ノ戶長

治罪法第六十一條司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ証憑其他事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取ス可キノ囑託ヲ受クルコアルヘシ

治罪法第九十二條檢察官ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ其証憑及ヒ犯人ヲ捜査シ第七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 前條ノ場合ニ於テ犯所ニ臨檢シタルキハ治罪法第五十八條以下家宅ニ臨檢シタルキハ同第六十一條以下ノ規定ニ依リ其處分ヲ決行スヘシ

第二十三條 司法警察官ハ事實證明ノ爲メ必要ナリトスル物件ヲ藏匿スルノ疑アルモノ、住所ニ臨檢スルヲ得

本條ノ場合ニ於テ戸主又ハ代理者ノ承諾ナキハニ限リ立會人二名以上アルニアラザレハ家宅搜索物件差押ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 司法警察官ハ事實發見ノ爲メ被告人ノ住所ニ臨檢シタルハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

此場合ニ於テ本人其住所ニ在ラサルハ全居ノ親屬(但シ治罪法第百八十二條ニ相當スルモノハ除ク)若シ其在ラサルハ其地戸長ノ立會アルヲ要スヘシ亦タ被告人民事原告人又ハ其代人ヨリ本按ノ處分ニ立會フコトヲ請求シタルハ之ヲ聽許スヘシ

第二十五條 家宅内ノ檢證ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但晝間其處分ニ着手シタルハ夜間ニ及フモ防ケナカルヘシ亦タ急速ヲ要スル場合ニ於テ戸主ノ承諾アリタルハ何時ニテモ檢證處分ヲ決行スルコトヲ得ヘシ

亦タ家宅外ノ檢證ニシテ時機緊急立會人二名以上ヲ得ルコト能ハサルハ巡查チテ立會人タラシムルコトヲ得ヘシ(本項中特ニ急速ヲ要スル場合トハ積雪亦ハ地上証人ノ瀕死瀕車等ニ乗込ミ及ヒ遠地ニ旅行セントスル等ハ其一例ナリ)

第二十六條 官署内ニ於テ檢證ヲ爲スルハ其長官又ハ其指名シタルモノ、立會アルヲ要ス

第二十八條 家宅内ノ檢證ヲ爲スニハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶牆壁器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

但搜索ハ其目的トスル所ノ書類物件ヲ藏スヘシト思料スル器具ノ外濫ニ開披スヘカラス

又其處分終リタル時ハ書類物件ノ紛失毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

### 第四節 書式記載例

第二十八條 司法警察官諸種ノ調書ヲ記載スルニハ治罪ノ規定ニ準據スヘキハ勿論ナリト雖モ尙左ノ數條ヲ參照スヘシ

第二十九條 司法警察官臨檢ニ際シテハ先ツ被告人証人等ニ對シ速ニ其要點ヲ訊問シ

他日其事實ニ付偽語作言等爲サシメサル様注意スヘシ

但シ訊問ハ可成兩端ヲ舉ケ應答者ヲシテ然リ又ハ否ト云ハシメサルヲ要スヘシ

（兩端トハ例之ハ汝ノ姓名ハ如何又ハ何々シタル事實ハ如何此ノ事ハ覺アリヤナキヤ等訊問シ應答者ヲシテ何々ヲ爲シタリ又ハ爲サス又ハ知レリ知ラスト答ヘシムルガ如シ）

第三十條 調書ハ公判上重要ノ關係ヲ有スルモノニ付犯罪ノ事蹟及ヒ白狀等ハ勉メテ

眞寫シ且ツ可成平易ノ語ヲ用ヒ文体ヲ飾ルヘカラス

第三十一條 調書ハ社會ノ秩序被告人ノ利害ニ直接ノ關係ヲ有スルモノニ付力メテ字

句ヲ正クシ例之ハ本年本月本日或ハ何年何月何日或ハ該人同人等ノ語ハ記載セサル

様注意スヘシ

第三十二條 調書ハ問答式ヲ用ユルヲ以テ正則トスト雖モ犯人ニ於テ輒ク服罪シ証憑

充分ナル時ハ之ヲ用フルニ及ハサルモノトス

第三十三條 司法警察官犯所ニ臨檢シ一切ノ調書ヲ作ルニ際シ其ノ景狀ヲ知ルニ由ナ

キ犯罪ハ其告訴發届人等ニ就キ精密ニ訊問シテ其ノ訴狀若クハ供述書ヲ以テ檢證

調書ノ効力ヲ保持セシムヘシ

第三十四條 檢証其地司法ニ關スル書類ノ正本又ハ謄本ヲ作ルニ付文字ヲ改竄スヘカ

ラス挿入削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲シタル時ハ之ニ認印ス若シ文字ヲ削除スル時ハ之

ヲ讀ミ得ヘキ様字体ヲ存シ字數ヲ記載スヘシ此規定ニ違背シタル時ハ其變更増減ノ

効ナカルヘシ

第三十五條 治罪法第九十三條及同第九十五條ノ規定ニ依リ口頭ヲ以テ告訴（發）ヲ爲

シタルモノアルキハ左式ニ準シ其調書ヲ作り署名捺印スヘシ

告訴調書

住所身分職業

氏名

右ハ明治何年何月何日當警察（分）署ニ出頭シ本職面前ニ於テ何府何郡何町何番地 平民

ニ對シ口頭ヲ以テ詐欺取財ノ始末左ノ通告訴シタリ

明治何年何月何日午後何時頃被告人何某私方へ來リ留守致居候實母某ニ對シ及物

磨直ヲ申入タルニ付無之趣ヲ以テ相斷リ候處敢テ立去ラス家内ニ一見ノ臺所ニ立入  
 リ自儘ニ出及庖丁ヲ持出シ磨直シタル末其賃錢トシテ五十錢仕拂フヘキ旨申談シ若シ  
 拂サルニ於テハ直ノ當家ヲ燒燬スヘシ威嚇シタルニ依リ恐懼ノ余（恐喝ハ人ニヨリ  
 一様ナラス然レ  
 被害者ノ精神ヲ充分支配スヘキ程ノ言語舉動ナルヲ要ス第二恐喝ノ現在ノトニ臨ス  
 ルヲ要ス故ニ賃錢トシテハ十日ノ後燒燬スヘシ云々ト云ヒタル如キ事實ナレハ通  
 常犯罪成立セサルモノトス田舎廻ノ無賴者ヲ取扱フ警察官ハ能ク此點ニ注意スヘ  
 シ）彼カ請求額ノ賃錢仕拂タル際私歸宅仕其次第逐一老母ヨリ申聞ラレ因テ本人ニ  
 對シ其不當ヲ詰問セシニ彼一言ノ挨拶モナク立去ントスルニ依リ引留メ隣佑某ト某  
 トニ參會ヲ依頼シ之ニ監守ヲ托シ置ケリ右ハ言ヲ及物磨直ニ托シ不當ノ賃錢ヲ恐喝  
 取財シタル者ト認メ茲ニ告訴仕候尤磨直シタル出及庖丁ハ事實參考ノ爲持參致候  
 右陳述ヲ錄取シ之ヲ告訴人何某ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ承認セリ依テ本職ト共  
 ニ左ニ署名捺印ス

明治何年何月何日 何縣警察(分)署ニ於テ  
 警部(補)氏名印

告訴人氏名印  
(代人ナレハ本人代人ノ氏名)  
 ナ書シ其旨ヲ附記スヘシ)

第三十六條 前條ノ告訴ニ依リ被告人ヲ逮捕シタル時ハ左ノ書例ニ準シ訊問調書ヲ作  
 ルヘシ

訊問調書

明治何年何月何日午前何時何府縣何警察(分)署ニ於テ警部(補)巡查何某ハ詐欺取財被告  
 事件ニ付被告人何某ニ對シ左ノ訊問ヲ爲シタリ  
 問 汝ノ住所氏名年齢身分職業ハ如何  
 答 何々  
 問 是マテ重輕罪ニ依リ處刑セラレシコトハナキカ  
 答 有リマス又ハ有リマセン(若シ有ル時ハ其事實ヲ確ムヘシ)  
 問 何月何日乃チ本日何町村何某方ニ於テ依頼セサル出及庖丁ヲ磨キシヤ否トノ事  
 實

答 何々

問 貸錢額不當ノ理云々

答 何々

問 出刃庖丁ヲ磨キタル實物ノ辨解

答 何々

問 外ニ申立ツヘキコトハナキカ

答 ナシ

右陳述ヲ録取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキ旨申立ツ依テ被告人ト共ニ左ニ署名捺印ス

何府縣何警察分(署)ニ於テ

明治 何年 何月 何日

警部(補)氏名印  
被告人氏名印

第二十七條 告訴ヲ俟テ受理スヘキ事件ニシテ被告人ノ離タルコトヲ指命スル能ハサルモ物色スルヲ得ヘキ場合ハ其ノ告訴ノ効アルモノトス(本項ノ事實ハ強姦等ニ最

モ多シトス)

第三十八條 告訴告發ノ書面ニシテ事實明瞭セサル廉アル時ハ本人ヲ召喚シ一應取調ノ上訂正セシムルヲ得

第三十九條 被告人又ハ証人ニシテ無筆無印ノ爲メ手署押印スルヲ能ハサル時ハ左ノ例ニ準シテ處分スヘシ

(被告人無筆ニシテ手署スル能ハサル時)

其相違ナキ旨申立ツルモ無筆ニシテ手署スル能ハサル旨申立ツルニ付本職其氏名ヲ書シ自ラ押印セシム

(署名捺印スル能ハサルモノ書例)

其相違ナキモ何々ノ爲メ署名捺印スル能ハサルヲ以テ(又ハ署名捺印ヲ肯セサルニ付)本職此ニ署名捺印ス

第四十條 前條ノ處分ヲ終ヘ被告人ヲ檢事ニ送致スルニハ左ノ式ニ準シテ記載スヘ



(第何號)

送致書

九十二

何年何月何日拘留引

住所身分職業

氏名

年 齡

連累人アル時ハ前全様

右ノ者住所身分職業氏名ニ對シ詐欺取財セシ被告事件ノ告訴ヲ受理シ取調ヘタルハ事實相違ナキ者ト認ムルヲ以テ治罪法第九十三條第四項ニ依リ別紙被訴調書訊問調書各何通證據物件何個及所持品何個(書類物件ニハ目錄ヲ附シ別紙目錄ノ通トスル者差支ナシ)相添ヘ及御送致候也

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

明治何年何月何日

何輕罪裁判所(支廳)

檢事氏名殿

(書類送致ノ書例)(欠席裁判又ハ預審判事ノ預審スルコトヲ得ル場合)

(第何號)

書類送致書

住所身分職業

氏名

年 齡

右ハ何々ノ罪犯者ト思料候得共其處在不分明ニ付逮捕致難ク又ハ其犯罪者ハ何町村何番地何某ナラント思料候得共犯跡未タ充分セサルニ付告訴狀何通及ヒ證據物件何個ノミ取纏メ(或ハ取括リ取束子)及御送致候也

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

年 號 年 月 日

何輕裁判所(支廳)

九十三

檢事氏名殿

九十四

第四十一條

警察官吏其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ現行犯人ヲ逮捕シ並ニ罰金ノ刑ニ該ル輕罪及違警罪ヲ現認シ治罪法第百二條以下ノ手續ヲ履行セントスルモノハ左ノ書例ニ準シ告發狀逮捕調書及檢證調書等ヲ記載スヘシ

（巡查現行ノ竊盜犯人ヲ逮捕シタルキノ告發狀）

告發狀

何府何郡何町何番地 土族 平民 何職

氏名

年 齡

右者明治何年何月何日午前三時頃何町何番地何某方ノ裏手ナル細横丁巡行ノ際其邸内ニ於テ不審ノ物音致シニ依リ牆塙ノ空隙ヨリ透見候折柄手拭ニテ頰冠リヲ爲セシ男一人大風呂敷包ヲ携ヘ足早ニ出來リ裏門ヲ押明シルヤ否ヤ駈出サントスル出合頭ヘ横合ヨリ大喝一聲組付タルニ彼大ニ仰天シ振離サントスル手先ニ用意ノ捕繩ヲ

纏束セシニヨリ抵抗ノ暇ナク直ニ縛ニ就ケリ依テ其舉動ヲ詰問セシニ右何某方ノ土藏ヲ破壊シ携帶シタル物品數點竊取シタル趣陳供セリ依テ家主何某ヲ喚起シ其始末ヲ申告シ本犯被告ハ治罪法第百二條全第百三條ニ依リ引致候ニ付此段及告發候也

何府何警察(分)署在勤

明治何年何月何日 巡查氏名印

何縣何警察(分)署

警部(補)氏名殿

第四十二條 前條ノ告發ヲ受ケタル司法警檢察官証處分トシテ被害者ノ家宅ニ臨檢シタルキハ左ノ書例ニ由リ其調書ヲ作ルヘシ

檢證調書

明治何年何月何日午前何時何署在勤巡查何某ハ竊盜ノ現行犯人トシテ何某ヲ逮捕シ之ヲ本職面前ニ引致シ第一號ノ告發狀ヲ差出シタリ右告發ニ因レハ本犯何府(縣)何郡(區)何町(村)平民何某何十年ハ何郡區何町何番地何某方ノ土藏ヲ破壊シ衣類其他

九十五

ノ物品ヲ竊取シタルモノト認メ檢證トシテ明治何年何月何日被害者何某家宅ニ至  
テ戸主(某不在ニ付代理)某ヲ爲立會檢證スルニ左ノ如シ

一 犯罪ノ場所

何府何郡何村何番地何某家宅ハ何町ノ中央ニシテ邸内ハ四面小溝ヲ廻シ其居宅ノ  
構造ハ東西間口何間南北奥行何間ニシテ物瓦葺ナリ之ト並ヒテ南向キ間口何間東  
行何間ノ土藏一個アリ其構造ハ何々ニシテ西二三間距チ、本家ノ勝手口ナリ勝手  
ノ傍ニ井戸アリ井戸ヲ南ニ一間ヲ隔テ、物置ノ小屋アリ小屋ノ軒下ハ溝ニシテ西  
隣ノ境界ニ接シ高サ九尺ノ牆塀アリ之ヲ攀越シタル泥鞋ノ足跡六個ヲ存印ス故ニ  
賊ハ此ヨリ押入り直ニ土藏ノ戸口ニ至リ錠前ヲ破毀セントセシモノニヤ種々切損  
ノ異跡ヲ見ル然レモ殊ノ外堅固ナルニヨリ更ニ轉シテ物置ニ懸ケ置タル九サ八寸  
長サ九尺ノ棍棒ヲ取來リ之ヲ南向キノ窓口ニ押懸ケ鐵網ヲ突破リ且ツ物置ニ懸ケ  
置キタル梯子ヲ持來リテ之ヲ懸ケ替ヘ土藏ノ二階ヘ忍入りタルノ形跡ヲ留メタリ

二 犯罪ノ方法

本犯カ土藏ノ入口ニ至リ錠前ヲ毀損セシ犯跡ヲ推測スルニ初メ偽錠ヲ使用シ種々  
之ヲ試行セシモ合ハサルヨリ到底明クヘカラサルヲ察シ更ニ尖銳ナル鉄器ヲ以テ  
錠前ヲ捻切ラントセシモ是亦其目的ヲ遂ケス更ニ前記ノ棍棒ヲ持來リ上窓ノ鉄網  
ヲ突破リタルモノニシテ其犯跡ハ現場ノ模様ニテ判然セリ而シテ梯子ヲ掛替ヘ右  
ノ窓口ヨリ押入りタルノ犯跡ハ第一足跡ニ依リ第二梯子ヲ立テ掛ケタルニ依リ第  
三窓下ノ模様等ニ依テ明瞭ナリ

三 犯罪ノ日時

家主某ノ陳述ニヨレハ被難ノ前夜午後十一時頃家内一同就寐ノ際邸内ヲ見巡リタ  
ルニ別ニ異狀ナカリシト云フヲ以テ見レハ同夜十一時過ヨリ本日乃テ何日午前第  
何時マテノ間ト思料ス

四 被盜物品

被盜品ハ土藏二階ノ箆筒ノ中ヨリ何々何点長持ノ中ヨリ何々何点ナリ(其詳細ハ  
盜難届書ニ詳記シ之ヲ本調書ニ添付スルヲ以テ此ニ之ヲ省略ス)

五 差押エタル物件

土藏戸前ノ下ニ及先ノ尖銳ナル鉄器壹本及ヒ偽鍵一個遺留セリ依テ本犯某カ犯罪ノ用ニ供シタルモノト認メ之ヲ差押ヘ目錄ヲ作り調書ニ添付シタリ

六 檢證時間

明治何年何月何日午前(後)第何時何十分ニ若手シ同何時何十分ニ終ル右檢證ヲ結了シ直ニ此調書ヲ作り立會人ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ申立ツ依テ其確實ヲ証スル爲メ左ニ署名捺印ス  
但出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ押捺スルヲ能ハス

何府 何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

立會人

右家主

氏名印

隣 佑

氏名印

第四十三條 臨檢ニ際シ犯跡消滅シテ檢証スルヲ能ハス若クハ檢証スヘキ形跡ナキモノハ左ノ書例ニ準シテ其事由書ヲ作ルヘシ

臨 檢 調 書

明治何年何月何日何郡何町何番地何某ヨリ第何號ノ竊盜難告訴狀差出シタルニ付被害者何某家宅(又ハ犯所)ニ臨檢シタルニ其所爲檢証スヘキ形跡ヲ留メス(又ハ消滅ス)ト雖モ其事實告訴狀ノ通り相違ナキモノト認定シ依テ何所ニ於テ此調書ヲ作ル者也

何府 何警察(分)在勤

警部(補)氏名印

明治何年何月何日

第四十四條 違警罪犯告訴狀及ヒ其他ノ調書類ハ左ノ書例ニ準シテ之ヲ増減變更スヘシ

凡テ犯罪ニ關スル書類ハ一、犯罪ノ人二、犯罪ノ時三、犯罪ノ場所四、犯罪ノ事五、法律ノ理由ト逐次記載スヘシ

（第一項ニ於テハ犯人ノ氏名年齢住所職業及人相等ヲ詳記シテ人違ナキヲ其及情ヲ知ルヲ並ニ法律上加重減輕等ノ摸摸ヲ知ルニ必要ナルヲ以テ之ニ注意スヘシ）

（第二項犯罪ノ年月日時ハ犯罪成立不成立ニ關スルコトアリ加重減輕ニ關スルコトアリ何トナレハ違警罪ノ如キハ晝夜ニ依テ其區別ヲ立テ亦家宅侵入罪ノ如キハ夜中ノ爲メ加重ノ理由トナルモノアハナレリ第三犯罪ノ場所ニ依リ其罪ノ成立スルモノト否ラサルモノアリ則チ市街ニ於テ云々ト規定シタルモノハ市街ノ以外ニ適用セサルカ如シ第四事實及ヒ其理由第五法律ノ事實及ヒ其理由等ヲ附記スルヲ注意スヘシ）

（違警罪現行犯告發狀書例）

告發狀

何府何郡何町何番地 士族何職  
何縣何區何村何番地 平民何職

氏名

年齢

右ハ明治何年何月何日午後何時何十分（以上ハ犯罪ノ日時トス乃チ時ニ依リテ罰スルモノ、如キハ尤モ必要トス且ツ全時本犯ノ他所ニアリタル等ノ反証ヲ拒絕ス）何府何郡何町何番地々先（若クハ何町街角及ルカ爲メナレハ最モ確實ニスヘシ）何縣何區何村何番地ニ依リ犯罪ノ成立不成立ヲ確ムル場ニ於テハ尤モ正確ナラシムヘシ何トナレハ一步ノ差ヲ以テ社會ノ秩序ト被告ノ利不利ト係レハナリ）火藥ヲ運搬スルニ全取締規則第何條ニ掲クル旗章ヲ押立テサリ而シテ其事實ハ意志ノ有無ニ付當然生スヘキ結果ナリシヤ否ヤハ乃チ其理由ニ依リ之ヲ（輕罪以上ニハ犯罪事實ノ次ニ諸般ノ証憑ヲ列擧スルヲ要ス何ト確メサルヘカラス）ナレハ其事實ヲ確ムルモノハ証憑ニ若クモノナケレハナリ亦現行犯ニ限リ罰スル所ノ違警罪告發狀等ノ如）右ハ刑法第四百二十五條第一項ノ規則キモノハ可或現行ト云フ文意ヲ含入スヘシ）右ハ刑法第四百二十五條第一項ノ規則ヲ遵守セシテ火藥其他破烈スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタルモノト（以上ハ法律ト律ヲ解釋セサルヘカラス乃チ本犯ノ運搬シタル物品ハ果シテ本項ノ規定ニ合メル火藥破烈質ノモノナリヤ否ヤ旗章ヲ押立テサルノ事實ハ火藥取締規則ニ違背セシヤ否ヤ本犯之ヲ遵守セサルヘカラス責任アリシヤ否ヤ等ヲ調査シ愈々本犯ハ火藥取締規則ニ違背セシモノナリ而シテ其所爲ハ本項ノ正面ニ當ルモノニシテ且ツ其責任アルノ事實備ハレリ故ニ本項ノ犯人トス若シ此ノ本按）アル規定ニ違背スルヲ以テ茲ニ付疑問ノ生スルキハ此三点ノ理由ヲ確ムルノミ）アル規定ニ違背スルヲ以テ茲ニ及告發候也

追テ本犯住所氏名分明ナラス(逃亡ノ恐アルヲ以テ)引致候也

何府(縣)何警察(分)署在勤

明治何年何月何日

巡查氏名印

何府(縣)何警察(分)署長

警部(補)氏名殿

逮捕告發調書

明治何年何月何日午<sup>前</sup>後何時何警察(分)署在勤巡查何某ハ何府何郡何町何番地<sup>士族</sup>平民何某<sup>強盜</sup>傷人ノ準現行犯トシテ本職ノ面前ニ引致シ左ノ告發ヲ爲シタリ

當職備明治何年何月何日夜持部内何町巡行ノ際其風体怪シ氣ナル一人ノ男本職ヲ撞見スルヤ否故ラニ畏避疾走ノ狀ヲ呈シタルニ付其舉動不審ト認メ呼止メテ其住所氏名及ヒ深夜通行ノ理由ヲ尋問セシニ何町平民何某ニシテ本日何町ノ何某方ニ於テ意外ノ響應ヲ受ケ爲メニ時刻ヲ空過シ只今歸宅ノ途中ナリト應フルモ敢テ酒氣ヲ帶タル體モナク且ツ氣息喘々急迫ノ狀只々ナラス且ツ動モスレハ本職ノ際テ何フニ依

リ一層注意ノ上所持ノ物品ヲ尋問セシニ何々携帯ノ趣依テ一應點檢セント角燈ヲ差付ケタルニ着衣ノ裾ニ血痕ノ附着スルヲ認メタリ是ニ至テ愈々疑念ニ一層ノ重キヲ加ヘ直ニ其事由ヲ詰問セシニ途中ニ於テ誤テ溝渠ニ顛落シ腿脚負傷ノ爲メニ點血セシモノナラント陳述スルモ毫モ着衣ノ泥水等ニ濕浸セシ模様モ無之依テ負傷ノ個所ヲ改ル体ニテ突然懷中ヲ探リタルニ短刀及ヒ紙幣ノ封帶セシモノヲ得タリ依テ犯人ト思料シ右手ヲ緊握シテ其出所ヲ嚴問セシニ一時答辨ニ差支ヘタリシカ終ニ明治何年何月何日ノ夜何町ノ質屋ニ押入り脅迫中家人ノ大聲ヲ發セシニ打驚キ之レニ一刀ヲ切付ケ有合セタル紙幣凡百圓許強取シタル趣自白候ニ付強盜傷人ノ準現行犯人ト思料シ逮捕引致仕候依テ此旨告發スト

右陳述ノ次第ヲ錄取シ之ヲ巡查何某ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ承認セリ依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

何府何警察(分)署ニ於テ  
何縣何警察(分)署長  
警部(補)氏名印  
巡查氏名印  
明治何年何月何日  
百三

司法警察官犯罪ヲ現認シタルキノ檢証調書例

檢証調書

明治何年何月何日部内巡視トシテ出發全日午前(後)何時何町村通行ノ途次鮮血淋漓タル一人ノ男子両手ヲ以テ頭部ヲ押へ本職ノ而前ニ駈ケ來リ只今此家ニ於テ暴客ニ出會シ德利ヲ以テ毆撃セラレ斯ノ如ク負傷シタリト面述スルニ付負傷部ヲ檢査スルニ右額ノ上部ニ於テ斜ニ長サ一寸五分深サ二分幅三分許リノ不正傷ナリ依テ最初本人ノ駈出タル飲食店ニ臨檢セシニ家主某及ヒ雇人某二人ニテ暴客取押へ方ニ必死ヲ極メ居レリ而シテ彼等本職ノ至ルヲ見ルヤ直チニ暴各ノ兩手ヲ緊握シテ其事實ヲ陳供スルニ依リ犯人ハ逮捕ノ上監守セシメ且ツ負傷者ハ手當ノ上直ニ醫員何某ニ參會ノ使ヲ馳セ現場ヲ檢視スルニ火鉢ヲ倒シ灰散布シ實ニ足ノ踏ミ所ヲ知ラス而シテ暴行ノ坐敷ハ全家表入口傍ノ八疊敷ニシテ酒肉散亂ノ間ニ血液ノ點瀉スルヲ見ル坐敷ノ南隅ニ床柱アリ之ヲ二尺許隔テ、德利毀損ノ片飲ケアリ一半ハ血ニ染ミ半面ハ血ニ染マス右實況ニヨリ兇行ノ模様ヲ推測スルニ蓋シ德利ヲ以テ頭部ヲ毆撃スルト全

時ニ掌裏ヲ脱シテ柱ニ劇中シ毀損シタルモノ、如ク認メタリ依テ右物品ハ証憑トシテ差押エ別紙第一號目錄ノ通而シテ毆打ノ原因ハ加害者ト被害者ト飲酒ノ末口論シ終ニ某ハ某ニ對シ德利ヲ以テ毆打シタル際掌中ヲ脱出シテ負傷セシメタリトノ被害者及ヒ証人某ノ申立ニ相違ナキモノト信認ス

右檢証ハ明治何年何月何日午<sup>前</sup>第<sup>何</sup>時ニ着手シ全何時ニ了リ何町飲食店某宅ニ於テ此調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス

何府(縣)何警察(分)署在勤

明治何年何月何日

警部(補)氏名印

立會人

右戶主

氏名印

右隣佑

氏名印

百五

第四十六條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査ハ被告人其ノ家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料シタルトキハ（乃チ潜匿シタリト豫想シタルキニシテ被告人ヲ現認シ直ニ其家宅ニ闖入シテ搜索スルコトヲ得何トナレハ）其地ノ戸長亦タ其ノ差支アル所ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘシ

巡査ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スヘシ

家宅搜索ハ日出前日前後之ヲ爲スヲ得ス（搜索調書ハ正當職權執行シタルノ証ニ事實トス又被告人ヲ目撃シ若クハ戸主ノ承諾アルキハ何時タリトモ家宅搜索ヲ爲スヲ得ヘシ其ノ理由ハ本則解釋上ヨリ又タ應用上ヨリシテ其精神ノ明ナルヲ注意スヘシ）

第四十七條 令狀執行ノ爲メ家宅搜索ニ際シ戸主之ヲ拒ミ止ムコトヲ得サルキハ夜間ヲ除クノ外立會人ノ面前ニ於テ家宅ヲ破毀スルモ差支ナカルヘシ  
令狀執行ハ都テ正當職權ヲ表シテ執行スヘキハ勿論ナリト雖モ爲メニ被告人逃亡等ノ虞アリト思料スルキハ便宜平服ニテ執行スルヲ得ヘシ

罰金ニ該ル被告人及違警罪ノ被告人ニ付テハ家宅搜索スルコトヲ得サルヘシト雖モ其証憑充分ニシテ刑ノ言渡ヲ爲シ上訴期限ヲ經過シ仮ニ確定シタルキハ執行權ヲ以テ家宅搜索ヲ爲スヲ得ヘシ（本項ノ場合ハ刑ノ執行ヲ通レタル被告人ナルヲ以テ其處分ハ總テ行政ニ屬スルモノトス故ニ令狀執行ニ付テハ一々治罪ノ手續ヲ履行セサルモ被告人之ヲ理由トシテ上訴スルヲ得ス否上訴ノ道ナシ只タ不當處分取消ヲ行行政廳ニ請願スルノミ從テ執行ノ權力強盛ナルニ任セ爲ニ人ノ權利ヲ毀損セサル様注意スヘシ）

第四十八條 巡査家宅ヲ搜索スルニ當リ立會ハシムヘキ隣佑及ヒ戸主等不在ノトハ家族ヲ以テ立會人トスルヲ得ヘシ

亦立會人ナキ場合ニ於テ戸主家族之ヲ拒ミタルキハ決シテ家宅搜索ヲ爲スヲ得ス  
第四十九條 家宅搜索ノ調書ハ左例ニ準シテ斟酌スヘシ

家宅搜索調書

何府何郡何町何番地士族何職  
何縣區何村何番地平民何職  
氏名

右者何裁判所豫審判事（檢事）（何府何縣何警察（分）署警部（補）何某ノ發シタル拘引狀拘留



狀收監狀逮捕狀（逃捕狀トハ刑ノ執行ヲ遁レタル既決人ニ對シ行政官乃チ檢事若ク  
 面ニ拘束セラレハキモノニアラス何トナレハ其式ヲ履マサルカ爲メニ被告人名譽  
 ト利益トヲ損害スルノ憂ナク且ツ既決人ニ向テ鄭重ノ式ヲ履マントセハ却テ社會ノ  
 安寧ト利益トヲ保持スルニ困難ナレハナリ又一被告人名譽ノ式ヲ履マントセハ却テ社會ノ  
 コトアリ假令ヘハ既決罪犯者逃亡ノ際獄具等ヲ毀損シテ越獄シタルハ豫審判事ハ  
 之ニ對シテ拘引狀ヲ發スヘシ檢事ハ之ニ對シテ逮捕狀ヲ發スヘキナリ何トナレハ豫  
 審判事ハ獄具ヲ毀損シタル一個ノ犯罪人ヲ取調フルカ爲メニシテ檢事ハ之ヲ逮捕シ  
 テ殘期ノ刑罰ヲ執行セシメンカ爲ナレハナリ故ニ拘引狀執行ニハ飽迄治罪（シ）ヲ執  
 ノ正則ヲ履マサルヘカラスト雖モ逃捕狀執行ニハ簡便ニシテ可ナルヘシ）ヲ執  
 行スルニ際シ被告人自宅ニ（又ハ何某家宅ヘ）潛匿シタリト思料スルヲ以テ月長何某  
 （若シハ隣佑甲乙某）ヲ爲立會何年何月何日午 前 何時ヨリ何時マテ家宅中ニ階及ヒ與  
 ノ間等ノ押入レ長持等ヲ搜索シタルニ見當ラサルヲ以テ更ニ轉シテ物置小屋ニ立入  
 タルニ全小屋炭薪積置キタル間ニ於テ被告人何某ヲ發見シ取押タリ（被告人ヲ發見セ  
 サルルハ種々搜索候得共迷ニ被告人何某ヲ發見セス）依テ其搜索シタル手續ヲ錄取  
 立會人ト共ニ署名捺印ス  
 但出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スルヲ得ス

何府（縣）警察署（分）在勤

年 號 年 月 日

巡 査 氏 名 印  
 立 會 人  
 全 上 氏 名 印  
 氏 名 印

（參照）明治十四年太政官第四十六號布告

治罪法第三百三十三條第三項（則チ犯罪人家）ニ家宅搜索ノ制限有之候得共芝居人寄  
 宅搜索ノ場合

席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日沒後ト雖モ其營業爲メ時間又ハ旅籠  
 屋貸座敷ハ日出前日沒後ニ係ハラズ搜索致シ苦シカラズ

第五十條 司法警察官ハ治罪法第六十八條全第七十二條ノ場合ニ於テ管轄預審  
 判事ヨリ臨檢家宅搜索又ハ証人訊問等ノ囑託ヲ受ケタル時ハ速カニ其處分ヲ決行ス

ヘシ

（參照）明治十四年九月廿日第四十六號布告

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ

當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑訊スルヲ得

治罪法第六十八條預審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得

治罪法第七十二條預審判事ハ証人裁判所々在ノ地ニ住セサルモ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得若シ証人管轄地外ニ在ルモ其住所ノ地ノ預審判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達スヘシ

第五十一條 治罪法第五條ニ依リ重輕罪ノ現行犯ヲ逮捕シ巡査若クハ司法警察官ニ引致シタルモノアルモ左ノ例ニ依テ其調書ヲ作ルヘシ

檢証調書

明治何年何月何日何時何郡區何町村何番地士族平民何某ハ竊盜ノ現行犯人何某ヲ逮捕シ假ニ巡査何某ニ引渡シタル趣ヲ以テ本職面前ニ該被告人ヲ引致シ被害者何某ヨリ別紙第何號ノ告訴狀及ヒ巡査何某ヨリ引致手續書ヲ差出シタリ依テ被告人何某ヲ訊問

セシニ別紙訊問調書ノ通陳供スルヲ以テ拘留狀ヲ發シ尙ホ罪証集取ノ爲メ何日何時午前何時何時何處ニ臨檢シ戸主何某見証人何某ヲ爲立會檢視スルニ被害者邸内東南隅ノ板塀ヲ乘越テ勝手口ヨリ奥坐敷ニ踏入りタル泥鞋ノ乾跡ヲ存セリ依テ見証人ヲ尋問セシニ賊ノ奥坐敷ニ入り屏風ニ懸ケ置キタル衣類何々取外シノ際目覺シ取押エタル趣申立テ右檢証ノ結果ニ依リ推察スルニ被告人何某ハ竊盜罪ヲ犯サントシテ意外ノ障礙ニ依リ其目的ヲ遂ケサルモノニシテ其犯跡明白ナリトス依テ直ニ此調書ヲ作り立會人ニ讀聞セ其確實ヲ証スル爲メ共ニ署名捺名ス

但シ被害ニ係ル物品ハ假ニ何某ニ預ケ其証ヲ徴シテ添付ス  
右檢証ハ明治何年何月何日午前何時ニ着手シ同何時ニ終結シ直ニ此調書ヲ作り立會人ニ讀聞シタルニ相違ナキ旨ヲ申立タリ依テ左ニ署名捺印ス  
但シ出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ捺捺スヲ能ハス

何府何縣何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

立會人氏名印  
立會人氏名印

第五十二條

司法警察官ニ於テ他ノ同官又ハ裁判官ヨリ家宅搜索ノ囑託ヲ受ケタル時  
ハ左ノ書例ニ準シテ其調書ヲ作ルヘシ

囑託家宅搜索調書

官文書偽造ノ被告事件ニ付目下何縣何警察(分)署何裁判所ニ於テ取調中ナル被告人  
某ニ對スル証憑集取ニ付明治何年何月何日附テ以テ何官氏名ヨリ本案被告カ嘗テ潜  
匿シタル部内何郡區何町村何番地何某カ與坐敷ノ書籍函ニ隠藏セリト思料スル偽造  
文書搜索方ノ囑託ニ依リ本職明治何年何月何日該家ニ臨檢シ家主(其住所ニアラサ  
ルキハ全居親屬雇人亦タ其在ラサルキハ所轄ノ戸長)何某ヲ爲立會搜索シタル所左  
ノ如シ

右何某家屋ハ何町中央ニシテ北側ナリ其構造ハ何ヤニシテ南向ナリ間口ハ何間奥行  
ハ何間ニシテ間口ハ往來ニ接シ家中三室ニ別テリ第一室表店ニアリテハ商藥品乃チ

雜貨類陳列スルノミニシテ敢テ書籍箱ノ如キモノヲ見ス第二室ハ勝手坐敷ニシテ食  
器炊具ノ外他ニ見ルヘキモノナク第三室ハ奥坐敷ニシテ其押入ヲ開キタルニ夜具何  
間大小ノ箆筒二個アリ右箆筒ヲ三尺許隔テ、机一脚アリ其傍ヲニ於テ書籍函一個ヲ  
認ム依テ其ノ中ヲ搜索セシニ何々ノ書物ノ間ヨリ偽造文書ト覺シキモノ三通ヲ發見  
セリ依テ押収ノ上別紙目錄ヲ作り之ヲ封緘檢印ス而シテ其時間ハ全日午前何時ニ始  
メ何時ニ終ルヲ以テ其間僅カニ三十分間ナリトス

右檢証ヲ結了ス依テ此調書ヲ作り立會人ト共ニ左ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ押用スルヲ得ス

何府何警察(分)署在勤  
警部(補)氏名印  
立會人氏名印  
全上氏名印

第五十三條

物件差押ヲ爲シタル時ハ左ノ書例ニ準シテ之ヲ記載シ其原本ヲ立會人

ニ交附スヘシ

差押物件目録

一 第一封 何々 何個

一 第二封 着衣 何枚

但何々ノ綿入一枚縞絆一枚何々ノ裕二枚

一 第三封 何々ノ書類 何通

右ハ明治何年何月何日何時何某宅ニ於テ被告人何某カ何々犯罪ノ用ニ供シ又ハ何々シタルモノト思料シ差押フル者也

何縣何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

立會人氏名印

全 上氏名印

一 第四封 脇差 正宗作 壹口

右ハ明治何年何月何日何時何處ニ於テ差押フル者也

何縣何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

立會人氏名印

全 上氏名印

場所書

一 何々

右ハ何々ノ品ニ付逮捕ノ節被差押候段正ニ承知仕候也

年月日

被告人氏名印

立會人氏名印

監檢官氏名殿

囑託訊問調書 官文書偽造ノ事件ニ付何縣何警察(分)署(何裁判所)何官氏名ヨリ明治何年何月何日付

ヲ以テ文書偽造ニ關スル証人何某ニ對シ偽文書寄藏ノ件訊問ノ囑託ニ依リ即日出署  
ノ報告ヲ發シタルニ出頭セシヲ以テ何警察(分)署ニ於テ警部(補)何某ハ左ノ訊問ヲ  
遂ケタリ

問 族籍住所氏名年齢職業ハ

答 何々

問 何月何日頃何町村何某ヨリ偽造文書寄藏シタルヲ受ケタル理由如何  
答 何々

右陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキ旨申立テタリ因テ左ニ署名捺印ス

明治何年何月何日

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

証人氏名印

(治罪法第七十四條ノ場合ニ於ケル全上証人訊問書例)

囑託証人訊問調書

官文書偽造被告事件ニ付何縣何警察(分)署何裁判所何官氏名ヨリ何月何日付ヲ以テ

本按ニ關スル証人何某ニ對シ病院(自宅病蔭)ニ就テ訊問ノ囑託ニ依リ何警察署在勤

何府警部(補)何某ハ明治何年何月何日右何所ニ臨ミ親屬(隣佑)何某ヲ爲立會証人何某

ヲ訊問セシニ左ノ如シ

問 何々

答 何々

問 何々

答 何々

(以上ノ問答ハ前例ヲ參照スヘシ)

右陳述ヲ錄取シ何處ニ於テ此調書ヲ作り讀聞セタルニ其相違ナキ旨ニテ左ニ署名捺  
印ス

但張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ押用スルヲ得ス

何府何警察(分)署在勤

明治何年何月何日

百十八

警部(補)氏名印

証人氏名印

立會人氏名印

(官署外ニテ訊問スル片ハ立會人二人以上ヲ要ス)

第五十五條 他ノ檢證訊問ノ引繼ヲ受ケタルキハ左ノ例ニ準シテ其文端ヲ改ムヘシ

(書例)

前書警部(補)何某ノ檢證中(又ハ取調中)其事件ノ引繼ヲ受ケ何年何月何日午前(後)何時警部(補)何某ハ左ノ訊問又ハ檢證ヲ爲シタリ

### 第五節 銃砲彈藥製造ノ檢證

第五十六條 軍用ノ銃砲彈藥及破烈質ノ物品ヲ私ニ製造シ亦ハ所有シタル犯罪ニ付テハ其製造ト所有トヲ區別シ且使用ノ目的及ヒ原由ヲ審按シ尙ホ左ノ條件ニ依リ檢證スヘシ

一 銃砲ノ洋製和製並ニ其玉目、番號連發數及ヒ挺數

二 彈藥製造並ニ其方法及ヒ其量目

三 破烈質ノ性質及ヒ其製法量數

四 單ニ前三項ノ製造ノ用ニ供シタル器具ノ有無

五 製造又ハ藏匿ノ場所及其年月日

六 職工又ハ雇人ヲ使用シタルヤ否

七 銃砲彈藥並ニ其製造器械等買入又ハ賣捌キタル場所及ヒ其賣入ノ片ノ氏名住所

八 單ニ製造ノミナルヤ否又ハ製造販賣ヲ爲シタルヤ否ヤ

九 犯罪ハ豫備ナリヤ未遂ナリヤ又既遂ニ至リタルヤ否ヤ

### 第六節 往來通信妨害ノ檢證

第五十七條 道路橋梁河渠港埠電信線船車燈臺浮標等妨害ノ犯罪ハ其事務ニ關スル

官吏若シテハ雇人職工ノ所爲ト他人ノ所爲トヲ區別シ左ノ條件ヲ檢證スヘシ

一 道路橋梁河渠港埠ヲ損壞シタル片ハ其所爲一人ニ係ルヤ否ヤ

二 如何ナル器具ヲ以テ損壞シタルヤ否及ヒ其損壞ノ箇所實況

百十九

- 三 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ阻止シタルヤ否ヤ (本項ノ偽計トハ詔之ハ郵便夫ノ通行ヲ認メ偽リテ前路破壊シ又ハ橋梁顛落シテ通行スヘカラス故ニ何々ノ所ヲ迂回セサレハ其目的ノ地ニ達シ難シ杯ト故ラニ作言シテ遲滯乃チ迂路ヲ取ラシメタル如キヲ云ヒ威力トハ脅迫ノ意味ニシテ其人ヲ威トシテ爲スヘキヲ爲サシメス又ハ爲スヘカラサルヲ爲サシメタル精神的ノ作用ヲ抑制シタル所爲ヲ云ヒカトハ暴行ノ意味ニシテ人ノ身軀ニ對シ其自由ヲ拘束シ爲ニ事務ニ遲滯ヲ生セシメタル場合ヲ云フ)
- 四 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ電線ヲ切斷シ電氣ヲシテ不通ナラシメタルヤ否ヤ
- 五 鐵道及ヒ其標識ノ損壞ヲ爲シ以テ瀛車ノ往來ヲ妨害シタルヤ否ヤ
- 六 燈臺浮標及其標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シ爲メニ船舶ノ往來ヲ妨害シタルヤ否ヤ
- 七 前數項ノ所爲ニ付人ノ殺傷アリヤ否ヤ且ツ其犯罪ノ目的ハ豫メ人ヲ殺傷スルコトヲ出テタリヤ否ヤ
- 八 有心故造ニ出テタルカ又ハ疎虞懈怠ニ出テタリヤ
- 九 既遂ナルカ又ハ未遂ナルカ或ハ一面ハ既遂ニシテ一面ハ未遂ナリヤ否ヤ (本項中一) 面既遂トハ人ヲ殺傷スルノ目的ヲ以テ鐵道ニ妨害セシモ殺傷ナキトハ乃チ鐵道ノ所爲ハ既遂ナレトモ人ヲ殺傷セントセシ目的ノ未遂ナルカ如キヲ云フ)

第七節 家宅侵入罪ノ檢証

第五十八條 人ノ住所ヲ侵シタルノ犯罪ハ現ニ人ノ住居シタル邸宅若クハ看守シタル

建築物ノ邸内ニ侵入シタルニアラサレハ其罪成立セサルヲ以テ之レニ注意シ且ツ其時刻及ヒ目的ヲ審按シ左ノ條件ヲ檢証スヘシ

- 一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタルヤ否ヤ
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物件ヲ攜帶シテ入りタル摸樣アリヤ否ヤ
- 三 暴行ヲ爲シテ入りタルヤ否ヤ
- 四 二人以上ニテ入りタルヤ否
- 五 皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタルヤ否ヤ

第八節 封印破毀罪ノ檢証

第五十九條 官ノ封印ヲ破毀シタルノ犯罪ハ特別ニ施シタルモノナルヤ否ヲ區別シ

守者ノ所爲ナルヤ否ヲ審按シ左ノ條件ヲ檢証スヘシ  
一 封印ヲ施シタル物件ノ種類及ヒ品目

- 二 物品ヲ盜取シ又ハ毀損シタルヤ否ヤ
- 三 看守者ノ懈怠ニ因リ前項ノ犯人アルコトヲ覺テサリシヤ否ヤ

### 第九節 貨幣度量衡官私印偽造變造罪ノ檢證

第六十條 貨幣度量衡ヲ偽造變造シタル犯罪ハ其使用シタルヤ否ヲ審按シ尙ホ左ノ條件ヲ取調フヘシ

- 一 如何ナル器械ヲ以テ偽造變造シタルヤ否ヤ及ヒ其器械ノ模様
- 二 偽造亦ハ變造ノ場所及ヒ日時並ニ其犯ノ有無
- 三 貨幣ノ種類員數及ヒ度量衡ノ種類箇數
- 四 着色料及ヒ原料等買入レ又ハ製造ノ場所
- 五 使用シタル場所及ヒ員數
- 六 官私印ヲ偽造盜用シタルノ有無
- 七 職工雇人ニシテ單ニ正犯ノ使令ニ供シ及ヒ其補助トシテ雜役ヲ執リタルヤ否ヤ
- 八 既遂ナリヤ未遂ナリヤ亦タハ豫備ノミニ止マリシヤ否ヤ及ヒ製造日ニ成テ未タ

使用セサルヤ否ヤ

### 第十節 健康罪ノ檢證

第六十一條 健康ヲ害スルノ檢證ハ左ノ區別ニ從ヒ其所爲ヲ審按シ之ヲ檢證スヘシ

- 一 阿片煙ヲ輸入製造販賣ニ付テハ其品目及ヒ量數並ニ吸食ノ器具等ヲ所有シ受寄シタルモノ、區別及ヒ吸烟シタル場所房屋
- 二 飲料ノ淨水ヲ汚穢シ又ハ其水質ヲ變シ腐敗セシメタルヤ否ヤ
- 三 官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シ及ヒ其物品ヲ製造シタルヤ否ヤ

### 第十一節 賭博罪ノ檢證

第六十二條 司法警察官又ハ巡査其職務ヲ行フニ當リ現行ノ賭博罪ヲ認メタルトハ之

際ヲ逮捕シ犯罪ニ關スル現場ノ諸物品ハ何人ノ所有ヲ問ハズ即時之ヲ押收スヘシ

其檢證ヲ爲サントスルハ左ノ事項ヲ取調フヘシ

- 一 財物又ハ之レニ替ヘタルモノヲ醜聚シテ賭博ヲ爲シタルヤ否ヤ



- 二 犯罪ノ用ニ供シタル骰子骰牌及ヒ諸他物品ノ有無
- 三 犯人ノ數及ヒ其緣故ノ關係
- 四 山林原野ニ於テ賭場ヲ開張シタルヤ否ヤ
- 五 賭博ノ情ヲ知テ房屋ヲ貸與シタルモノアルヤ否ヤ

第六十三條 賭博ニ關スル一件書類ハ左ニ準シテ之ヲ作ルヘシ

告發狀

何府何郡何町何番地 士族 平民 何職

氏名

年齡

全上

氏名

年齡

右ハ明治何年何月何日午後十一時頃持部内何町何番地裏通細横町警邏ノ際何々長屋

ノ奥座敷ニ於テ燈火晃々軒先ニ點射シ且ツ數人低聲全時ニ交話ノ跡如何ニモ不審ト認メ戶外ニ立寄り雨戸ノ隙ヨリ家中ヲ透見候處見知ラサル男五人燈火ヲ擁シテ團聚シ其面前ニ多少ノ銅貨及ヒ花札等ヲ散在セリ依テ賭博ノ現行ト認メ手配方勘考中一人ノ男本職ノ家外ニ佇立スルヲ知ラヌシテ突然板戸ヲ押明ケタルニ付直ニ踏込候處彼等本職ヲ見ルヤ否大イニ打驚キ逸出サントスル二人ノ男子ハ其場ニ於テ捕押シタルモ外三人ハ逃走其踪跡ヲ失セリ依テ現場ニ存在セル證據物件ハ不取敢之ヲ押收シ捕押シタル二人ノ住所氏名ヲ取調ヘタルニ前顯ノ通申立タリ依テ證據物件ニ押收目錄ヲ添へ此段及告發候也

明治何年何月何日

何府何警察(分)署在勤

巡查氏名印

何府何警察(分)署

警部(補)氏名殿

賭場物件押收目錄

- 一 花札 五十枚
- 一 金銀代用ノ何々 何箇
- 一 壹貳錢銅貨取混セ 二十五枚
- 一 貳十錢紙幣 五枚
- 一 蠟燭 三本
- 一 番附紙 二枚
- 一 花筵 三枚
- 以上何賭場現存物品
- 一 何品 何箇
- 一 何品 何箇
- 以上何某所持品

右ハ明治何年何月何日午後第十一時何郡何町何村士族平民何某等何人何所ニ於テ賭博ヲ爲シタル際賭場現存ノ物件ナルニ付本人等ノ面前ニ於テ之ヲ押収シ其確實ヲ証スル

爲メ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

明治何年何月何日何所ニ於テ

何府何警察(分)署在勤

巡査氏名印  
 被押人氏名印  
 全上氏名印

訊問調書

明治何年何月何日午前九時何警察(分)署ニ於テ警部(補)何某ハ賭博犯被告事件ニ付何某ニ對シ左ノ訊問ヲ爲シタリ

問 汝ノ氏名年齢身分職業及住所出生ノ地ヲ申立ヨ

答 何々

問 何々

答 何々

右問答ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキヲ申立ツ依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

明治何年何月何日何府縣何警察(分)署ニ於テ

警部(補)氏名印

被告人氏名印

證據品押收調書

何郡町何番地身分職業

何某

右ノ者明治何年何月何日何郡區何町村平民何某ト共ニ自宅ニ於テ賭博ヲ爲シ現行捕押セラレ目下何警察署ニ於テ取調中ノ處當時證據物件ノ内何々何箇ハ賭房ノ疊下(棚上)ニ隱藏シタル旨本人(又ハ共犯人某)申立ニ依リ本日該品押収トシテ本職出張本人(又ハ親戚隣佑某)立會ノ上同所ヲ搜索シタル處疊下(棚上)ヨリ左ノ物品發見セリ

一 骰子

何個

一 骰牌

何枚

以上發見ノ理由ヲ錄取シ且ツ其物品ヲ示シテ之ヲ本人(又ハ親戚某隣佑某)ニ讀聞セタルニ其相違ナキヲ承認セリ依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

明治何年何月何日午後何時某處ニ於テ

何府縣何警察(分)署在勤

警部(補)何某印

本人何某印

親屬隣佑

何某印

第十二節 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘罪ノ檢證

第六十五條 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘シタル檢証ハ左ノ數項ニ準據シテ其取調ヲ爲スヘシ

一 埋葬スヘキ義務者ニシテ其死屍ヲ毀棄シタル否ヤ

- 二 毀棄シタル場所
- 三 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ露ハシタルヤ否ヤ及ヒ之ヲ毀棄シタルヤ
- 四 未遂犯ナルカ既遂犯ナルカノ區別

### 第十三節 兇殺罪ノ檢證

第六十六條 凡ソ兇殺ノ檢證ハ能ク兇害ノ原因結果ヲ考察シ醫員ヲシテ致命ノ原由兇器ノ摸樣及ヒ殺害ノ方法ヲ檢按セシメ若シ解剖セサレハ其致命ノ原由ヲ確認スル能ハサル旨申立ツルハ豫審判事檢事ニ飛報シテ其臨檢ヲ請求スヘシ

此場合ニ於テ檢視官ノ第一ニ取調フヘキ要件ハ左ノ如シ

- 一 謀殺故殺ノ區別及ヒ誤殺ニアラサルヤ否ヤ
- 二 毆打致死ト過失殺トノ區別
- 三 重輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ之ヲ免ル、爲メニ犯セシニアラサルヤ否ヤ
- 四 二人以上ニテ犯セシヤ否ヤ及ヒ他ニ教唆者幫助者等ノ有無

- 五 正當ノ防禦ニ出テシヤ或ハ他人ノ其暴行ヲ誘發シタルニ出テタルヤ否ヤノ區別
- 六 不正ノ所爲ニ由リ自ラ暴行ヲ招キタルヤ否ヤ

第六十七條 前條ノ取調ニ依リ其原由及ヒ結果ノ判然シタルハ左ノ數項ニ依リ其實

況ヲ檢証スヘシ

- 一 死跡ノ狀貌並ニ兇殺ノ方法傷部個所ノ淺深
- 二 死屍ノ近傍ニ散亂遺留スル兇器物件ノ有無
- 三 兇器ノ種類利鈍及ヒ血ニ染ミタルノ形跡アリヤ否ヤ
- 四 被害人先ツ害ヲ被リ去テ他ニ斃レタルノ形跡ノ有無及ヒ血痕足跡ノ有無
- 五 被害者引曳轉送セラレタルヤ否ノ形跡
- 六 身跡ヲ支解折割其他慘刻ノ摸樣アルヤ否ヤ
- 七 詐稱誘道シテ危害ニ陷レタルノ形跡
- 八 毒物殺ニ係ルモノハ其藥劑ノ有無

(前項列擧スル所ノ標準ヲ以テ絶命ノ判定確然タルトキハ死者ノ摸樣ニ付取調フヘキ條件ハ第一、生前ノ舉動第二、見証人ノ無有第三、隣家ト相距ルノ遠近第四、

近隣ノ人ニシテ兇害ノ悲叫等ヲ聞知モサリシヤ否第五、被害ノ抗拒捕門シタルヤ否第六、奔走狼狽セシヤ否ト其事實ニ依リ詳細斷定スルノ材料ヲ集取セサルヘカラス

告發調書

何府郡何町何番地 士族 平民 何職業

氏名

右ハ明治何年何月何日午前何時何警察(分)署ニ出頭シ(又ハ何所出張先へ駈來リ)口頭ヲ以テ告發シテ曰ク私隣家ニ居住スル何某ナル者平常早起ノ性質ニ有之候所今朝午前八時過マテ起出テサルニ依リ不審ト存シ再三呼起シタルニ敢テ答ヘノナキヨリ隣家ノ何某ヲ爲立會表戸ヲ押開カントスルモ内ヨリ緊シク鎖シアルヲ以テ裏口ニ回リ見ルニ雨戸一枚明放シアリタリ因テ家内ニ立入一見スルニ某ハ自宅東南隅六疊敷ノ間ニ敷ケ所ノ刃傷ヲ被リ僵死セリ爲メニ室内鮮血淋漓悲慘ノ狀ヲ極メリ依テ此旨告發スト

右陳述ヲ錄取シ之ヲ告發人何某ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ申立ッ因テ左ニ署名

捺印ス

何府何警察(分)署(又ハ何所派出所)ニ於テ

何府警部(補)氏名印

明治何年何月何日

告發人氏名印

檢證調書

明治何年何月何日何郡何町何某兇殺ニ係ル一件何某ノ告發ニ基キ管轄檢事へ飛報シ本職ハ直ニ巡査何某外四名ヲ率ヒ被害ノ現場へ臨檢シ巡査ヲシテ周圍ヲ監視セシメ且ツ犯人踪跡ノ搜查着手ノ折柄檢事氏名ヨリ本職ニ對シ速ニ檢證處分スヘキノ命ニ依リ同日何時ヨリ戸長何某隣佑何某及ヒ告發人某ヲ爲立會尙ホ檢証中何人ニ限ラズ此場へ出入スルヲ禁ムル旨ヲ告戒シ家内ニ立入り見ルニ其構造三室ニ劃シ第一室ハ十疊敷ノ表店ニシテ諸種ノ商品ヲ陳列セリ第二室ハ四疊敷ノ間ニシテ貳尺ニ一尺ニ寸ノ置爐及ヒ食器炊具等ノ外他ニ見ルモノナシ第三室ハ六疊敷ノ間ニシテ寢室ト覺シク四面鮮血霏乱ノ間ニ頭髮面部血ニ染ミタル年齢三十前後ト覺シキ男子ノ死屍

寢衣ノ儘ニ三尺帯ヲ締メ北方ヲ枕ニシテ左右ノ手腕ヲ半曲シ兩足ヲ伸シテ臥床四上ニ仰臥セリ依テ其傷部ヲ検査スルニ頸部ニ二ヶ所頭部ニ三ヶ所ノ及傷ヲ被リ其創ヲ熟閱スルニ別ニ兇器ト認ムルモノ、遺留スルモノナシ最モ兇行者カ侵入シタル入口ノ椽端ノ傍ニ於テ青地ニ白シ若者連ト染抜キタル新シキ手拭一筋ヲ九ニ大ト朱紋ヲ書シタル提灯壹張ヲ發見ス依テ事實發見ニ必要ノモノト認メ押収セリ時ニ呼出タル醫員何某ノ參會ニ付直ニ檢按テ命シタルニ後頭部及傷長サ一寸幅一分深サ一寸二分右方頭部及傷長一寸五分巾二分深サ頭蓋顱骨ニ達シ其他頸部及傷云々孰レモ重傷ニシテ其一アレハ致命ノ原因ヲ爲スニ足レリ而シテ何ノ部ニ個ノ重傷ハ普通ノ刀傷ナレモ前額ノ部及ヒ頸部ハ西洋庖丁ノ如キ兩端ニ及テ付ケタルモノ、傷痕ナリ且ツ被兇人ノ絶命ハ大抵負傷即時ナルヘシ其時間ハ今曉三時乃至五時頃ナルヘシト依テ檢案ノ始末ヲ書シテ本職ニ呈出セシメ此調書ニ添付セリ

室内ノ諸物品ニ付テハ別ニ異狀ナシ依テ家外ノ裏口ヲ取調ヘタルニ南隣境界ノ垣根ヲ押破リ庭中ニ迂迴シ入タル下駄ノ履跡アリ又々兩戸口ヨリ逃出シタリト覺シキ足

痕アリ依テ篤ト之ヲ檢スルニ行兇者ハ始メ下駄穿ニテ來リ兩戸ヲコチ明ケ家内ヘ忍入り殺害ノ目的遂ケタルヲ以テ下駄ヲ携ヘ素足ニテ逃走リタルモノ、如シ依テ行兇者ハ一人ト思料セリ次ニ隣佑某ノ女今曉怪シキ者ヲ撞見シタリトノ申立ニヨリ呼出シ訊問スルニ其陳述ノ概略ニハ本日ノ明ケ方圓ニ行カントシテ裏口ヲ明ケタル際其人相ハ暗黒ニシテ辨知セサルモ黒ノ半天ヲ着タル斬髮ノ男子一人何某方ノ裏口ヨリ兩手ニ棒ノ如キモノト下駄ノ如キモノヲ持チ急ニ裏ノ方ヘ駈出シタルヲ見タリ依テ頗ル恐怖ヲ覺ヘ戸ヲ鎖シテ天明ヲ待タリシニ料ラサリキ此兇變ニ接セントハ亦何番地隣佑某ノ陳述ニヨレハ某ノ兇害セラレタル發見フ次第ハ告發ヲ通ニテ同人儀ハ本年三十一年ニシテ常ニ小間物ノ行商ヲ營ミ最モ獨身ニシテ頗ル辛抱人ノ聞ユアリシヲ以テ他ヨリ怨恨ヲ招クカ如キ舉動モナカリシ故其殺害ノ原由ヲ知ルニ苦シム

右處分ナ了シ現場ニ於テ押収シタル提灯一張手拭一筋ハ紙包ミト爲シ之ヲ封印シ現場ノ實況ヲ圖ニシテ犯人捜査ノ手懸リト爲ス

以上ノ檢証ハ明治何年何月何日午前幾時ニ着手シ全何時ニ終リ直ニ此証書ヲ作  
リテ其確實ヲ証スル爲メ立會人ト共ニ署名捺印ス  
但出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スル能ハス

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

立會人

何町戸張氏名印

何町村何番地

氏名印

氏名印

死體檢査書

何府何郡何町何番地士族平民何職

氏名

年齢

右兇殺ノ件ニ付明治何年何月何日何處ニ於テ傷部檢案ヲ被命全日何時檢査スルニ屍  
體ハ皮膚蒼白顔面稍ヤ黃色ヲ帶ヒ頭ノ有髮部上額ニ長サ何寸幅何分深サ何寸ノ切創  
及ヒ何々頸部云々シテ其他身體ニ創傷ナク眼ヲ半閉シ瞳孔強ク散大シ口哆開シテ舌  
ハ牙床ノ后部ニ退キ口腔ニ異物ヲ含マス下顎ハ動運シ難ク其容貌ハ憤怒ノ色ヲ帶フ  
喉頭ノ下部ニ一ノ横創アリ其長サ一寸ニシテ右方起始部ハ稍ヤ尖銳ノ卵圓形ヲ爲シ  
幅徑二分ヲ有ス此部ヨリ左方ニ進ムニ隨ヒ漸次ニ其幅徑ヲ増シ中央部ニ至テ三分五  
厘トナリ左方ニ至リテハ更ニ幅徑ヲ減シテ二分トナリ復々圓形ヲ爲シテ終ル創縁ハ  
稍ヤ膨脹シ内方ニ曲屈シテ齒牙狀ヲ爲シ下縁ハ潮紅上縁ハ暗赤色ヲ爲シテ稍ヤ乾燥  
シ創底ハ暗赤色ノ流動血ヲ充盈ス下腹部ハ稍ヤ膨脹シ四肢ハ諸關節悉ク硬直シ背部  
ニハ帶青紅色ノ死斑アリ胸ノ側面腹部上腿兩膝及ヒ其前膊ニ乾燥セル血痕ヲ止メ何  
々兩手ノ拇指ハ内方ニ屈シ諸指ハ悉ク屈曲シテ全ク硬固セリ此外体中ニ於テ毫モ損  
傷ナシ又防禦ニ原ツク痕跡ヲ認メス而シテ其致命ノ因由ト認ムルモノハ生前頸部ニ

於テ危篤ノ重傷ヲ被リタルニヨル而シテ此創傷ハ某ノ身体ノ性質ニ於ケルモ亦各人ニ於ケルモ共ニ致命スヘキ創傷トス又此創傷ハ兩及ノ小刀ニテ切懸ケタルモノト認定ス

以上ノ徵候ニ依リ推測スルニ某ハ銳利ナル刀劔ヲ以テ切害セラレシ爲メニ死亡シタルモノト檢案候也

何府何郡區何町何番地

年號年月日

醫師氏名印

出張官氏名殿

### 第十四節 兇傷罪ノ檢証

第六十八條 兇傷ノ檢証ハ其犯者ノ目的兇殺セントシテ意外ノ障礙舛錯ニ依リ遂ケザリシヤ否ヤヲ鑑別シ醫員ヲシテ直ニ其創傷治療ニ着手セシムヘシ  
此ノ場合ニ於テ被害者已ニ治療ヲ爲シタルハハ縛帶膏藥等ヲ披カシムヘキモ縫ヒタルハ可成裁割セサルヲ要ス

第六十九條 兇傷ノ檢証ニ付取調フヘキ要項左ノ如シ

- 一 負傷者ノ傷創ノ輕重及ヒ淺深
- 二 其証人ノ有無
- 三 兇傷ノ方法及ヒ兇器其他ノ物件散乱毀壞シアルヤ否ヤノ模様
- 四 兇器ノ利鈍且ツ血液ニ染シタルヤ否ヤ
- 五 血痕足跡ノ有無
- 六 被害人抗拒力闘シタルヤ否ヤ及ヒ周章狼狽セシ模様
- 七 目ヲ瞎シ耳ヲ聾シタルヤ否ヤ
- 八 四肢ヲ折リ舌ヲ斷チタルヤ否ヤ
- 九 陰陽具ヲ毀敗シタルヤ否ヤ
- 十 知覺精神ヲ喪失セシメタルヤ否ヤ
- 十一 癡篤疾ニ致シタルヤ否ヤ及殘廢シタルヤ否ヤ
- 十二 二十日以上ノ疾病休業ニ至ルヤ否ヤノ區別



十三 健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シ疾苦セシメタルヤ否ヤ

十四 疾病休業ニ至ラサリシヤ否ヤ

(本項ニ付テハ前節兇殺ノ部ヲ参照スヘシ且ツ負傷者ノ親屬等ニ引渡シ全瘡ノ上届出ツヘキヲ達シ受書ヲ徵スヘシ加害者即時縛ニ就カサルハ其兇人ノ面貌骨格衣服其他行兇ノ器具ヲ尋問シ口供ヒシメ書面ヲ徵スヘシ行兇人ト面識アル者ハ其本籍見分現任所及ヒ舊營ノ有無等ヲ取調フヘシ)

第十五節 自殺傷罪ノ檢証

第七十條 自殺又ハ自傷シタル者ノ檢証ハ本則第十一節以下殺傷檢證ノ條項ヲ參酌ス

ヘシト雖モ尚ホ自殺ノ原由ヲ觀察シ且ツ其遺書アレハ生前ノ手記ト參照シテ其眞偽ヲ判明シ左ノ條件ヲ取調フヘシ

- 一 自殺ノ用ニ供シタル物件及ヒ其出所
- 二 死躰ノ狀貌及ヒ生前ノ舉動
- 三 教唆者ノ有無
- 四 死者ノ囑託ニ依リ手ヲ下シ及ヒ補助ヲ爲シタルモノノ有無

第十六節 強姦罪ノ檢証

第七十一條 強姦罪ノ檢証ハ強盜ノ所爲ト否トヲ鑑別シ左ノ事項ヲ檢証スヘシ

- 一 十二歳未満ノ婦女ヲ強姦シタルヤ否ヤ
- 二 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神錯亂セシメテ姦淫シタルヤ否ヤ
- 三 姦淫ノ爲メ人ヲ毆打創傷シタルヤ否ヤ

(本項ノ兇蹟ヲ取調ヘントセハ婦女ノ身體ニ跌仆摺傷ノ有無衣服ノ破綻泥土ノ痕及ヒ襯衣等ニ附着スル汚點等ナリ)

第十七節 強盜罪ノ檢証

第七十六條 強盜ノ檢証ハ被奪物件及ヒ其摸樣ヲ審問シ左ノ事項ヲ取調フヘシ

但殺傷ニ係ルハ本則第十三節以下ノ各條ヲ參酌スヘシ

- 一 二人以上ニテ犯シタルヤ否ヤ
  - 二 兇器ヲ携帯シタルヤ否ヤ及ヒ其種類
  - 三 人ヲ殺傷シ又ハ婦女ヲ強姦シタルヤ否ヤ
  - 四 贓物取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタルヤ否ヤ
- (本項犯人ノ摸樣ニ付テ取調フヘキ件ハ人相ヲ知ルヲ得タリシヤ否ヤ及ヒ面部等ヲ包ミタルヤ否ヤ及ヒ被害者ヲ縛セシヤ否ヤ)

五 藝酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメタルヤ否ヤ

第一號

告訴調書

何府何郡何村何番地 士族 何職業  
何縣何區何村何番地 平民 何職業

氏名

右強盜及ヒ人傷ニ係ル事件ニ付年月日時被害者何村何番地何某ノ代理トノ當警察(分)署ニ出頭シ本職面前ニ於テ左ノ告訴ヲ爲シタリ

明治何年何月何日午後第十時頃家内一同就寢致候處同夜十二時頃トモ覺シキ時分表坐敷ノ方ニ於テ聞キ馴レサル聲音ニテ靜ニ可致トノ言葉ニ目覺マシタル折柄面部ヲ黑頭巾ニテ包ミ拔刀ヲ携ヘタル男一人私枕元ニ來リ有金可差出行脅迫中家人某強盜アリトノ大聲ヲ發シタルニ打驚キ逃出サントセシニ依リ家主某突然組付タルヨリ終リ二刀マテ創傷セラレタリ然レモ敢テ屈セス抗闘中近隣ノモノ駆付賊ハ直ニ取押ヘタリ依テ此段告訴スト

右陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ申立タリ依テ本項ト共ニ左ニ署ノ捺印ス

何府何警察(分)署ニ於テ

警部(補)氏名印

告訴人氏名印

檢證調書

明治何年何月何日午後何時何府何郡何村何番地 士族 何某ハ強盜傷人ノ事件ニ付何警察(分)署ニ出頭シ本職面前ニ於テ第一號調書之通告訴シタルヲ以テ即時醫員何某ニ參會ノ報告ヲ發シ本職ハ直チニ被害ノ現場タル何郡何村何番地ニ臨檢シ先ツ其邸内及ヒ家宅構造ノ模様ヲ視察スルニ表間口ハ何町ノ街路ニ接シ邸内南隣ノ境界ニ傍ツテ園庭アリ園庭ノ横ニ臨ミテ玄關アリ玄關ヲ遣入レハ左ハ六疊敷ノ茶ノ間ニシテ右ハ勝手口ナリ茶ノ間ヨリ左ニ一室ヲ隔ツルモノハ該家八疊ノ與坐敷ニシテ是ニ立人リタルニ隣佑何某家族某等逮捕シタル兇行者某ヲ監守セリ依テ被告人ノ面前ニ於テ

隣佑某家族某ヲ爲立會檢視スルニ家主某ハ奥ノ間ニ布團ヲ敷テ打臥ナカラ止血法ヲ施行セシ模様ニテ金巾ヲ以テ頭部ヲ纏絡シ今ヤ殆ント人事不省ノ域ニ陥リタルモノ、コトシ依テ其四面ヲ検査スルニ襖壁障子等所々血點ノ痕ヲ留メ火鉢ランプ顛倒シテ滿坐石油ノ臭紛々タリ夫ヨリ燈ヲ點シテ邸内ヲ改メタルニ賊ハ表門ノ階塀ヲ乘躰ヘ中庭ノ門戸ヲ押開キ尋テ勝手口ニ回り豫テ卸シアリタル戸締ノ錠ヲ捻切り押入リタルモノ、如ク漸次茶ノ間ヨリ奥ニ向フテ泥鞋ノ足跡ヲ留ム勝手口ノ下ヨリ長サ一尺ニ丸サ八分ノ鉄ノ丸棒一本ヲ發見シタリ蓋シ賊ノ戸ヲ押開クカ爲メニ使用シタルモノト認メ証據物トシテ之ヲ押収ス時ニ醫員何某到着ニ付各自立會ノ上某、傷所ヲ檢按セシメタルニ頭部ニ於テ長サ何寸巾何分深サ何分ノ斜切傷一ヶ所ナリ依リテ別紙人体圖ヲ作り其實際ヲ明記ス

一 傷部二ヶ所 何々

但シ頭部一ヶ所前額眉上部一ヶ所

醫員ノ檢案ハ第二號ノ如ク之ヲ書記セシメ差出シメタリ右檢按ニヨレハ某ハ廿日以

上經過セサレハ全治セサル趣ニテ創傷ハ総テ銳利ノ刀ヲ以テ切付タルモノナルヲ承認セリ右醫員ノ檢按ト創傷ニ依テ思料スルニ某ハ二回切付ケラレタルモ創傷淺キカ故ニ致命傷トナラサルモノト認タリ依テ行兇ノ模様ヲ檢スルニ兇行者ハ始メ勝手口ヨリ押入り茶ノ間ニ至リ家族某ヲ脅迫中突然家主ノ刎起ルヲ認メ爲メニ之ヲ遮ラントシテ立向ヒタル折柄大聲ヲ發セラレタルニ狼狽シ兇害ノ上逃亡セントシテ切付ケタル處終ニ近隣人ノ圍ム所トナリ取押ラレタルモノト確認ス以上ノ模様ハ別紙コ略圖ヲ作りテ之ヲ証明セリ尋テ被害人及ヒ見証人ヲ訊問シタルニ第三号乃至第五号調書ノ通陳述セリ又差押ヘタル証據物件ハ第六号目錄ノ通鉄ノ丸棒壹本壹封犯罪ノ用ニ供シタル刀壹本壹封トシテ此調書ニ添付ス且ツ被告人ニ屬スル訊問調書ハ第七号ノ通ナリ以上現場ノ實況ト被害者被告人トノ關係ニ付テ之ヲ推測スルニ被告某ハ強盜ヲ爲サントシテ押入り家族某ニ大聲ヲ發セラレタルカ爲メ負傷セシメタルモノト信認ス

右檢證ハ明治何年何月何日午(前)後何時何十分ニ着手シ全日何時何十分ニ終リ直ニ

此調書ヲ作り其確實ヲ証スル爲メ本職立會人ト共ニ署名捺印ス  
但出張先ニ付官署ノ印ヲ押捺スルヲ能ハス

何(府)縣(何)警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

被告人氏名印

立會人氏名印

全 上氏名印

檢案書

何(府)縣(何)郡(區)何(町)村(何)番地(士族)平民(何)職

氏 名

年 齡

右被傷ノ事件ニ付明治何年何月何日何所ニ於テ傷部檢按ヲ被命全日被傷人ノ傷所ヲ  
檢スルニ頭部ニ於ケル傷創ニシテ其現狀ハ左ノ如シ

一 頭部頂心ニ於テ長サ一寸二分幅一分深サ三分ノ斜傷ニシテ創線銳正ナリ創内ヲ  
檢スルニ頭蓋顛骨ノ骨膜ハ全ク剝離セスト雖モ骨質ハ縱形或ハ斜形ニ微創シ切

先ハ何骨ノ中央ニ達スルモノトス

一 前面額部ノ斜創ハ長サ何寸幅何分深サ何分ニシテ創線ハ何々創内ヲ檢スルニ何

々ノ狀ヲ顯セリ右創傷ノ外右手肘部ノ右足腿部ニ各々剝皮傷アリ

右患部ノ現症ニヨリハ癩疾ニ至ラサルモ廿日以内ニハ全治セサルモノト診斷シ

手術ヲ施ス云々

右檢案ノ通相違無之候也

何(郡)區(何)町(村)何番地

醫師 氏名 印

明治何年何月何日

(檢 視 官) 氏 名 殿

第四號

被傷者調書(氏名年齢等問答ノ書式ハ訊問調書ニ倣)  
フモ又本按ノ如ク書スルモ適宜ナリ

明治何年何月何日午(前)後何時強盜被傷ノ事件ニ付犯罪ノ現場ニ於テ何警察(分)署在  
勤警部(補)氏名ハ被傷人某ニ對シ其顛末ヲ尋問スルニ左ノ通申立タリ

一 傷所ハ頭部及前額眉上際

何府何郡何町何番地 士族  
何縣何區何村何番地 平民 何職業

各一ヶ所

氏名

年 齡

明治何年何月何日午(前)後何時頃白刃ヲ携帶シタル一人ノ強盜突然押入來リ靜ニ可  
致若シ聲立候ハ、切殺ヘソ旨申威シ私及ヒ雇人某ヲ縛シ老母某ニ對シ金百圓可差出旨  
押問答中雇人某カ強盜アリト疾呼シタルヨリ被打驚キ様携ヘタル拔刀ヲ以テ某ニ切  
懸ケ候處白刃ノ下ヲ潜リ逃出シタルニ由リ直ニ私ニ切懸候折柄戒繩相解ケ候ヲ以テ  
賊ニ組付揉合中近隣ノ人々多勢救援トシテ參ラレ賊ヲ取押ヘタル次第ニ候且ツ負傷  
ノハ頭書ノ如クニシテ敢テ性命ニハ關係無之候依テ被傷ノ實況此段申立候也  
右被害者何某ノ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキ旨申立タリ依テ立會人共々  
左ニ署名捺印ス

但シ出張先ニ付官署ノ印ヲ用ユル能ハム

何府何郡何町何番地出張先ニ於テ  
何縣何區何村

明治何年何月何日

何(府)縣(警部)補氏名印

被 告 人 氏 名 印

立 會 人 氏 名 印

立 會 人 氏 名 印

第五號

証人訊問調書(全上)

明 何 何月何日午(前)後何時何處ニ於テ何警察(分)署在勤警部(補)何某ハ強盜傷人  
事件ニ付証人何某ニ對シ其顛末訊問シタル處左ノ通り陳述セリ

何府何郡何町何番地 士族  
何縣何區何村何番地 平民 何職業

氏 名

年 齡

明治何年何月何日午(前)後何時頃隣佑何某方ニ於テ強盜アリト疾呼シタルニ目覺シ  
刎起直ニ應援トシテ右何某方ヘ駈付見受クルニ戸主何某盜賊ト思シキ一人ノ男ト力  
闘最中ニ付飛入ヤ否ヤ兇徒ノ携持スル白刃ヲ奪ヘ右手ヲ捻シリタルニ渠ノ氣息衰ヒ  
力弱リテ終ニ縛ニ就キタル次第ニ御座候

右陳述ヲ録取シ之ヲ立會人ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ニテ左ニ署名捺印ス

但出張先ニ付官署ノ印ヲ捺用スルヲ能ハス

明治何年何月何日

何(府)縣警部補氏名印

証人氏名印

立會人氏名印

全上氏名印

訊問調書

明治何年何月何日午(前)後何時頃警察(分)署在勤警部(補)何某ハ強盜傷人ノ被告人氏名  
ニ對シ左ノ訊問ヲ爲シタリ

問 汝ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ申立ヨ

答 何々

問 是マテ重輕罪ノ爲メ處刑セラレシ事ハナキカ

答 何々

問 汝ハ全夜乃チ明治何年何月何日午(前)後何時頃何(町)村何某家宅へ侵入シ金品

ヲ強奪セントシテ何某ニ負傷セシメタル事實有体申立ヨ

答 今嘗當家ニ押入り金品ヲ強奪セントシテ白刃ヲ閃シ家人ヲ脅迫致候折柄家人某

ノ強盜アリト疾呼シタルニ打驚キ直ニ切懸ケ候處彼レ刀下ヲ潜リテ逃出シタル

ニヨリ續テ逃出サントセシ際家主某ノ縛繩打解ケ突然拙者へ組付キ白刃ヲ振キ

取ラントセシヨリ已ムヲ得ス頭部一ヶ所頭部一ヶ所ニ切懸ケタルモ敢テヒルヤ

ス力門中近隣ノ人々多勢駈來リ終ニ逮捕セラレタル次第ニ有之候

問 家主何某ヲ負傷セシメタルハ豫メ謀リタル事カ

答 白刃ヲ携帶シタルハ強盜ノ方法即チ威嚇脅迫ノ用ニ供シタルモノニ之ヲ以テ

家主某ヲ負傷セシメタルハ全ク家人ノ疾呼ニ打驚キ狼狽ノ極遁走ニ術ナシ已ム  
ヲ得ス切付ケタル譯ニ有之候

問 如何ナル兇器ヲ以テ負傷セシメタルヤ

答 即チ御差押ニ相成タル正宗ノ作二尺二寸ノ銳刀ニテ鎚リ何々鏝元何々ノ飾付ケ  
アル品ニ有之候

問 此太刀カ(此時太刀ヲ示ス之レ被告人ヲシテ弁解セシムル爲ナリ)

答 左様デアリマス

問 此太刀ハ汝ノ所有品カ又ハ他人ノ物カ

答 明治何年何月何日夜何(郡(區)何(町)村(何番地)何某方)又ハ何々ノ家號ノ家ニ忍  
入竊取シタル太刀二口ノ内一振ニ有之候

問 今一振ノ太刀ハ如何

答 何々山林ノ稻荷神社ノ椽下ニ隠シ置キ候

右陳述ヲ錄取シ之ヲ被告人ニ讀聞セタルニ其相違ナキ旨申立タリ因テ本官ト共ニ左

ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ用フル能ハス

何府何郡何町何番地何某方ニ於テ  
何縣何區何村

明治何年何月何日

警部(補)氏名印  
被告人氏名印  
立會人氏名印  
全上氏名印

第六號 証人訊問調書

明治何年何月何日午前(後)何時何警察(分)署在勤警部補(氏名)ハ強盜傷人ノ被告事件  
付何某ヲ其証人トシテ呼出シ訊問シタルニ左ノ通陳述ス

何府何郡何町何番地士族何職業  
何縣何區何村平民何職業  
氏名 年齢

私方先代ヨリ相傳ハリ候正宗ノ太刀一口及ヒ備前長船ノ脇差一本居宅奥坐敷ノ箆笥ノ中ニ仕舞置候處本月何日ノ朝目覺シ起出テタルニ偶々箆笥ノ抽出明放シ有之ニ不審ト存シ家内中相改候處勝手口ノ締棒取外シ其他泥鞋ノ足跡等點檢致候ニ付盜賊ノ所爲ト存シ篤ト取調ヘタルニ右兩品及衣類何點竊取セラレ其趣已ニ御届濟ニ相成居候

問 其ノ太刀ノ長サ何尺及其飾リ付ハ如何

答 二尺二寸ニシテ鑑ハ何々鏝元ハ何々

問 備前長船ノ脇差ノ寸尺天及飾リ付ハ如何

答 一尺六寸ニシテ飾付ハ何々

問 右正宗作ノ太刀ハ見覺アリヤ

答 見覺アリマス

問 汝カ所持ノ太刀ナリヤ否見定ムヘシ(此ノ件太刀ヲ証人ニ示ス)

答 何月何日ノ夜盜難ニ罹リタル品ニ相違無之候

右証人何某ノ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキ旨ヲ申立ツ依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

但出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ押用スルヲ能ハス

明治何年何月何日

何(府)縣(警部)何(氏)名 印  
証 人 氏 名 印  
立 會 人 氏 名 印  
全 上 氏 名 印

第七十二條 現場ニ於テ被告人ノ所持品ヲ檢査シ左記ノ書倒ニ依リ其目錄ヲ作り一件書類ニ添付スヘシ

所持品目錄

何縣何郡(區)何町(村)身分職業

何 某

一 衣類 何々 何枚



一 所持品何々 何品  
一 貨紙幣何々 何枚  
右何某所持品前記ノ通相違無之候也

右

何 某 印

隣佑又ハ親族

立會人何某印

贓品押收調書

明治何年何月何日何警察(分)署在勤警部(補)氏名ハ強盜傷人犯何某カ嘗テ何町(村)何某方ヨリ竊取シタル脇差一本押收ノ爲メ被告人何某ヲ巡查何某ニ押送セシメ本職俱々何郡區(何町)村何番地内何々ノ深林ニアル稻荷神社ノ椽下ヨリ發見シ現場ニ於テ之レヲ差押エヌリ

右物件ハ竊盜及ヒ強盜ニ係ル証據物件ナルヲ以テ前ニ犯所ニ於テ押收シタル物件ト

共ニ何包ニ封印シ目錄ニ記載シ其相違ナキヲ証スル爲メ被告人及ヒ立會人ト共ニ署名捺印ス

第壹 封印付

何々

第二 封印付

何々

第三 封印付

何々

右之通

何 府 何 警察(分)署在勤

明治何年何月何日

警部(補)氏名印

巡查氏名印

被告人氏名印

告發狀

何 府 何 郡 何 町 何 番 地

何

某 年 齡

士族 職業 平民

右ハ竊盜ノ犯罪ニ依リ明治何年何月何日何輕罪裁判所ニ於テ重禁錮何ヶ月監視何ヶ月處セラレ何月何日滿期放免後自宅ニ於テ監視執行中ノ處何月何日何町何家ニ於テ何町村何某外何人ト飲酒セシハ刑法第百五十五條ニ違背スルヲ以テ此段及告發候也

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

明治何年何月何日

何裁判所檢事氏名殿

搜查復命書

何府何郡何町何番地士族何職

何某

年齡

右者明治何年何月何日午後十二時頃部内何町何番地何某方へ抜刀ヲ携ヘテ強盜ニ押入り家主某ニ負傷セシメタル際近隣ノ者多勢駈付即時其場ニ於テ取押ヘラレ目下訊

問中ノ處其申立ニ曖昧ノ廉有之趣ヲ以テ身元並ニ平素ノ舉動等搜查スヘキノ旨ヲ奉

シ何月何日午前(後)何時本犯カ居住ノ何町(村)ニ至リ近隣ノ者ニ就キ篤ト其摸樣ヲ探

偵スルニ左ノ如シ(編者嘗テ文題考究ノ順序及起手ノ用意ニ付或ル先輩ニ聞ケルヲ

所ニ意ヲ注キ以テ其端ヲ啓クニアリト今此書ニ付少シク其順序ヲ試ミ正否ヲ大方ニ質サントス)

本犯何某ハ本會ノ山中ニ居住セル樵夫某ノ子ナリ人トナリ其性殘忍ニシニ眼光電ノ

如ク頭髮蓬ノ如ク一見シテ兇暴ノ狀面上ニ溢ル常ニ閭里ノ群童ヲ叱咤シテ惡鬼視セ

ラレ亦脅カアルニ慢シテ古昔魁賊ノ異粧ヲ擬シ自ラ其氣膽ヲ比スルニ至ル(以上ハ

チ惡人ノ正面ニシテ其ノ心情ト)幼ニシテ郷校ニ入り教師之ニ授クルニ修身ノ科ヲ

以テス然レモ敢テ其業ヲ勉メス日々惡戯ヲ事トシ其風他生ニ波及シ教育上默止難キ

趣ヲ以テ退校ヲ命セラレ後或ル工業家ノ弟子トナリ二年ニシテ其家ヲ去リ漂泊中酒

色ノ群ニ入り其性日々驕傲ニ化シ去リ無賴ノ徒ト相往來シテ善カラヌヲノミニ沈醉

シ人ノ擯斥スル所トナリ(以上ハ本犯乃チ惡人ノ左旁面ニシテ其爲ス所未タ他人ニ

客年何月中賭博ノ失敗ヨリ何所ニ於テ何某ヲ脅喝シ金員ヲ詐取シタル趣ヲ以テ何警

察署ノ手ニ於テ逮捕セラレ何裁判所ニ於テ審問ノ上重禁錮何ケ月監視何ケ月ニ處セラレ(以上ハ本犯乃チ悪人ノ對面ニシテ其行狀ノ不良ナル結果カ他)本年何月滿期放免後自宅ニ於テ監視執行中ナルニモ係ハラヌ常ニ兇漢無頼ノ徒ト交通シテ其頭領トナリ郷里ノ子弟ヲ煽動シテ紛擾ヲ醸成セシメ其機ニ乘シテ惡計ヲ功ミ又ハ押借リ強談等ヲ爲シテ金員ヲ貪リ以テ酒色ノ費ニ消ス其家ニアルヤ其母ニ對シ不孝ヲ重ネ妻子ヲ非道ニシ亦々人ノ善事ヲ妨シ(以上ハ本犯乃チ悪人ノ右旁面ニシテ其行爲他ニニア)近親爲メニ之ヲ悲シミ郷党之ヲ視ルコト蛇蝎ノ如ク父老相唱道ノ同郷未曾有ノ惡徒ト爲シ能坂長範石川五右衛門ノ再生ニアラサルカ云ヒテ各自舌ヲ卷クニ至リシカ今回ノ事件起ルニ及ヒテ始メテ積惡發露ノ端トナリ其事實何々(以上ハ本犯乃チ面ニシテ他ニ干渉スルモノナリ)惡人ノ現在ノ對

右探偵ヲ遂ケ何月何日午前(後)第何時歸署仕候依テ此段及復命候也

何府(縣)何警察(分)署在勤

明治何年何月何日

巡 査 氏 名 印

何 警 察 (分) 署 長

警 部 (補) 氏 名 殿

意 見 書 (犯情正確ニシテ別ニ意見ヲ添申スル必要ナシト認ムルハ之ヲ付スルニ及ハサルヘシ)

何府(縣)何郡(區)何村(町)何番地 平民何職

氏 名

右者明治何年何月何日午前(後)何時何町(村)何某方へ拔刀ヲ携へテ強盜ニ押入り家主某ヲ劍傷シタル事實ハ檢証調書ニ詳記シタル如ク相違ナキモノトス抑モ本犯ハ嘗テ詐欺取財ノ罪ニ依リ何裁判所ニ於テ審問ノ末重禁錮何ケ月罰金何圓監視何ケ月ニ處セラレ滿期放免後監守執行中ノ身分ヲモ顧ミズ種々不良ノ計策ヲ以テ金品ヲ貪リ其極終ニ強盜ヲ働キ人ヲ劍傷スルニ至リテハ天人共ニ容レサル兇徒ト云ハサルヲ得ス尙ホ其行狀ハ別紙巡査何某カ搜查復命ノ通りニシテ其情狀最モ重キモノト認メ候ニ付嚴罰相成度候

亦何町何某ハ本案ノ証人トシテ訊問スヘキ處他出(旅行)ニ付歸宅次第家族ノ者ヨリ

申出テヘキ筈ニ候間右事件証明ニ付テハ最モ必要ナリト思料候條呼出ノ上御取調相成度候

右何某ハ何々ノ証憑ニ依リ其罪質及ヒ方法ヲ推及スルニ被告ハ強盜ヲ爲シ並ニ人ヲ創傷セシメタルノ犯跡明了ナリトス然レモ尙ホ何々ノ豫審ヲ盡サレシコトヲ希望シ(又ハ直ニ公判ニ附シ可然モノト思料シ)治罪法第二百五條等ニ項ノ規定ニ依リ茲ニ鄙見ヲ具陳候也

何府何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印

明治何年何月何日

何輕罪裁判所

檢事氏名殿

### 第十八節 竊盜罪ノ檢證

第七十四條 竊盜ノ檢證ハ強盜ノ檢證ヲ參照シ猶ホ左ノ事項ヲ取調フヘシ

- 一 水火震災其他ノ變ニ乘シ竊盜ヲ犯シタルヤ否ヤ
- 二 門戶牆壁ヲ踰越損壞シタルヤ否ヤ

三 鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入りタルヤ否ヤ

四 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉送セシメタルヤ否ヤ

五 臨時暴行脅迫ヲ爲シタルヤ否ヤ

六 兇器ヲ携帯シタルヤ否ヤ及ヒ其種類

七 親屬(刑法三百七十七條ニ掲)ノ犯罪ニ關セサルヤ否ヤ

八 二人以上ナリシヤ否ヤ及ヒ既遂ナリヤ否ヤ

(本項ノ六ニ於テ兇器ノ種類云々トセシハ元來兇器ニ二種アリ一ヲ性質上ノ兇器ト云ヒ一ヲ使用上ノ兇器ト云フ性質上ノ兇器トハ兵ハ凶器ナリト稱スルモノニシテ刀劍槍銃砲等ノ類ナリ使用上ノ兇器トハ諸種ノ庖丁鐵棒其他荷モ使用上人ヲ害スルコトヲ得ルモノハ寸鏡ト雖モ之レニ合入ス而シテ此二種ノ器具ニ付犯罪ノ目的ヲ遂ケントスルニハ其情狀ノ差異ナシト雖モ審問上証明ノ責ニ於テ使用上ニ關スルモノハ其目的ノ如何ヲ檢察官ヨリ証明セサルヘカラス(被告ハ棍棒ヲ携ヘテ竊盜シタルモノナリ此場合ニ於テ其棍棒ノ兇器ナルヤ否ヤハ其使用ノ目的ヲ証明セザレハ其理否判スヘカラス何トナレハ檢察官ハ之ヲ以テ兇器ナリト論告スルモ被告ニ於テ押奪物品ヲ擔荷スル爲ニ持行キタリト証明セハ如何トモスヘカラス)ハナリ故ニ使用上ノ兇器ハ直ニ其場ニ於テ其目的アル所ヲ証明スルコトニ注意セサルヘカラス)

檢證調書

明治何年何月何日午前(後)何時何郡(區)何町(村)何番地何某ヨリ窃盜被難ノ件届出ニ依リ本職ハ其檢證トシテ明治何年何月何日何時犯所乃チ被害者家宅ニ臨檢シ家主某ヲ爲立會賊ノ忍ヒ入りタル奥坐敷八疊ノ間ニ至リ見ルニ室中一面ニ泥鞋ノ痕跡ヲ留メ其押入ニ有之箆笥ノ錠前ヲ捻切り且ツ何々物品ノ散亂セシ模様ニ依テ賊ノ忍入りタル形狀判然タルモノトス元來同家ノ構造ハ南ニ面シテ間口何間奥行ハ何間ナリ四面ノ境界ハ表入口塀牆一面ヲ除クノ外三面茨樹ヲ以テ藩籬ト爲シ其境界ヲ四周セリ家外南面ニ沿フテ面積五坪有余ノ庭池アリ賊ハ西隣ノ垣ヨリ潛入シタルモノ、如ク方壹尺許ノ押排シタル跡アリ但之ニ用ヒタル器具及ヒ方法ハ判然セス其ヨリ直ニ此庭口ニ來リ六枚ノ端ニ締立テタル雨戸ノ中央下部俗ニ猿ト稱スル樞軸ノ所チ手ノ入ル丈ケニ穴ヲ穿テ猿チ外シテ戸ヲ押明ケ忍入りタルモノ、如ク而シテ其痕跡ノ模様ニ依リ使用シタル器具ヲ推測スルニ桶屋職カ使用スル回シ鉋ノ如キモノ、如ク最モ戶外ニ於テ圓形徑二寸許ノ戸板ノ切片ヲ見出シ之ヲ右穴ニ填スルニ啣着セリ而シ

テ賊ノ忍入りタル様側ヨリ室内ニ至リタル足跡ニ依テ其一人タルチ知ルチ得ヘク前顯奥坐敷押入ニ有之箆笥ノ錠前チ何々ノ方法器具ヲ以テ之ヲ毀壞シ衣類何点金圓若干竊取シタル事實ハ盜難届出ノ通知違ナキモノト認ム而シテ其犯罪ノ時ハ明治何年何月何日午後第何時ヨリ翌日午前何時マテノ間トス又々其所爲二人以上ニテ爲シタルモノニアラサルハ足跡及ヒ被奪物品等ニテ推知セラレタリ右檢証ハ明治何年何月何日午前第何時之ニ着手シ同何時ニ畢リ直ニ此調書ヲ作り其確實ヲ証スル爲メテ會人ト共ニ左ニ署名捺印ス

但シ出張先ニ付官署ノ印ヲ用フルイ能ハス

何府(縣)何警察(分)署在勤

警部(補)氏名印  
立會人氏名印  
全上氏名印

第十九節 火災罪ノ檢証

第七十五條 火災ノ檢証ハ放火ト失火トヲ鑑別シ左ノ事項ヲ檢證スヘシ

- 一 火ヲ發シタル原由場所及燒燬シタル家屋財産ノ數
- 二 人ノ住居シタル家屋亦ハ建造物ニアラサルヤ否ヤ
- 三 他人ノ廢屋又ハ山林ノ竹木田野ノ穀麥柴草肥料等ノ露積シタルモノナルヤ否ヤ及ヒ之ニ類スル物件貯藏ノ家屋ナルヤ否ヤ
- 四 船舶瀛車ノ火災ナレハ人ヲ乗セタルヤ否ヤ
- 五 自己ノ家屋ナリヤ否(人ノ住居シタルハ自己ノ家屋ト雖モ死刑ニ該當スルヲ以テ本項ノ自己ノ家屋トハ人ノ住居ナキヲ云フモノナリ)
- 六 平素火氣ノアル場所ナリヤ否ヤ

(放火ノ警報アルハ直ニ其場ニ出張シ事由ヲ取糾シ愈々放火ト認ムルハ被難人其他ヲ爲立會檢証ノ手續ヲ爲スヘシ火災官林ニ延燒シ亦ハ燒燬シタル事實アルハ先其燒失シタル木數及大小並ニ其場所ノ摸樣等詳細檢査スヘシ凡ソ放火ヲ檢視スルハ該家ノ住居人及ヒ隣人其他ノ見証人ヲ問ヒ火ハ家屋ノ何部分ヨリ發シ何々ニ燒移リ及放火ノ具ノ有無等ヲ詳細取調フヘシ)

出火報告書

明治何年何月何日午前(後)何時何十分持部内何町村巡視ノ際火事ト絶叫連呼スルモ

ノ有之ニ打驚キ四方ヲ睇視(凝望)セシニ巡行先ヨリ凡何町許リモ距リタル何町村邊ニ方リ猛火焰々ト立騰レリ依テ最寄何寺院ニ馳セテ戶外ヨリ出火ト付直ニ警鐘ノ相圖ヲ打ヘキ旨ヲ指命シ現場ニ馳付タルニ火炎ハ已ニ家屋ノ半面ヲ包ミテ火氣益々激セリ最モ消防トシテ駈ケ付タル拾數名ノ者共ハ猛火ノ間ヲ出沒シテ物品取出シ最中ナリ依テ本職ハ直ニ火焰ヲ冒シテ家中ニ立入り先ツ家族等ノ狼狽シテ逃途ヲ失ヒタルモノナキヤ否ヤヲ檢セシニ一人ノ老父同家奥坐敷ニ於テ若干ノ物品ヲ携ヘ火煙ノ下ニ逡巡スルヲ認メ之ヲ家外ニ誘出シ再ヒ入テ貨紙幣書類等ノ所在ヲ探檢セシニ火勢ノ身ニ迫ルニ會シ止ムヲ得ス若干書類ヲ持出シテ家外ニ出タリ時ニ火ハ既ニ屋上ヲ掩フテ復タ近ツク能ハス且ツ消防夫モ多勢駈付タルニ付其混雜ヲ豫防スル爲メ四邊監守中幸ヒ風モ無之本宅一棟物置一戸燒失ノミニテ鎮火セリ依テ被難人ニ發火ノ理由ヲ尋問セシニ右ハ何町何番地何某ノ居宅ニシテ火ハ兼テ物置ノ内ニ積ミ置キタル藁ヨリ發出セシ旨申立ツルニ依リ更ニ其原由ヲ取糾シタルニ全日何時頃藁灰若干ヲ物置ニ移セシニ火氣末々全ク消滅セサリシ爲メニ發火セシモノナラント陳供セリ

最モ自燒人何某ハ當町内中等以上ノ資産家ナルヲ以テ爲メニ差當リ生計ニ困難ヲ來  
スカ如キ事ハ無之カルヘク候右出火ニ付近傍ノ町村ヨリ消防夫幾組出場セシモ別段  
紛擾モ無之無事退散致候  
右不取敢及報告候也

何府(縣)何警察署部内何町村駐在

明治何年何月何日

巡 査 氏 名 印

何 警 察 (分) 署 長

警 部 (補) 氏 殿

出火檢視調書

明治何年何月何日午後第何時何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地何某方ニ於テ過テ火ヲ  
失シ本宅及ヒ物置各一棟燒失ノ趣届出ニ依リ本職檢視トシテ何月何日出張被難者及  
其關係人ヲ會同シ檢視スルニ左ノ如シ

一 現場

右何某家宅ハ何町村ノ南端ニアリ其居宅敷地ハ間口何間奥行何間ニシテ四而已  
ニ焦土ニ化シ去リ疎煙點綴ノ間ニ燼柱燼梁ノ算ヲ乱シテ横ハルヲ見ルノミ

一 火原

同家物置ノ隅ニ豫テ積置キタル藁ヨリ發火シタル由ニテ其原由ト思料セラルハ  
ハ何月何日午後何時頃藁灰ヲ同所藁ノ傍ニ移シタル趣ニ付右藁灰ノ火氣カ消失  
セスシテ自然積置キタル藁ニ薰蒸シ爲メニ發火セシモノト認ム

一 發火時刻及ヒ其原由

明治何年何月何日ノ夜何時頃ニシテ原因ハ過失ナリ

一 發見人ノ申立 (詳細ニ取調ヘ訊問体ニ記載スルモ  
ノナリ但シ其實地ヲ知ルカ爲ナリ)

一 自燒人ノ申立(同上乃チ過失ノ理由)

一 自認

右檢視ハ明治何年何月何日午前(後)第何時ニ着手シ全何時ニ結了シ其確實ヲ証スル  
爲メ立會人ト共ニ署名捺印ス

何府(縣)何警察(分)署在勤

警部(補)代理 氏名印

立會人氏名印

立會人氏名印

(本條ノ書類ハ全ク行政檢視處分ニ係カルヲ以テ書類ノ記載モ之レニ倣ヘタリ故ニ檢視ニ關スル始末書及跡片付請書圖面等便宜關係人ヨリ差出シムヘシ)

第二十節 決水罪ノ檢證

第七十六條 決水ノ檢証ハ故意ト過失トヲ判別シ尙ホ左ノ事項ヲ取調フヘシ

- 一 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタル場所及ヒ模様
- 二 人ノ家屋建造物ヲ漂失シタルヤ否ヤ  
但シ人ノ住居シタル有無ヲ分ツヘシ
- 三 田圃礦坑牧場ヲ荒廢シタルヤ否ヤ
- 四 人ノ便益ヲ損シ己レノ便益ヲ圖リタルヤ否ヤ
- 五 水利ヲ妨害シタルヤ否ヤ

第二十一節 船舶覆沒罪ノ檢證

第七十七條 船舶覆沒ノ檢証ハ覆沒ノ原由ヲ取調ヘ尙ホ左ノ條件ヲ查明スヘシ

- 一 船舶毀損ノ場所及模様
- 二 衝突ノ形狀
- 三 暗礁其地障礙物ノ有無
- 四 風波及雨霧ノ有無
- 五 號笛ヲ發シタルヤ否ヤ
- 六 目標ノ點燈アリタルヤ否ヤ
- 七 蒸氣ノ度數及迅走ノ度噸數
- 八 死傷者アルヤ否ヤ
- 九 乘客ノ員數及荷物ノ量數

第二十二節 家屋器物及ヒ動植物毀壞罪ノ檢證

第七十八條 家屋物品ノ毀壞又ハ動植物毀損ノ檢証ハ故意ト過失トヲ判定シテ左ノ事



- 一 家屋建造物ノ位置及構造ノ精粗
- 二 牆壁園池ノ裝飾ヲ毀損シタル摸樣
- 三 田圃ノ範圍牧場ノ柵欄ヲ毀損シタル摸樣
- 四 稼穡竹木其他ノ植物毀損ノ摸樣
- 五 牆壁ハ家屋ニ屬スルヤ否ヤ植物ハ需用ニ屬スルヤ否ヤ
- 六 物件(土地境界ノ物件)毀壞移轉又ハ器物書類毀棄滅盡ノ形狀
- 七 園圃ノ廣狹植物ノ多寡
- 八 牛馬其他ノ家畜ヲ殺害シタル摸樣

檢視證一斑終

附錄常用辭解

編者カ所藏ノ古書ニ於テ左ノ辭解ヲ得便宜上之ヲ此書ノ末尾ニ抄錄セシ處文章上多少ノ利益アラント思考シ附錄トシテ其儘印刷ニ付スルコト、セリ讀者之ヲ諒セ

辭トハ) コトハツ(敢テ) 果敢トツ、キテ物ヲフンキ(激) 水ノ岩ナトニアタリテカヘルカ  
 (那ハ) アノ、カノ、ノキミニテアノ(其ハ) 事物ヲ指シテ云フ意ニシテ彼レ(之ハ) 物ヲ指シ  
 語ナ(而シテ) 之ヲ平解セハマタ其跡ニ言フコトカアル意ニシテ詞ヲ屬シテ余意ヲモタ  
 リ(而シテ) セル轉折ノ場合ニ用エ(轉折トハ屏風ノテウツカヒノコトクニシテ  
 折レテハナレサル所ニ而字ヲ受(則ハ) 上ノ意ヲウクル助字ニテナレ(哉ハ) カナトヨメト  
 ケテ以テ結ヒ付ケルモノナリ) ハナラハスレハト云フ意ナリ(哉ハ) モ開エニクシ  
 此ハナア、ノウウノ心ニテ何トシタル(因ハ) モトニスルワケカアルナリ(飯合) 通常ハソ  
 カナアトイキチ引テ云フキミナリ(因ハ) ハソウシタコトカアルト云フ意(レニ付テ  
 ト譯シテ彼レニ係テ此ニ(由ハ) ヨリテ、ヨツテ、ニシテコレニ付テト譯シテ(故ハ) ソノ  
 坐ルキニ用フルモノ多シ(此ニ須テ而シテ彼ニ届クルヲ云フ意ナリ(是故ニ) 發語端  
 ト譯シ乃チ其モトノ實ヲ舉(乃チ) ソコテ、ソレカ、ソレテ、ソレハ、ト云(是故ニ) 發語端  
 ケテ言ヒトカスコトハナリ) フ意ニシテ下ヲ受クルコトハナリ(是故ニ) 發語端  
 ナル辭(故ニ曰ク) 乃チ是レムカシヨリアルモノ(所以ハ) ワケト(且ツ) マア、ソノウヘ、シ  
 ナリ(故ニ曰ク) 乃今舉テ之ヲ説クキミナリ(所以ハ) 云フ意(且ツ) ハラシ、ト云フ意

ニシテ假令ハ他所ニ行クニマア茶ヲ  
 吞ミテ後ニ行クヘシト云フ意ナリ (以テ) フルト訓スルコトアリ (或ハ) モシモ、モシ  
 フ意ニシテ (然リ) ソウ、サヤウ、サテ、ソウアツテ、サレハ (然後) ソウシテ (然リト雖モ)  
 疑ノ辞ナリ (然リ) 其ノ此ノ如クナルヲ許スコトハナリ (然後) ソウシテ (然リト雖モ)  
 ソウアレト云フ意ニシテ上文ノ意ヲ受ケテ (然ラハ則) ソウナ (然而シテ) ソウシ (不然  
 ナイ) (以上三語ハ上文ノ意ヲ承ル詞也) (蓋シ) オホカクダブ (即チ是レ大凡ノ意ニシ  
 非道理ヲ得テ普ク平ニ其) (蓋シトハタトイハ器物ニ桃ト李トヲ入テ數カ大カタ幾ツア  
 事ヲ議論スルモノナリ) (ラントフクヲシナカラノ大ツモリニシテコレ見スニハカル  
 カ放ニ疑) (大抵) 大ツ (大抵トハ通常至ル所ニ及フトノ意ニシテ前例ノ桃) ソレ、ア  
 ノ意アリ (大抵) モリ (李ヲ數フスルニ蓋シ明ケテ見タ上ノ大ツモリナリ) (夫レ) ソレ、ア  
 カノ之ヲ發言ニ用フルハ發端ニ何カ一物ノ云フコトヲ云ヒ出サントシテ用フ (今夫) ト  
 ルコトハナルニヨリ只タバツト用フヘカラヌ乃チ其事ヲ客ニシテ用フヘシ (今夫) ト  
 即今ノ事意ヲ論シテ (且夫) トハ寬遠ヨリ説キ (原夫) トハ其本因ヲ推究 (故夫) トハ因ル  
 而シテ言フ事ナリ (且夫) 來ルコトハナリ (原夫) シテ言フコトハ (故夫) 所アルチ  
 云 (蓋夫) トハ大凡チ (嗟夫) トハ咨嗟慨歎シテ言フコトハロニシテ歎息ノ (嗟フ) トハ即チ  
 フ (蓋夫) 以テ言フ (嗟夫) 聲ノ外ニキコユヌキミナリ嗟呼モ亦相類ス (嗟フ) トハ即チ  
 此時ニ到リ得 (況夫) 此レ更ニ別人物別事理ヲ將來テ前ノ説クト相形比ス形比トハ俗  
 ルノ意ナリ (況夫) ニタケクヲト云フコトニシテ假令ハ誰レハ十三才ニシテ高等小學  
 校ヲ卒業セシニ汝ハ十五才ノ (況ンヤ夫) トハ則チ句端チ更メ況ンヤ於テヲヤトハ則  
 上ヲ越テチヤト云フキミナリ) (ナ句ニ就テ轉ス夫ノ字ハ意ユルヤカコシテ浮テアカリ

於テノ字ハ意切リツラヌ (若夫) 發語ナルユエヒカラスクニ若シ夫レトヨメトモ意ハ下  
 ヤテキヒシ訓訓亦同シ (若夫) カラカヘル心ニ見ルヘシ而シテ其言フ所ハ別事別意別  
 名ノ件ヲ指テ此文中ニ入ラント欲スル (甚矣) 此ノ二字ハ句ノ首ニ在ルモノハ下ノ文ノ  
 カ故ニ此ヲ以テ轉折シテ喚起スルモノ (甚哉) 事物ヲ甚ク揚言セント欲スルカタメニ先  
 ツ此ヲ以テ (既而) 已而トハハステニモウト云フ意ニシテ過去ニ屬シ既而トハモハヤト  
 語ヲ發ス (已而) シト云フ意ニテ過去ノ遠キモノニシテ其事ノ終リヲ告ケタルモノ  
 ナリ且ツ既トハ將來ニ對スル詞ニシテ已トハ未ニ對スルノ詞ニシ (方) 古來ミサカリト  
 テニツナカラ其事此ノ如シ了テ今即チ此ノ如シト云フモノナリ (嘗謂) ヲカシヨリ云フトヨム未  
 サイテウノ時ヲ指ス方サニ今ナト、云フ意同シ即チ (嘗謂) ヲカシヨリ云フトヨム未  
 チリカラノキミニテ其トウ (シタ) チリカラナリ (嘗謂) ヲカシヨリ云フトヨム未  
 嘗テハアヤハヒチ知ラヌコト即チナメサルコトニテ未 (當時) ソノカミトヨマセテ古ノコ  
 タ曾テトハイママテナメツケヌモノト云フ意ナリ (當時) トニ云ヒ用ユレハサニハア  
 ラスソノヲリト云フコトニテ古今ニ拘ハラヌ何 (嗚呼) ナケクコトニモホムルコト (嗟  
 ニテモ其コトアツタヤサシテ云フト知ルヘシ) (嗚呼) ニモ用ユトカク歎息ノ辞 (嗟  
 歎) 嗟ハア、歎ハナケクト訓スレカナシムニモ又ホムルコトニモ用ユ長息ツクナ  
 ナ (嗟) 嗟ハ哀痛ノ聲又傷恨ノ意ト爲ス即チ其下ニ在テ言フ所ノ事ヲ傷ム或ハ篇末ニ一  
 ナ (噫) 噫ハ哀痛ノ聲又傷恨ノ意ト爲ス即チ其下ニ在テ言フ所ノ事ヲ傷ム或ハ篇末ニ一  
 (或曰) 文中ニ多ク他人ノ言ヲ假作シテ而 (借問) カリニ言フト云フ心ニテトクニ (何則)  
 シテ答フルニ己レカ意ヲ以テス (借問) 言フハ實ハコソ己レノキミナリ (何則)  
 ナントナレハトウ (何者) トウナレハ (何也) ドウヂ (是何也) ソレハトウ (何  
 ナレハイカナレハトウ (何者) トウシタ (何也) ヤカ (是何也) ソレハトウ (何

(覆) トウチ (何以) ナン (何如) ドウ (如之何) ドウシ (以上ハ文中自問ノ詞ニシテ其 (惡ア))  
 ヤナア (何以) ナン (何如) ソ (如之何) タコト (下文ヲ引キ來タス所以ナリ)  
 イヤト云フキミニテ肝ヲツアツ腹立(イツクンソトヨムキハトコ) (猶) 左傳ナトニ尙猶ト  
 マキレニ旨直クシテ事切ナル心ナリ(テドコニト云フキミナリ) (猶) ツケタルコアリ  
 尙ハサヘ猶 (左傳ニクサキ物ヲ一所ニ置ケバ十下タツテサヘマタクサシト云フコナリ  
 ハマタナリ) (猶) シサシト云フ又尙ハクシラブルト云フ意モアリテ歌ナトニソレサヘアル  
 ニナト、用ル(母) 禁止ノ詞ニシテ書ニ云フ女中一直チ加フ其姦邪ヲ爲スコナカレト  
 ノ夫ノ字ナリ(母) 禁スルノ意ニシテ又無ノ字ニ通用シ即チ無友不知己者ハ一例ナリ(惟  
 唯維) 皆專ラノ意ナリ又其字形ニ因(惟ハ心ニ從フ心ノ專ナルモノ唯ハ口ニ從フ語ノ專  
 字通用シテ俗語只字ノ意アリ唯ハ應答ノ詞ニシテ別語ナキカ如ク惟ハ思ト訓シテ亦心  
 ヲ以テ此ニ著ケテ而シテ別念ナシ維ハ舟是(抑) 上チ承クルニモ用ヒ上) 抑トハ醫士カ脈  
 繫住シテ此ニアリト云フ要スルニ皆專ナリ(抑) ナウチカヘスニモ用ユ) ナ診スルニ指ヲ  
 以テ按抑スルカ如クツツトオサヘテ(豈) 反語即チ上ノ意ヲウチカヘ(反説シテ以テ其意  
 トクト其根チミキハムルキミナリ) (豈) スニ用ルカ其字ノ正意ナリ(ヲ見メスモノナリ  
 (焉也會) イツクンソノキミニテ(凡) スベテ一概ニ總(豈) モシモノキミニテ若(必ス) 然  
 然ルニアラサルノキミ(凡) ヘ説クノ意ナリ(豈) シ還タノ説又ハ意(必ス) 然  
 決定シテ易ハ(已) ヤムトヨム(此) コレ(彼ニ對シテ以テ其敵) コノ(非ニ對シテ以テ  
 ラサルノ意) (已) カ本義ナリ(此) コノ(ヲ舉クルヲ云フナリ) (是) コノ(其實ヲ舉クルヲ  
 云) コノコレコ、ニ、(其條紀アル) (茲) コノ、コレ) コノハシ(之ヲ指テ以テ我地) (宜) ペ  
 フ(斯) コノスヂト云フ (者ヲ斯ト云) (茲) コノ、コレ) ヲト云フ(位ニタツルヲ云フ) (宜) シ  
 ハベ(モツトモ) 宜ハ之ヲ擇ミテ而シ(當) マサニ(ソノハツ) 當リマヘハカウナ(須) スヘ  
 ナリ(ヤト云フ) 之ヲ判スル辭ナリ(當) マサニ(ソノハツ) 當リマヘハカウナ(須) スヘ  
 ク(セヨト) 須ハカウスルカ、ヨ(緣) ヨリ (ツキマドフト云フ意ニシテソ) (亡) ナシ  
 シ(云フ意) ロシト命スル辭ナリ(緣) ヨリテ (レニヨリテソ) フテ行ク意ナリ(亡) ナシ  
 ナリタト(冀) ナシ、モウ(幾) ハツト云フコトハニシテ其事ノ(殆ント) トハ百ノモノハ  
 云フ(冀) ナイト云フ(幾) ナリカ、リテアル急ナル勢ナリ(殆ント) トハ百ノモノハ  
 ヤリテアルト云フ(乃) ソコ(但) 外ノコトヲ(當) ソレノミカ(只) ハカリト云フ  
 フナキハシヨナリ(乃) ソコ(但) ケテト云フ意(當) ト云フ意(只) 意ナリ

明治廿二年十二月廿五日印刷

明治廿二年十二月廿七日出版



編述者兼  
發行者

東京府北豐嶋郡野川村  
元西ヶ原三百六十七番地

佐藤亮信

印刷者

東京市神田區西今川町  
三番地

山本新吉

2/36

18
103

